

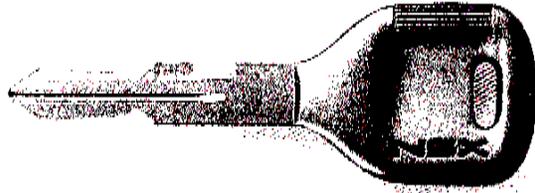
HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2-1-1

HONDA  NSX

NSX

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、ホンダ
ベルノ店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「整備手帳」の
“ホンダのサービス網一覧”をご覧ください。





キーナンバー：

このたびはホンダ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この本は、**NSX** の取り扱いについて必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

名称	型式	エンジン型式	排気量 (cm ³)	乗車定員 (名)	車体形状
NSX	E-NA1	C30A	2,977	2	2ドアクーペ

●この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明し、
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

●「安全ドライブのための必読6ポイント」や、下記マークのところは重要です。しっかりお読みください。



- 運転はルールを守り、マナーよく。
 - ・シートベルトを締めましょう。
 - ・法定速度を守りましょう。
 - ・子供やお年寄りをお取り扱いしましょう。
 - ・駐車時は、ルールに従いましょう。
 - ・迷惑運転はやめましょう。
 - ・自然環境保護に気をくばりましょう。
- 安全、快適にご使用いただくために、点検整備は必ず行ってください。
- ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
- 取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともに、いつもお車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために、この本を車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車とが一致しない場合がありますのでご了承ください。

名称別目次

動作別目次

万一のときの目次

安全ドライブのための必読6ポイント

1. 車を運転する前に

- 各部の説明 30
- 走行前点検 33
- 各部の確認 44

2. 車を運転するとき

- メーターのはたらき 50
- 表示灯、警告灯 52
- スイッチの使いかた 57
- エンジンのかけかた 64
- 運転のしかた 66

3. 安全装備

- SRSエアバックシステム
(運転席用シートベルト補強用補助装置) 76
- トラックコントロールブレーキシステム(TCS) 79
- アンチロックブレーキシステム(ABS) 79
- ブレーキパットの摩耗警告 80

4. ドライブを快適にする装備

- ヒーター・エアコン 84
- 室内装備品 88

5. 万一のとき

- 火災 104
- 故障したとき 105
- パンクしたとき 108
- バッテリーあがりのとき 114
- オーバーヒートしたとき 115
- ライト類が点灯しないとき 116
- 前照灯が点滅しないとき 120

6. 車の手入れ

- 6か月点検 124
- 簡単な整備 131

7. 車との上手なつきあいかた

- 純正部品 144
- 中にあった部品の使用 144
- 経年劣化の対処法 144
- 積雪・寒冷時の取扱い 145

サービスデータ

さくいん

E N T S

4

8

10

11

- キー ●ドアの施錠・解錠 ●パワーウィンド ●ギョレネット ●トランク ●エンジンルーム ●燃料補給口

①前日の置状箇所の点検 ②フロントコンソールメント、エンジンルームをのぞいて ③車のはしりを回りながら ④標高席にすわって

- シート ●シートベルト ●アルト/テレスコピックステアリング(上/下/前後調節式ハンドル) ●夜間鏡

29

- スピードメーター ●タコメーター ●オドメーター ●トリップメーター ●燃料計 ●水温計 ●時計計 ●油圧計

49

- 方向指示器表示灯 ●赤点警告灯 ●SRSエアバッグシステム警告灯 ●トランクコンソールシステム警告灯
- クルーズコントロール作動表示灯 ●排気温度警告灯 ●ブレーキロック/パワーステアリング警告灯 ●エンジンオイル
- 前照灯の向上表示灯 ●油圧警告灯 ●エンジンロックブレーキ(ALB)警告灯 ●警告灯の点検切替の点検
- ヒールドリフトシステム表示灯 ●PGM-OFF警告灯 ●トランクコンソールシステムOIL表示灯
- 燃料残量警告灯 ●ブレーキ警告灯 ●トランクコンソールシステム作動表示灯

- エンジンスイッチ ●前照灯昇降スイッチ ●非点滅減光スイッチ ●リヤウインドスタースイッチ ●トランクコンソールシステムスイッチ
- ライトスイッチ ●方向指示器スイッチ ●ワイパー/ウォッシュャースイッチ ●イルミネーションコントロールマツ ●フォグライトスイッチ

- 駐車ブレーキ ●エンジンのかけかた

- ファンレバーの操作(マニュアル車) ●ブレーキペダルの操作(オートマチック車) ●オートマチック車の運転のしかた ●クルーズコントロール

77

- 吸気出口開閉ダイヤル ●オートエアコン

- AM/FM 休式CD・カセットステレオ ●時計 ●灰皿 ●小物入れ
- オーディオの上下なげいかた ●室内灯 ●シガレットライター
- アンテナ ●照明灯 ●サンバイザー

83

- 格納場所 ●工具

- 高速道路で故障したとき ●踏切で動けなくなるとき ●発炎筒について ●故障の修理について ●付入引について

- ジャッキについて ●緊急用スペアタイヤ(折りたたみ式) ●タイヤ交換

- バッテリーの充電

103

- ホイールの交換 ●ブレーキ(バルブ)の交換

- 点検項目

- エンジンオイルの補給 ●バッテリー液の補給 ●タイヤの位置交換(タイヤローテーション) ●内装の手入れ
- 冷却水の補給 ●バッテリー端子部の清掃 ●エアクリ・ナラ紙部(エレメント)の交換 ●アルミホイールの取り扱い
- ウォッシュ液の補給 ●クラッチ液の補給 ●ワイパーブレード/ラバーの交換 ●エアコンの手入れ
- ブレーキ液の補給 ●トランスミッションオイルの補給 ●冷却水の入れ ●冬期の整備

123

- 走行前の点検について ●ドアの締結について ●滑りやすい路面について ●バンクについて ●駐車ブレーキについて
- スノータイヤ、タイヤチェーンについて ●ワイパーについて ●ブレーキについて ●雪道走行後の手入れについて ●駐車方法について
- 車の積荷について ●車中について ●雪の積りについて ●駐車中について ●格納について

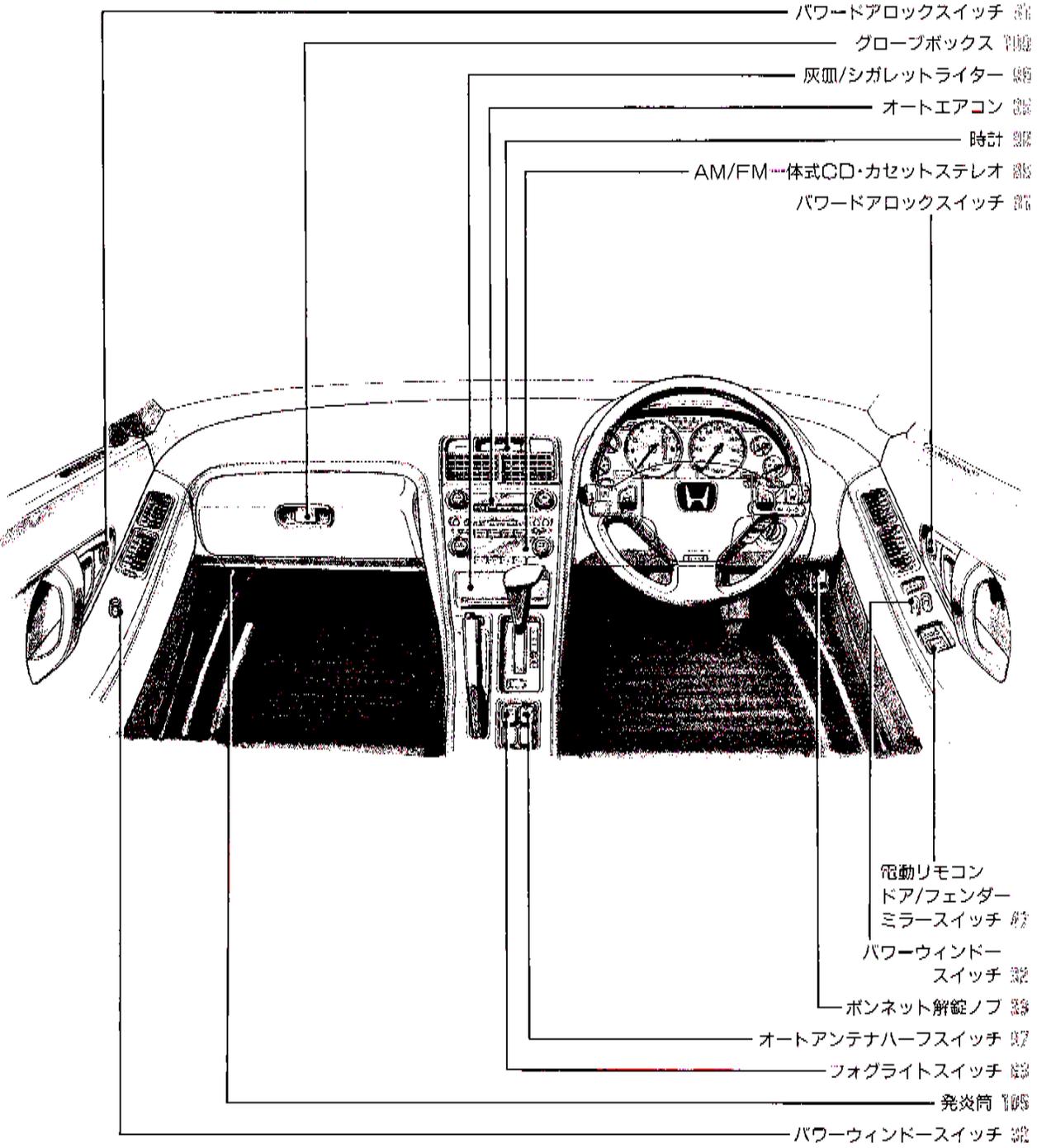
143

148

152

非常点滅表示灯スイッチ 60
 リヤデフロスタースイッチ 62
 トラクションコントロールシステム(TCS)スイッチ 62
 メーター 50
 前照灯昇降スイッチ 59
 イルミネーションコントロールツマミ 62
 クルーズコントロールスイッチ 78
 ライトスイッチ 58

 方向指示器スイッチ 60
 エンジンスイッチ 57
 クルーズコントロール操作スイッチ 73
 チルトステアリング調整レバー 48
 テレスコピックステアリング調整レバー 48
 ワイパー/ウォッシャースイッチ 81



パワードアロックスイッチ 96

グローブボックス 96

灰皿/シガレットライター 96

オートエアコン 96

時計 96

AM/FM一体式CD・カセットステレオ 96

パワードアロックスイッチ 96

電動リモコン
ドア/フェンダー
ミラースイッチ 97

パワーウィンドー
スイッチ 97

ボンネット解錠ノブ 97

オートアンテナハーフスイッチ 97

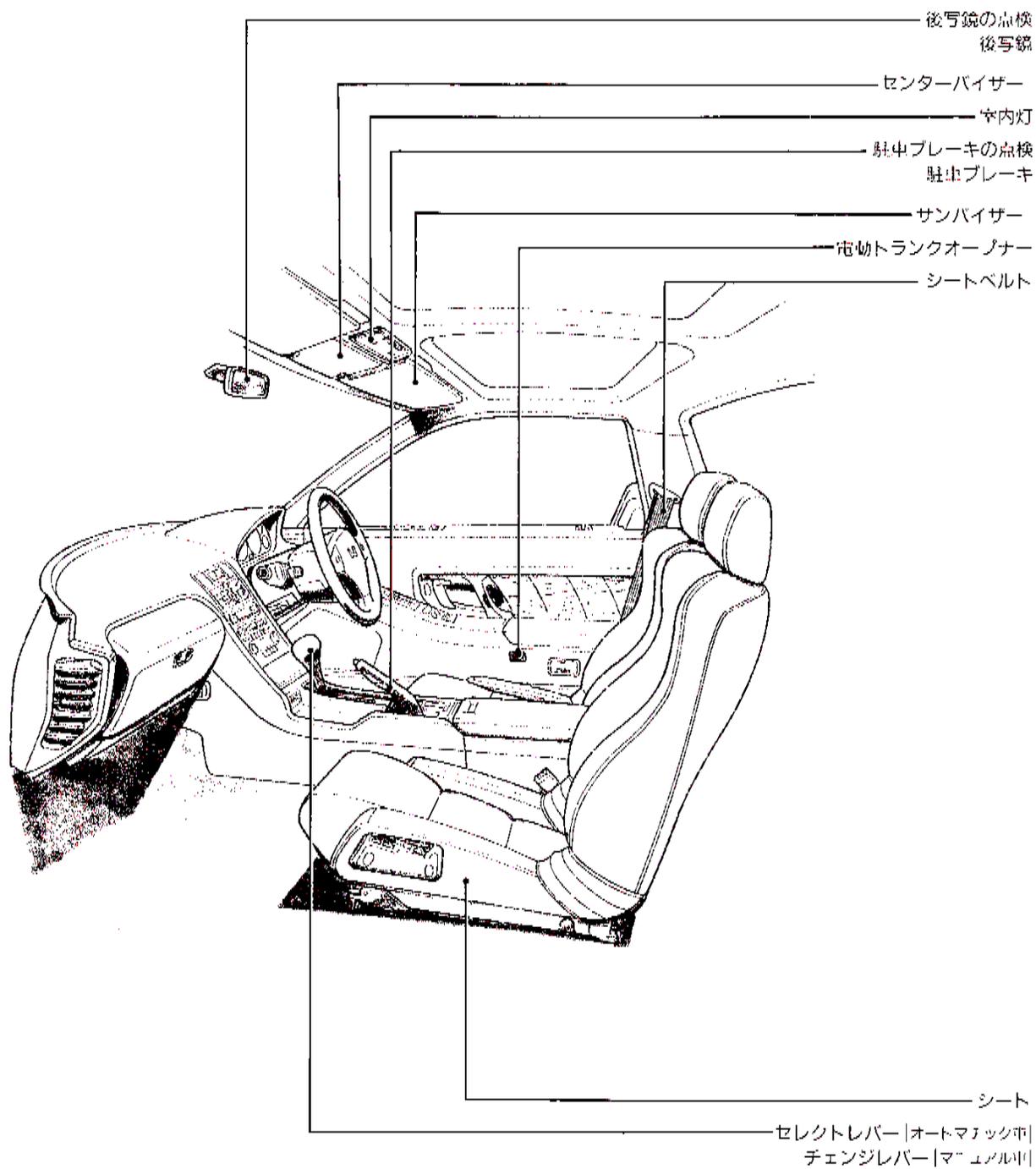
フォグライトスイッチ 97

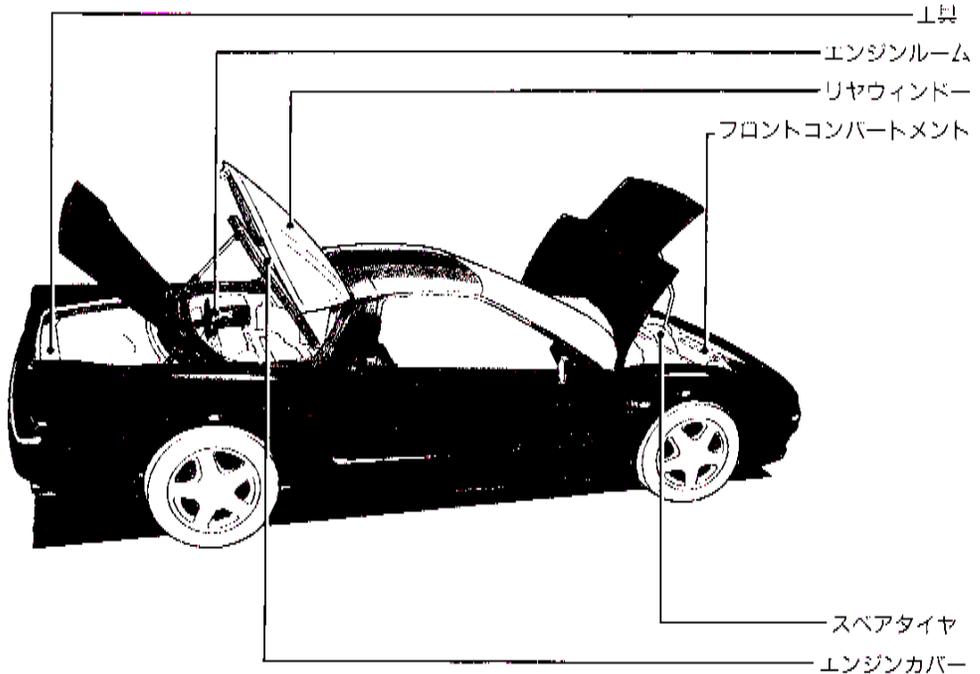
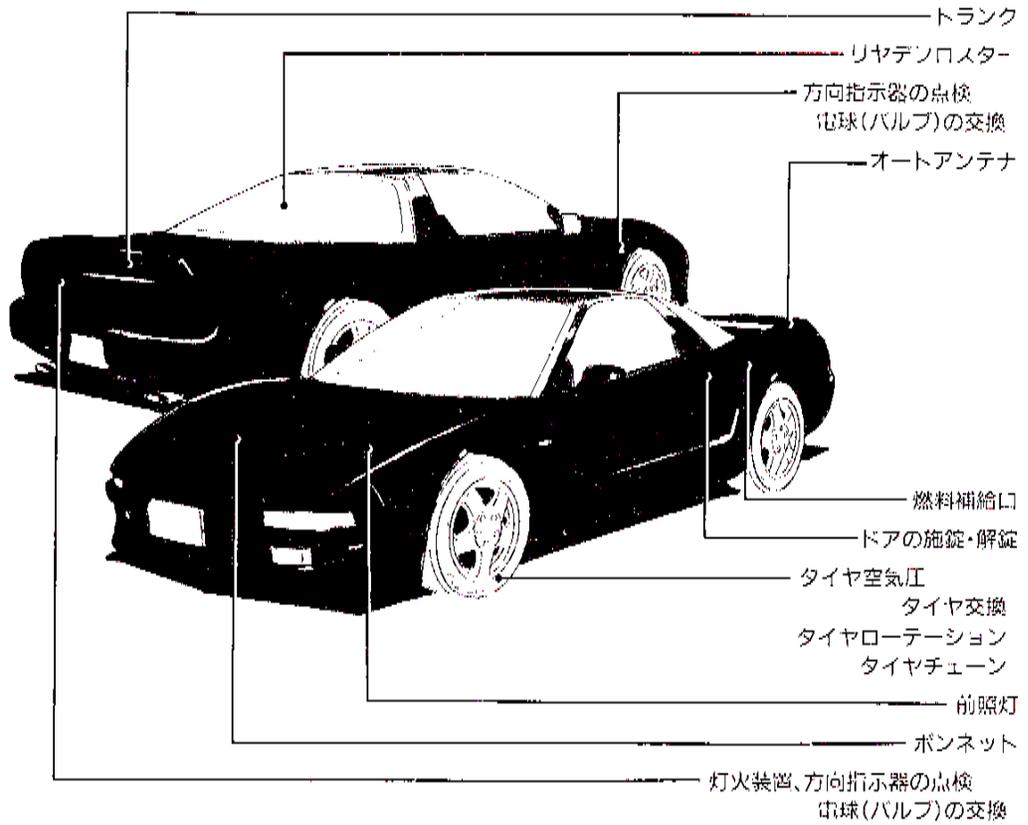
発炎筒 97

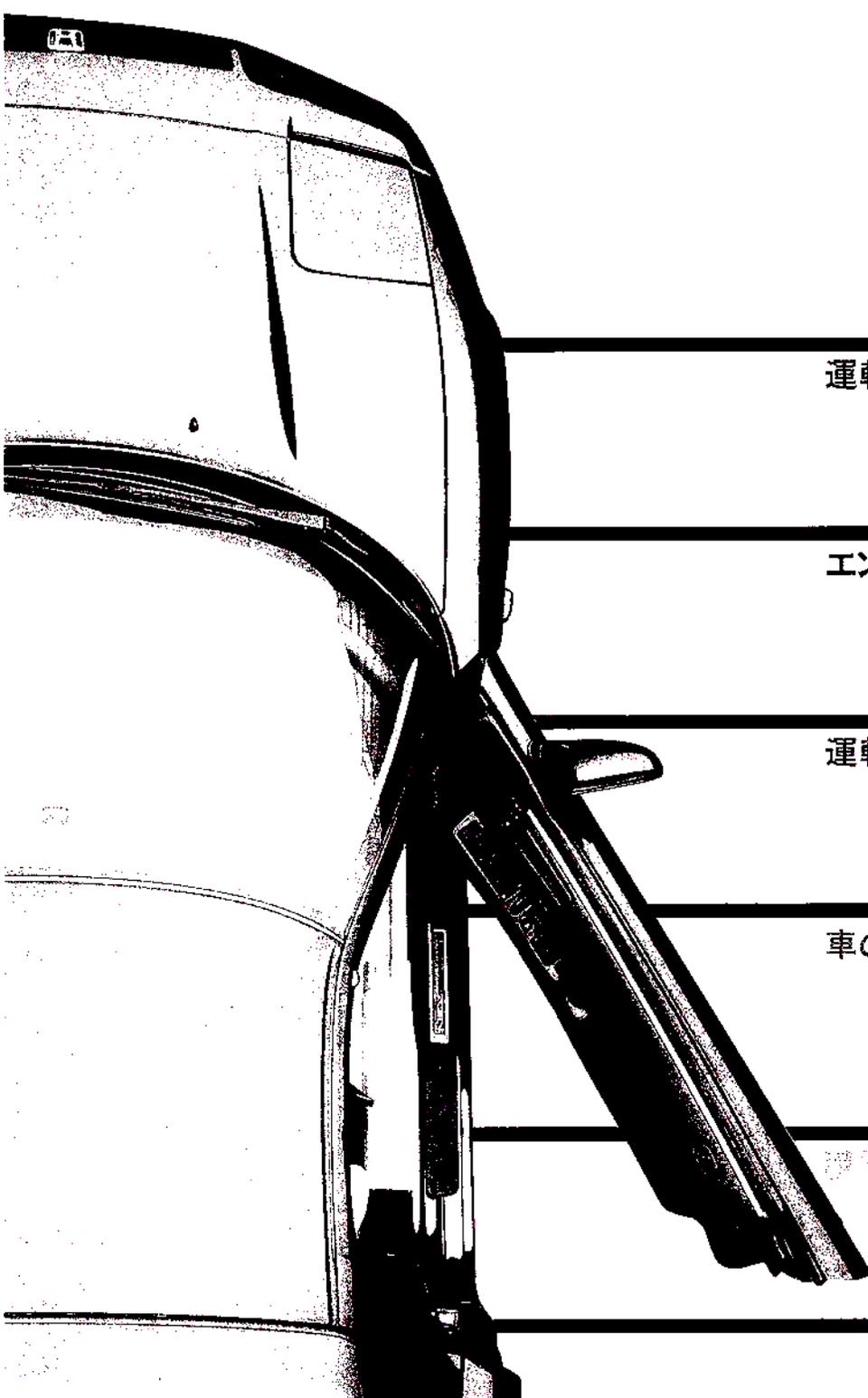
パワーウィンドースイッチ 97

名称別目次

名称別目次







運転前の点検

エンジンのかけかた

運転のしかた

車の手入れ

運転・駐車時の取り扱い

- フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて 37
- 車のまわりを回りながら 40
- 運転席にすわって 42

- エンジンをかける前に 64
- かけかた 64

- チェンジレバーの操作(マニュアル車) 66
- セレクトレバーの操作(オートマチック車) 67
- オートマチック車の運転のしかた 69
- クルーズコントロール 73
- 経済走行 144

- 6か月点検 124
- 簡単な整備 131
 - エンジンオイルの補給 131
 - 冷却水の補給 132
 - ウォッシャー液の補給 132
 - ブレーキ液の補給 133
 - バッテリー液の補給 134
 - バッテリー端子部の清掃 134
 - クラッチ液の補給 135
 - トランスミッションオイルの補給 135
 - タイヤの位置交換 136
 - エアクリナーろ紙部(エレメント)の交換 136
 - ワイパーブレードラバーの交換 137
 - 塗装の手入れ 138
 - 内装の手入れ 139
 - アルミホイールの取り扱い 140
 - エアコンの手入れ 140
 - 冬期の整備 141
- 純正部品 144

- 走行前の点検 145
- タイヤチェーンの取り付けかた 146
- 車の積雪、凍結について 148
- 走りかた 149
- 駐車のかた 149
- 格納のかた 149

 工具が必要なとき

 故障したとき

- 高速道路で故障したとき
- 踏切で動けなくなったとき
- 発炎筒について
- 故障の修理について
- けん引について

 パンクしたとき

 タイヤチェーンをつけるとき

 警告灯がついたとき

 ライト類がつかないとき

- ヒューズ交換のしかた
- 電球(バルブ)交換のしかた

 エンジンがかからないとき

- 正しいエンジンのかけかた
- ガソリンは
- バッテリーあがり

 バッテリーあがりのとき

 オーバーヒートしたとき

 セレクトレバーが動かないとき

POINTS

安全ドライブのための必読6ポイント

お出かけまえに	12
お子さまに正しいやり方	13
正しい知識で事故回避	15
オートマチック車の注意ポイント	18
酔いや疲労はしっかりと	23
こんなことには注意をしよう	25

お出かけまえに…

お出かけまえには点検を。
(36ページ参照)

- 安全・快適にお使いいただくために、ホンダの点検要領に従って必ず点検しましょう。



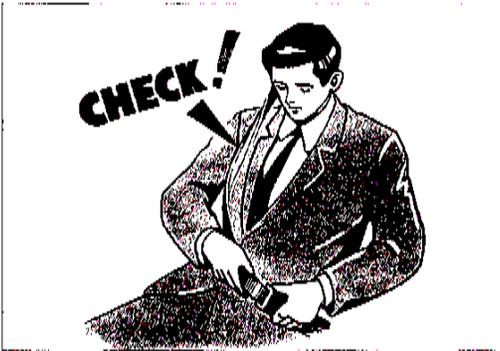
- 普段と違う点に気付いたら、ホンダベルノ店で、早めに点検を受けましょう。(音、におい、水・油もれ…)

シートベルトを正しく装着。 (45ページ参照)

- 運転する人はもちろん、助手席の人も装着しましょう。
- 腰骨のできるだけ低い位置に装着してください。



- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトが、くび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

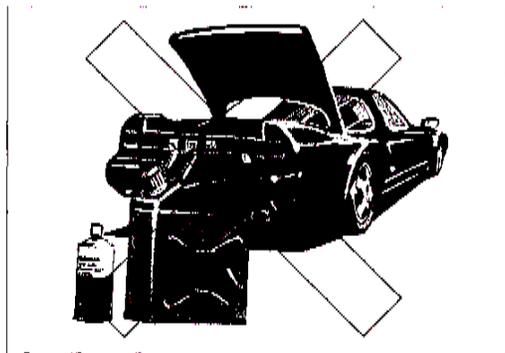


- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



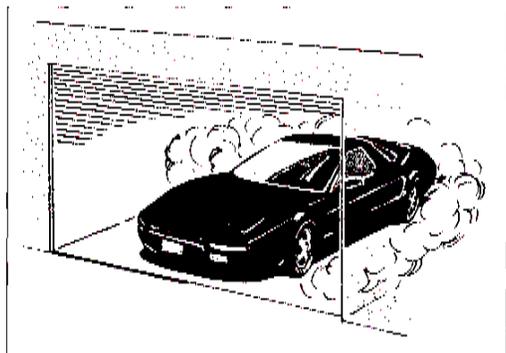
燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

- 万一の場合、引火、爆発のおそれがあります。



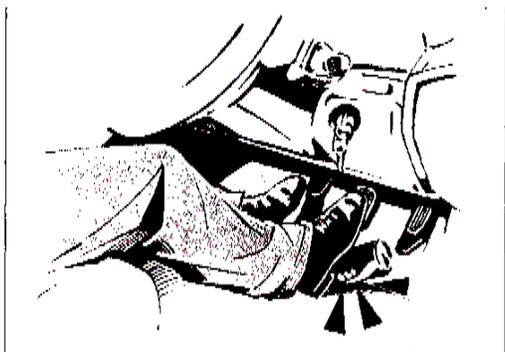
車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないで。

- 換気の悪いところでは、ガス中毒の危険があります。



運転席の足もととはすっきりと。

- 運転者の足もとに、物を置かないでください。
- フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。
- ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



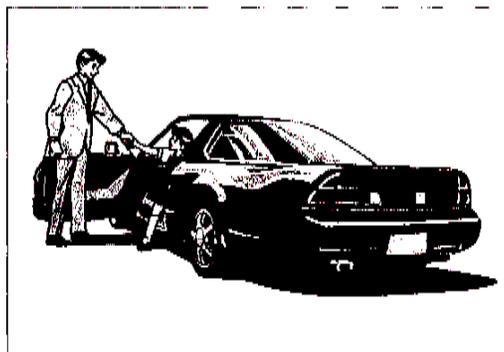
お子さまに思いやりを

ドア・ウィンドー・シートの操作は必ず大人が。

- 手、足、くびなどをはさまないように、気をつけてください。
- パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。
〈32ページ参照〉
- 走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。
 - ・ 思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

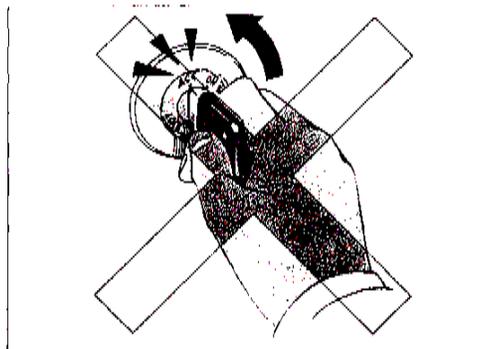
車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

- おいさまだけを車内に残さないでください。
 - ・ 炎天下の車内は、高温になり危険です。
 - ・ おいさまのいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

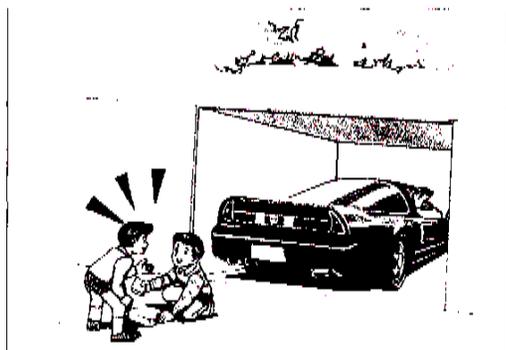


正しい知識で最適運転

- 走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
 - ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。
 - 走行中はエンジンを止めないでください。
 - ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
 - パワーステアリング装備率は、パワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。
- マニュアル車は、エンジンスイッチを“LOCK”にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。



- 車をバックさせるときには、子供や障害物に十分注意してください。
- バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



長い下り坂ではエンジブレーキを。

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。
 - 長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジブレーキを併用してください。
- オートマチック車は、DまたはMレンジを使ってください。特に強いブレーキ力が必要なときは、Dレンジを使ってください。
- *エンジブレーキとは、走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよくききます。



雨天時の走行には注意を。

- 雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため通常より注意深い運転が必要です。また、わだちなどの水のたまりやすい場所では、*ハイドロプランニング現象を起こしやすいので注意してください。
- このようなところを運転するときは、急加速・急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落とし安全運転に心がけてください。特に、摩耗したタイヤは、ハイドロプランニング現象を起こしやすいので十分注意してください。

*ハイドロプランニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。ブレーキのききが悪いときは、前後のうちに十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、経返しブレーキペダルを踏んでください。



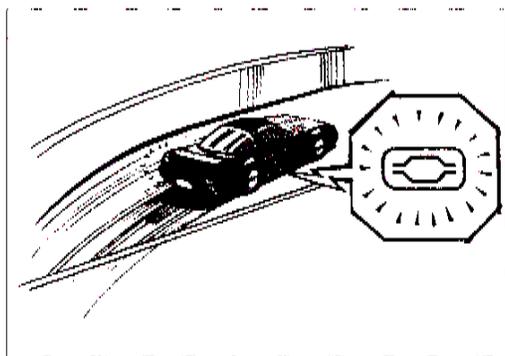
横風の強い日は。

- 横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げ、進路を立て直してください。
- トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通しなどでは、特に横風が発生しやすいので十分注意してください。

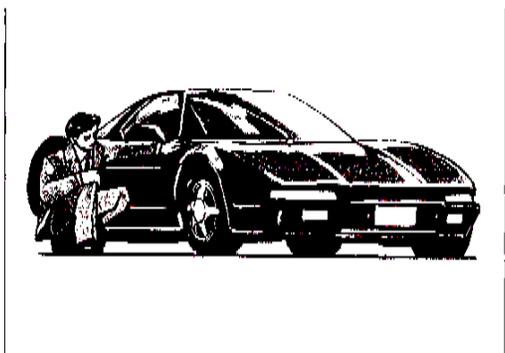


走行中異常があったら。

- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をして下さい。
(5Pページ参照)



- 走行中パンクやバースト(破裂)してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- ・急ブレーキは、ハンドルをとられることがあります。危険です。
- 床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。



オートマチック車の 注意ポイント

オートマチック中は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。

68ページの「オートマチック中の運転のしかた」もあわせてお読みください。

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリーブ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクタレバーがP以外に入っていると、動力が伝わった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリーブ現象といいます。

キックダウンとは

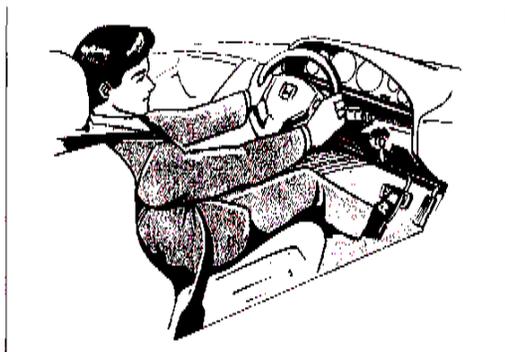
- 走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることが出来ます。これをキックダウンといいます。

ブレーキは右足で。

- ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
- 不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができず危険です。

エンジンをかけるまえに。

- ペダルの踏みまらがないのよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



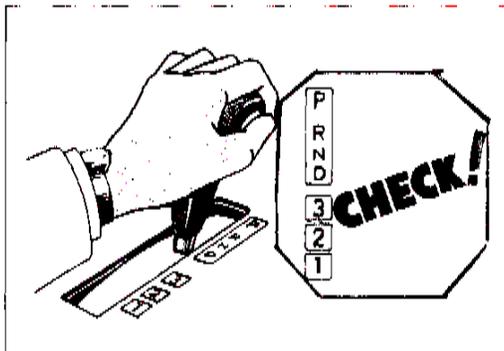
エンジンをかけるとき。

- 安全のため、セレクトレバ は駆動輪が固定される時にエンジンをかけましょう。



スタートするとき。

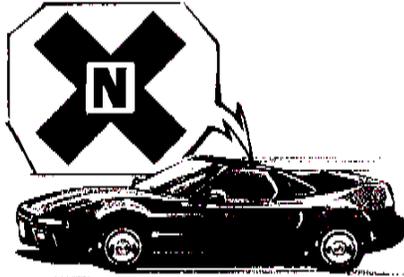
- 思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
 - ・急発進して思わぬ事故のもとになります。



- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
 - ・エアコン作動時も同じです。

走行しているとき。

- 走行中は、セレクトレバーをNにしないでください。
- エンジンブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。



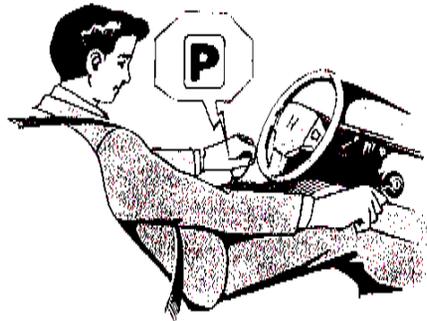
- 上り坂で、速さを保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。アクセルペダルは、慎重に操作してください。
- 下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。
- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

停車しているとき。

- 停車中の空ぶかしは、やめましょう。
- 万一、セレクトレバーがP/N以外するとき、思わぬ急発進のもとになります。

駐車するとき。

- 駐車するときは、セレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めましょう。
- 万一、セレクトレバーがP/N以外に入っていると、クリーブ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。

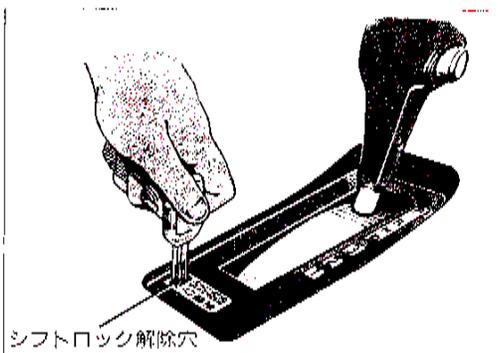


ほかに気をつけたいこと。

- 後退したあとは、すぐRからNにもどす習慣をつけましょう。
 - ・ちょっと後退したときなど、Rに入れたことを忘れてしまうことがあります。
- 前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。
 - ・車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちに、Nに入れないうちに入れないでください。
 - ・急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- ブレーキペダルを踏んでいないと、Rからのセレクトレバー操作はできません。
 - ・エンジンスイッチが、“ACC”または“LOCK”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
 - ・セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- N以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。
 - ・P以外では、キーが“ACC”から“LOCK”に戻りません。
- Nに入れるとチャイムが鳴ります。
 - ・セレクトレバーがRのときにチャイムが鳴り、Rに入っていることを運転者に知らせます。
 - ・車外の人には音が聞こえませんが、ご注意ください。
- キー、Nからセレクトレバーが操作できないときは:
 - ・エンジンスイッチからキーを抜き、
 - ・キーをシフトロック解除穴に差し込み、
 - ・キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。



駐車や停車はしっかりと

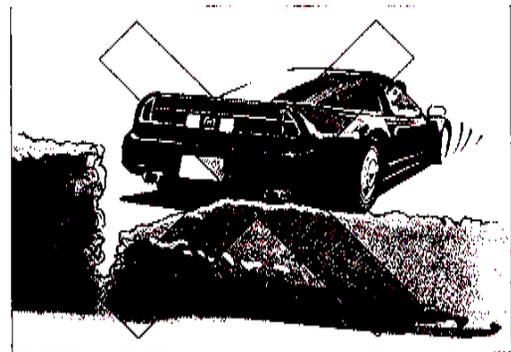
可燃物には注意を。

- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐車しないください。
- 排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



植込みなどにも注意して。

- 植込みなどの近くに駐車中するときは、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。



仮眠するときはエンジンを止める。

- エンジンを必ず止めてください。
- 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりした場合危険です。



車から離れるときには施錠を。

- 必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。
- 中内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- お子さまも連れていざましよう。



車の移動はエンジンをかけて。

- 車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。
- 下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

坂道での駐車は。

- 駐車ブレーキをかけ、チェンジレバ またはセレクトレバーを下表の位置に入れてください。

	マニュアル車	オートマチック車
上り坂	(1)	
下り坂	(R)	(R)
平地	(N)	(N)

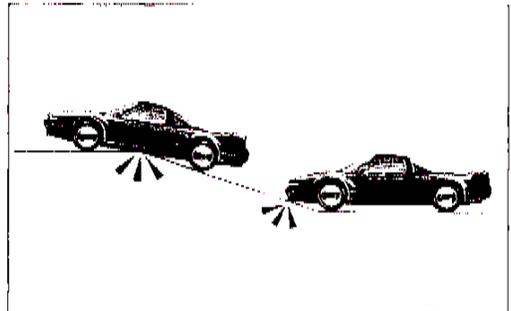
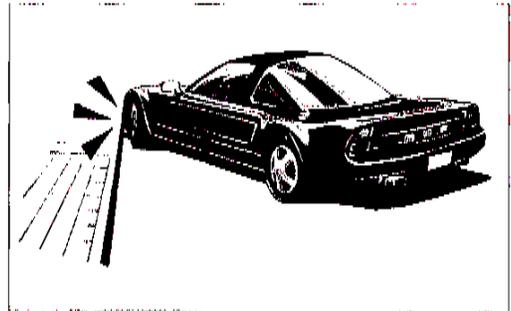
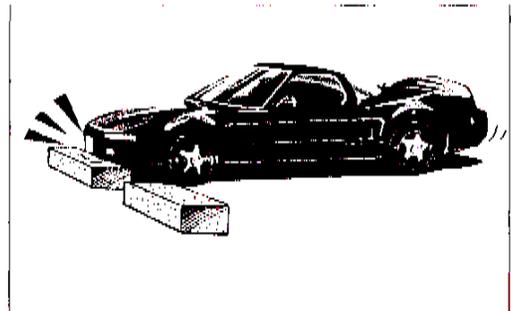
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

こんなことにも 注意をしよう

この中の特徴として、最低地上高が一般の中より低く設計され、タイヤも超偏平タイヤを装着しています。

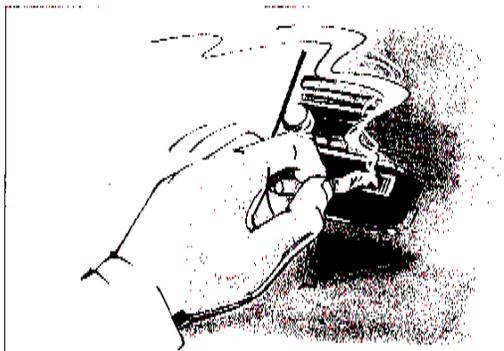
次のような場合には、フロントバンパー・マフラー・床下やアルミホイールを損傷するおそれがありますので、十分に注意してお使いください。

- ・車止めのある場所への駐車
- ・路肩に沿っての駐車
- ・平坦路から上り坂・下り坂及び上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- ・路肩等段差のある場所への乗り降り
- ・凹凸やわだちのある道路の走行
- ・くぼみ(穴)のある個所の通過



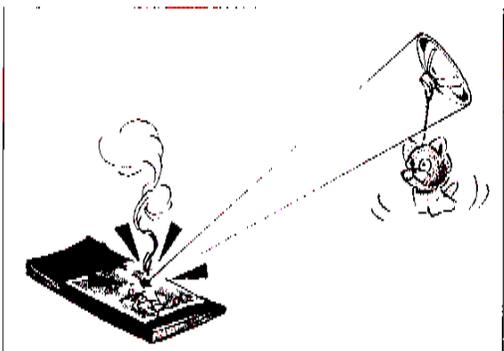
タバコの吸がらは火を消して。

- タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。



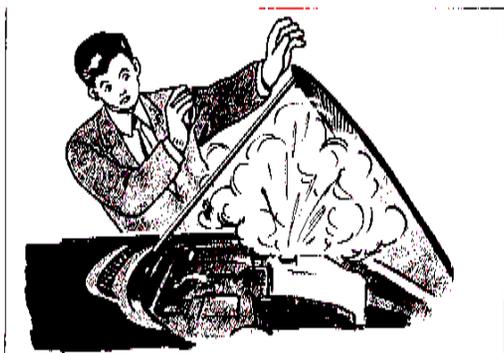
アクセサリーの取り付けには注意を。

- ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- 運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



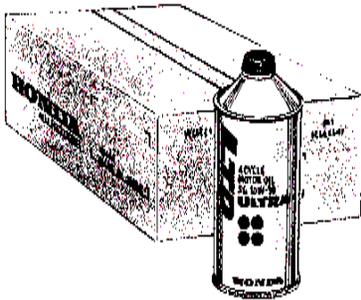
ラジエーターのエクспанションタンクキャップに気をつけて。

- エクспанションタンクキャップが熱いときは、外さないでください。
- 蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



改造はしない。

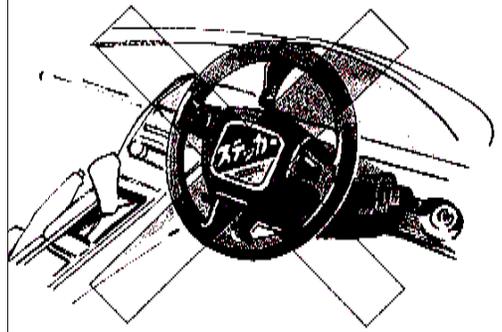
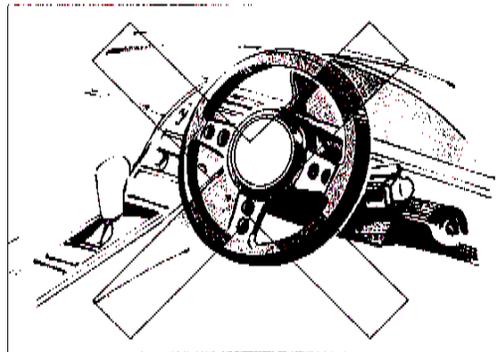
- ホンダ純正部品以外の、車の性能や機能に
適さない部品を、装着しないでください。
- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わ
ぬ事故のもとになったりすることがありま
す。
- ホンダが運輸省に届け出をした以外の部品を
装着すると、違反になることがあります。



- タイヤ、ホイールとも、NSX専用部品をご使
用ください。
- 専用品以外の部品を使うと、走行に悪影響を
およぼすおそれがあります。
ホンダベルノ店にご相談ください。
- 無線装置や自動中継話などの取り付けの際
には、必ずホンダベルノ店にご相談くださ
い。
- 装置や取り付け方法が適切でない場合、電子
機器部品に悪影響をおよぼすことがありま
す。



- ハンドルを交換したり、パッドにステッ
カー類を貼ったり、カバーをつけたりしな
いでください。
- エアバッグが正常に機能しなくなります。
- 次の場合は、必ず、ホンダベルノ店にご相談
ください。
 - (1)ハンドルまわりやセンターコンソール付
近の修理
 - (2)カーステレオ等用品の取り付け
 - (3)ダッシュボード周辺の板金塗装および修
理



NSX

0 1

車を運転する前に



各部の開閉

キー	30
ドアの施錠・解錠	30
パワーウィンドー	32
ボンネット	33
トランク	33
エンジンルーム	34
燃料補給口	35

運行前点検

①前日の異状箇所の点検	37
②フロントコンパートメント エンジンルームをのぞいて	37
③車のまわりを回りながら	40
④運転席にすわって	42

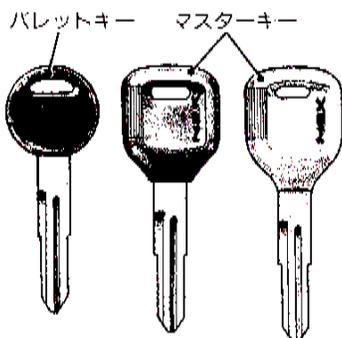
各部の調節

シート	44
シートベルト	45
チルト/テレスコピックステアリング (上下/前後調節式ハンドル)	46
後写鏡	47

各部の開閉

キー

キーには、マスターキーとバレットキーがあります。



バレットキーではグローブボックスの施錠・解錠、トランクの解錠はできません。

バレットキーは、駐車場などで車を預けるときにお使いください。



- キーナンバーを控えておいてください。万一、キーを紛失したときは、ナンバーをホンダベルノ店へご連絡いただければ、購入することができます。

ドアの施錠・解錠



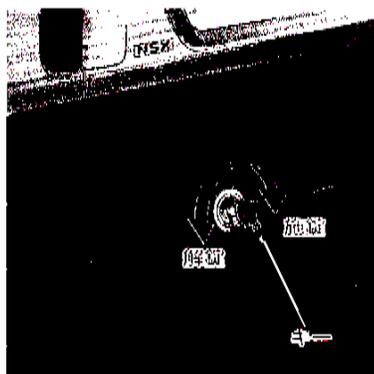
- 車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。



- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中に開くおそれがあり危険です。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確かめてください。不用意に開けると、後続車などにぶつかるおそれがあり危険です。

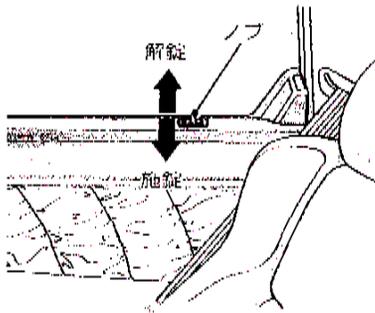
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。運転席ドアを施錠(解錠)すると、助手席ドアも同時に施錠(解錠)されます。

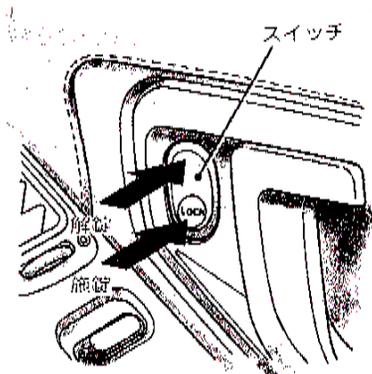


●車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かすことにより、施錠(解錠)ができます。

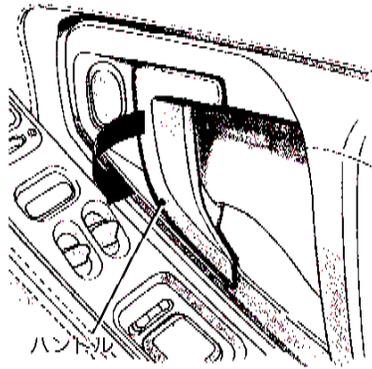


運転席ドア部のスイッチを操作すれば両方のドアの施錠(解錠)ができ、ノブの操作では施錠のみ可能です。



助手席ドア部のノブまたはスイッチを操作した場合は、助手席ドアのみの施錠(解錠)ができます。

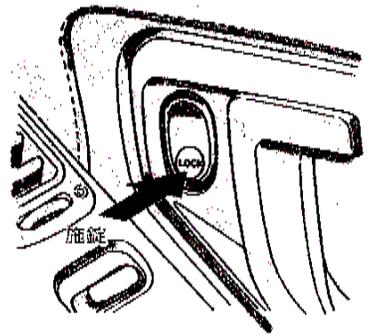
運転席ドアは内側のハンドルを引くと解錠されます。



●車外からキーを使わないで施錠する場合

運転席ドア

ノブまたはスイッチを施錠の方向に動かして、ドアを閉めれば施錠できます。



運転席ドアを施錠すると、助手席ドアも同時に施錠されます。

●キー閉じ込み防止装置

キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと、施錠できません。



●キーを車内に置き忘れないようにしてください。

助手席ドア

ノブまたはスイッチを施錠の方向に動かして閉めると施錠できます。

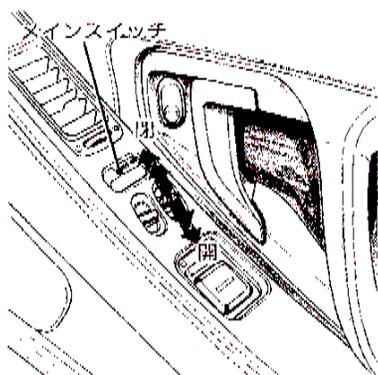
●車速連動パワードアロック

車速が約15km/h以上になると助手席ドアは自動的に施錠されます。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“ON”のとき使えます。

●運転席ウィンドーの開閉



パワーウィンドーのメインスイッチが“ON”でも“OFF”でも作動します。

“AUTO” (自動) スイッチを軽く押すと、押し続けている間のみウィンドーは作動します。

“AUTO” スイッチを強く押すと、手を離してもウィンドーは自動で全開または全閉されます。

自動開閉中にウィンドーを停止させるには、ウィンドーの作動方向とは逆へ瞬間的にスイッチを操作します。押し続けると逆方向にウィンドーが作動します。

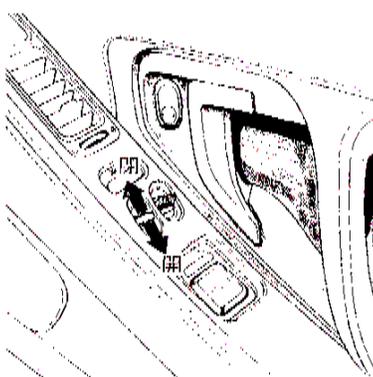
●助手席のウィンドーの開閉

運転席ドアスイッチまたは助手席ドアスイッチで操作します。

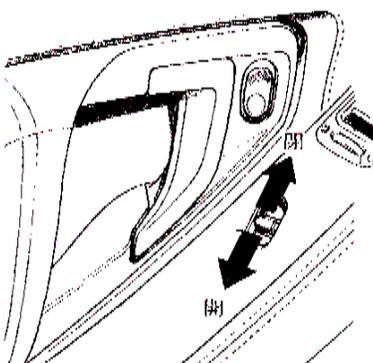
助手席ウィンドーを開閉するときは、メインスイッチを“ON”にしないと作動しません。

スイッチを操作している間、ウィンドーが作動します。

運転席ドアスイッチ



助手席ドアスイッチ



- パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびをはさまないように注意してください。
特にお子さまには気をつけましょう。
- お子さまが同乗しているときはメインスイッチを“OFF”にしておいてください。
- パワーウィンドースイッチの上には物などを置かないでください。

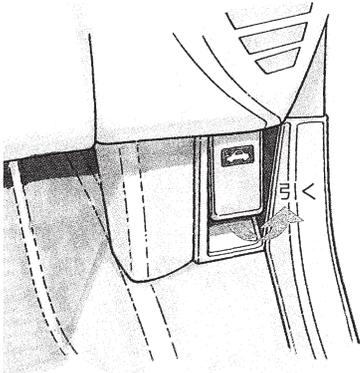
●キーオフオペレーション

エンジンスイッチを“OFF”にしても、運転席ドアを開けてから約30秒以内であれば、ドアを開けている間パワーウィンドーの操作ができます。

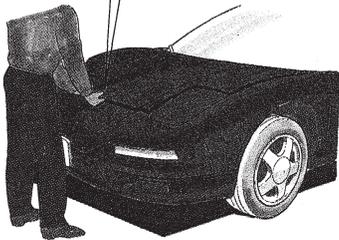
ボンネット

●開けかた

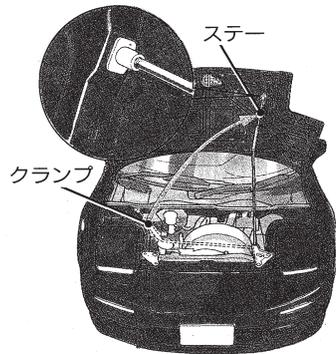
運転席足元のノブを引きます。



ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを左へ押しながら開けます。



必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。ボンネットを静かに下げ、手を離します。

ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

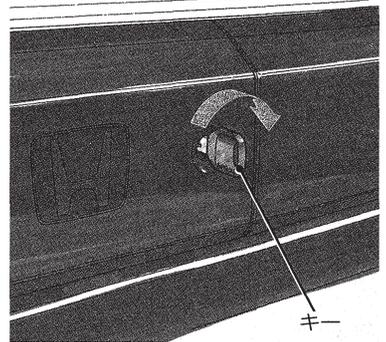


- ボンネットを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットを閉めるときは、手などはさまないように注意してください。
- ボンネットが完全に閉まっていないまま走行すると、開くおそれがあり非常に危険です。走行前に必ず確認してください。

トランク

●車外からの解錠

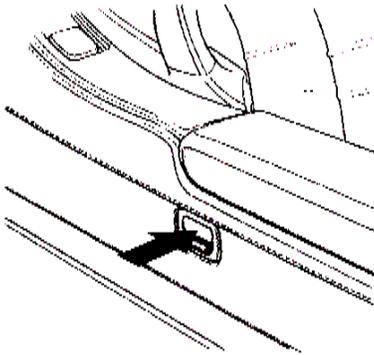
マスターキーを確実に差し込んで回します。



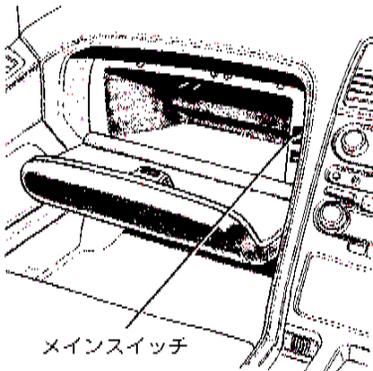
車を運転する前に

●車内からの解錠 (電動トランクオープナー)

運転席ドアにある解錠ボタンを押し
ます。



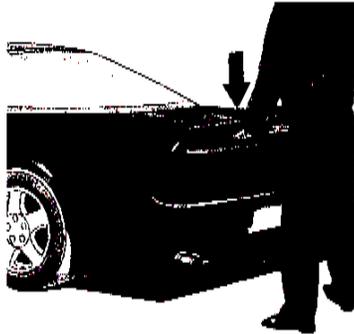
●電動トランクオープナー メインスイッチ



電動トランクオープナーは、グローブボックス内のメインスイッチを
"OFF"にすると、作動しません。
パレットキーを傾けるとともに、お使
いください。

●施錠

スポイラーを持ち上げる前に静かに下げ、
上から手で押さえておけば施錠でき
ます。

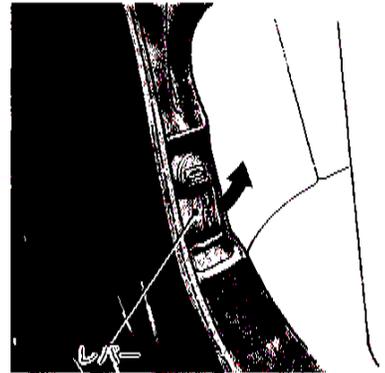


- トランク内は高温になることがあり
ます。熱に弱いものは入れないで
ください。
- 走行中はトランクを必ず施錠して
ください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出
し入れするときは、排気管の後方に
立たないでください。
- トランクを閉めるときは、手などを
はさまないように注意してください。

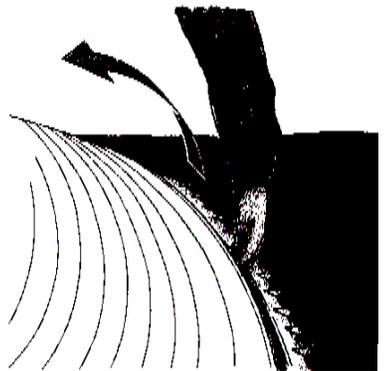
エンジンルーム

●開けた

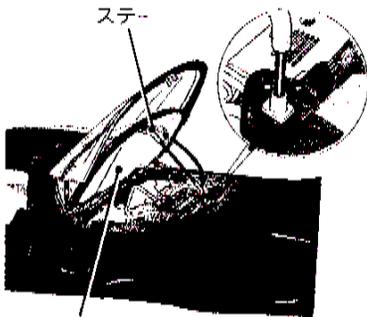
運転席右後のレバーを引きます。



リヤウィンドー後部が少し浮き上
がるので、そのまは持ち上げます。



エンジンカバーを開け、スチールネジ状にかけ、固定します。



エンジンカバー



- エンジンカバーを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- エンジンカバー、リアウィンドーを閉めるときは、手などはさまないように注意してください。
- リアウィンドーが完全に閉まっていないままで走行すると、開くおそれがあり非常に危険です。走行前に必ず確認してください。
- エンジンカバーの上に物を置かないでください。
後方視界を妨げるばかりでなく、急停止のときなど思わぬ危険物となります。

燃料補給口

燃料補給口は中の左側後方にあります。使用燃料は、無鉛プレミアムガソリンです。



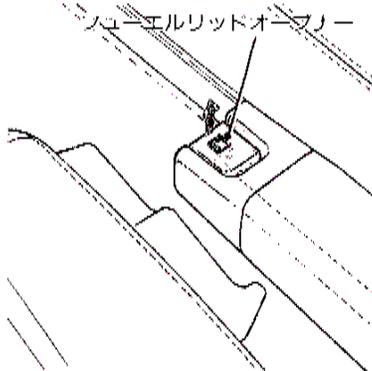
- 無鉛プレミアムガソリンが入手不可能な場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。
- 有鉛ガソリンを使うと、触媒装置などを損じます。また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。
- タンク容量は70ℓです。



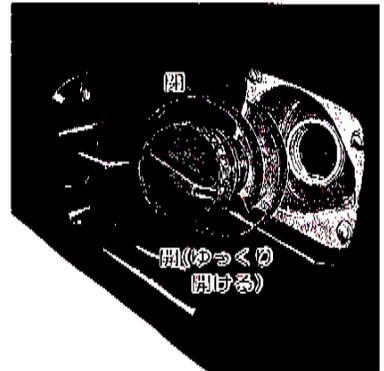
- 燃料補給時は火気厳禁です。エンジンは必ず止めてください。

●フューエルリッドの 開けかた

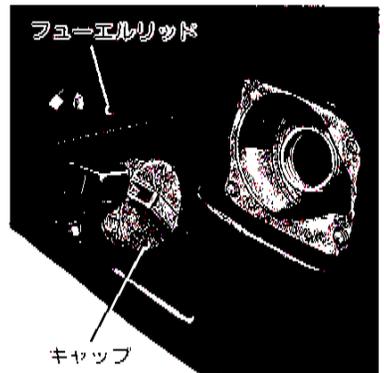
運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引き上げるとリッドが開きます。



●キャップの開閉



外したキャップはフューエルリッドの裏側に置きます。



●閉めるとき

キャップを「カチッ」という音が2回以上するまで締め付けてから、フューエルリッドを手で押さえてつければ閉まります。

運行前点検

運行前点検は、自動車を扱う人が、1日1回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。この点検はエンジンルームをのぞいたり、中のまわりを回ったり、また、運転席にすわって車の状態をみることで、簡単に出来るものです。運行前点検を確実にを行うためには、一定の順序で行うことが効果的です。点検作業は、車を水平な場所に置いて行ってください。

右に点検順序を示します。



●異常が認められた場合は必ずホンダベルノ店で点検を行ってください。

運行前点検の順序

①前日の異状箇所の点検

②フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて

- ブレーキ液庫の点検 ……38ページ
- ※冷却装置の点検 ……38ページ
- ※エンジンオイル量の点検 ……39ページ
- ※発電機ベルトの点検 ……39ページ

③車のまわりを回りながら

- 反射器、ナンバープレートの点検 ……40ページ
- 灯火装置、方向指示器の点検 ……40ページ
- タイヤの点検 (※溝の深さの点検) ……41ページ

④運転席にすわって

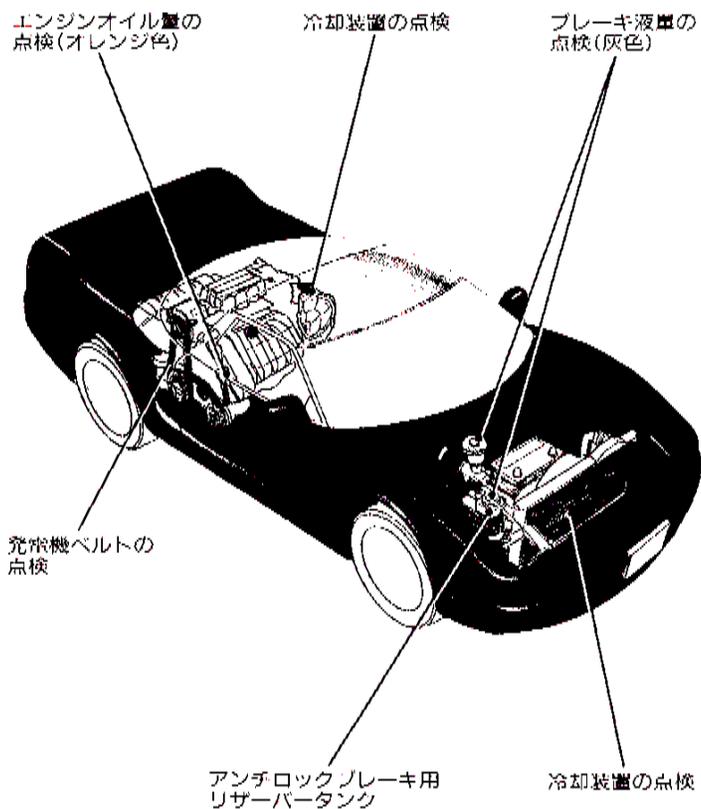
- 後写鏡の点検 ……42ページ
- 駐車ブレーキの点検 ……43ページ
- ブレーキの点検 ……43ページ
- ※燃料の量の点検 ……43ページ

※印の点検項目は、「80km/h以上」で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。

①前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

②フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて



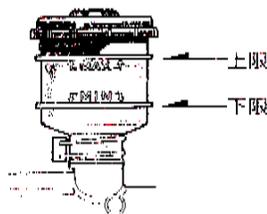
運行前点検

ブレーキ液量の点検

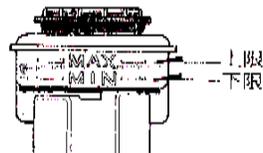
20km/h程度で約1分間走行後、アンチロックブレーキを作動させないようにゆっくり止まり、リザーバータンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

ブレーキ液の補給 139ページ

●ブレーキリザーバータンク



●アンチロックブレーキリザーバータンク



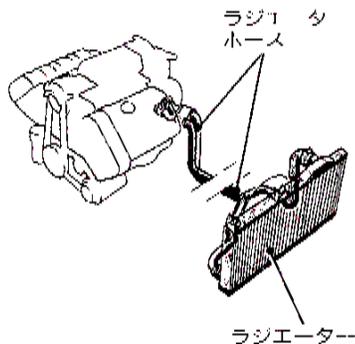
- アンチロックブレーキリザーバータンクの液面が上限より約1cm以上あがっていたら、アンチロックブレーキ機構の異常が考えられます。ホンダベルノ店で点検を受けてください。
- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

冷却装置の点検

●水漏れ

ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。

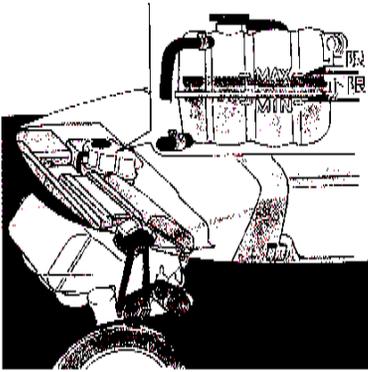
このとき、車を停めておいた地面に水が濡れたあとがないかも調べます。



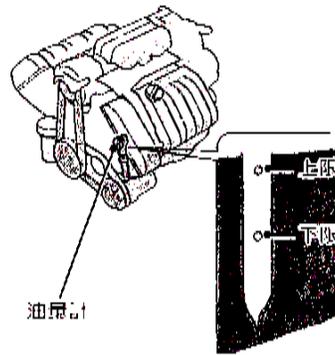
●冷却水の量

エクスパンションタンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

冷却水の補給 ・132ページ



エンジンオイル量の点検



エンジン始動前に行います。エンジンオイルの量が、油圧計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。点検は、油圧計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びしっかりと差し込み、もう一度抜いてオイルの量をみます。下限に近くなったら上限まで補給してください。

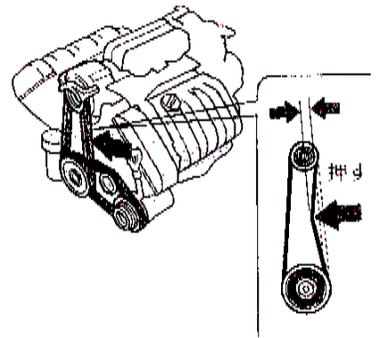
エンジンオイルの補給

・131ページ



- 正確にオイル量を点検するために、次のことをお守りください。
 - ・車を水平な場所に置いて行ってください。
 - ・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。

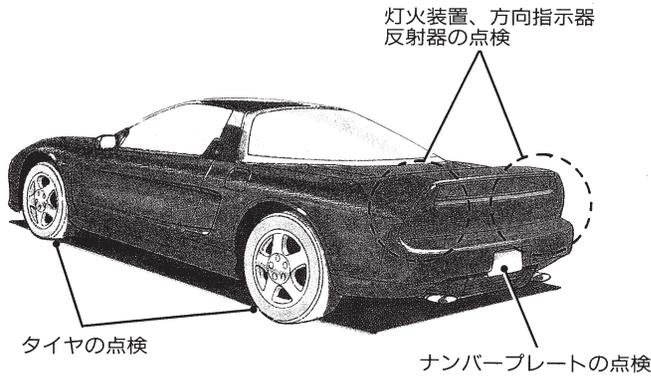
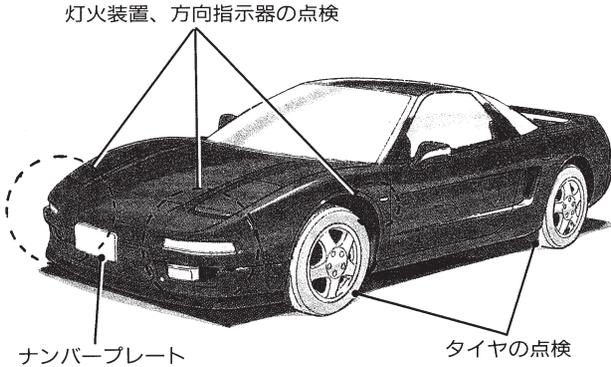
発電機ベルトの点検



ベルトの中央部を強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。このときベルトに傷がないかも点検します。たわみ量は12~14mmが適正です。

■エンジンオイルの点検 ■発電機ベルトの点検

③車のまわりを回りながら



反射器、ナンバープレート
の点検

反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

灯火装置、
方向指示器の点検

前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯、後退灯、方向指示器などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点灯するかを点検します。点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

■反射器、ナンバープレートの点検 ■灯火装置、方向指示器の点検

タイヤの点検

●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。



車載のタイヤゲージを使って、正確に点検することをおすすめします。

●標準タイヤ (空車時：単位kg/cm²)

サイズ	空気圧	
	一般	高速
前輪 205/50 ZR15	2.3	
後輪 225/50 ZR16	2.8	

●応急用スペアタイヤ

(空車時：単位kg/cm²)

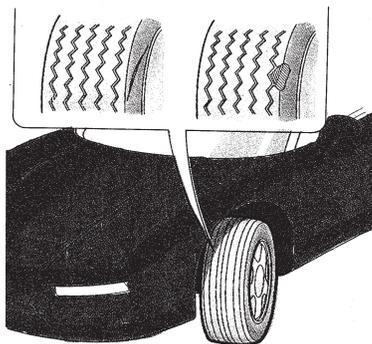
サイズ：165/80D15	空気圧	
	一般	高速
前輪装着時	1.8	
後輪装着時	2.3	



- タイヤの空気圧やサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。

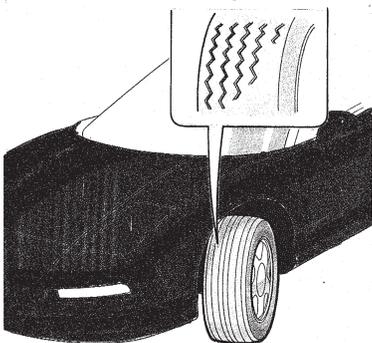
●亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



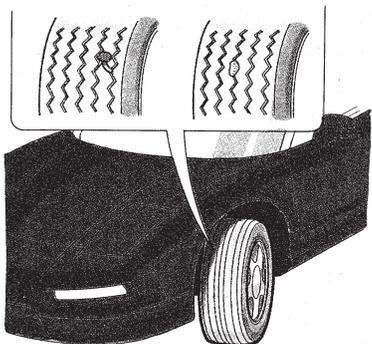
●異状な摩耗

タイヤの接地面に、極端にすり減っている個所がないかを点検します。



●異物のかみ込み

タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

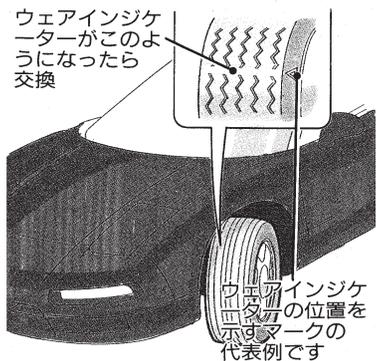


●タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ (摩耗限度表示) により点検します。

ウェアインジケータが表われたらタイヤを交換してください。

タイヤ交換 →109ページ



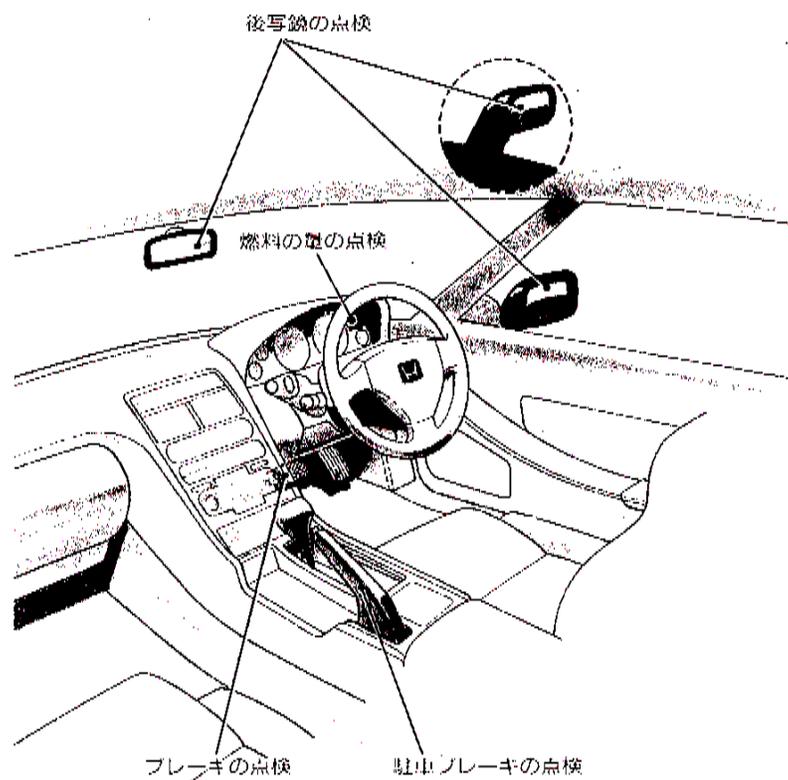
- ウェアインジケータはタイヤの円周にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



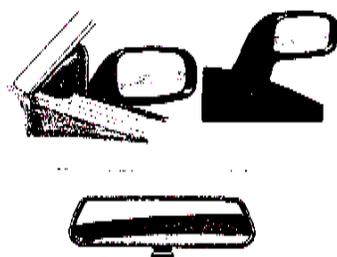
- タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外のタイヤ空気圧は、タイヤの寿命や乗り心地、操縦性を損ないます。

車を運転する前に

④運転席にすわって

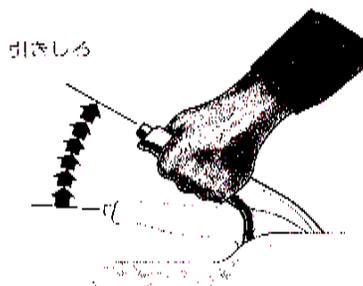


後写鏡の点検



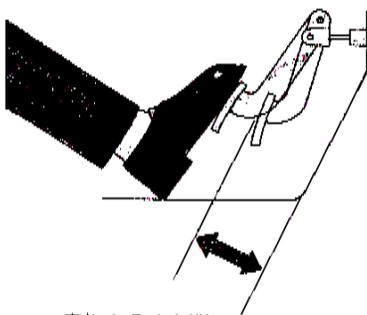
運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されているかを点検します。

駐車ブレーキの点検



ブレーキをいっぱい戻した状態からゆっくり引き上げて(押下力20kg)、10~14回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

ブレーキの点検



床板とのすき間

エンジンを始動し、Pー3回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く(踏力20kg)も秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。

床板とのすき間は100mm以上が適正です。

(参考値・カーペットとのすき間80mm以上)



- 踏み込んだとき、ふわふわする感じがある場合、または踏み続けたとき、ペダルがさらにはり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきの恐れがあります。ブレーキの片ぎきは、ブレーキをかけたときにハンドルをとられて危険です。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になると、走行中に金属的な摩擦音が出ます。ただちにホンダベルノ店で交換してください。

燃料の量の点検



燃料計により燃料の量が計測的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

燃料補給について →86ページ

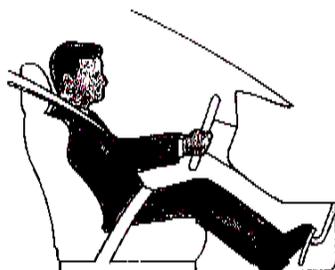
各部の調節

シート

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

●正しい運転姿勢

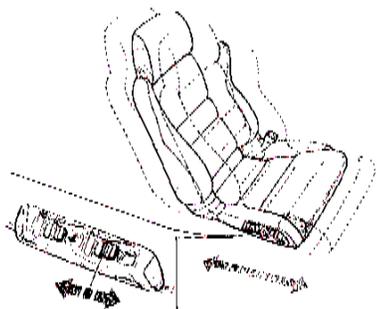
シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



- シート各部の調節は走行する前に行ってください。
- シートの背もたれは、必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルトの下に滑り込んだりして、シートベルト本来の機能をはたさず危険です。
- シートの後部に、後方視界をさまたげるような物を置かないでください。
- シートの後部に、お子様を乗せないでください。急ブレーキのときなどに危険です。

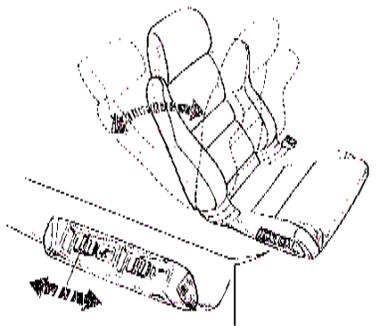
●位置の調節

スイッチの操作により、シートの前後位置を調節できます。



●背もたれの調節

スイッチの操作により、背もたれの角度を調節できます。



シートベルト

シートベルトは車を運転する前、運転者は必ず装着し、同乗者にも必ず装着させてください。

法律でも義務づけられています。

●シートベルトの装着

目正しい運転姿勢(44ページ)でシートにすわりませう。

①タンクプレートをつかめ、ゆっくり引き出します。



②ベルトにねじれがないようにし、タンクプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで押し込みませう。



④ベルトがねじれたり、引っかかりたりしていないかを確認します。

③ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとように引き、たるみがないように身体に密着させませう。



⑤例外時にはバックルの「PRESS」ボタンを押します。ベルトが自動的に収納されるので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



- ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったり装着してください。
- ベルトは一人用です。
二人以上で一本のベルトを使わないでください。
- 一人でまわることができない乳幼児の場合は、装着されているシートベルトを直接使わないでください。
- シートベルトが、くび、あご、顔に当たらないように装着してください。小さなお子さまなどは万一のとき危険ですので、装着されているシートベルトを直接使わないでください。なお、ホンダベルノ店では9ヶ月～4才位のお子さま用として、ホンダ純正アクセサリーのチャイルドシートを取り扱っておりますので、ご使用をおすすめします。
*NSXは、シートが特殊な形状になっておりますので、チャイルドシートの取り付けには注意が必要です。
ホンダベルノ店にご相談ください。
- ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。
- シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に、異物を入れないようにしてください。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に、布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり、漂白や染色は絶対しないでください。
ベルトを締めませう。
- 装着した状態で万一、事故に合った場合は、ベルト一式を交換してください。
- 妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

シートベルト

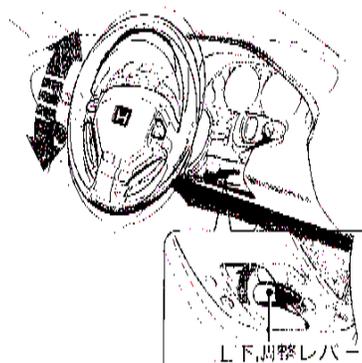
チルト／テレスコピックステアリング (上下／前後調節式ハンドル)



- 調節は、走行する前に行ってください。
- 走行中に行くと、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 調節後はハンドルに上下、前後方向の力を加え、固定されていることを必ず確認してください。

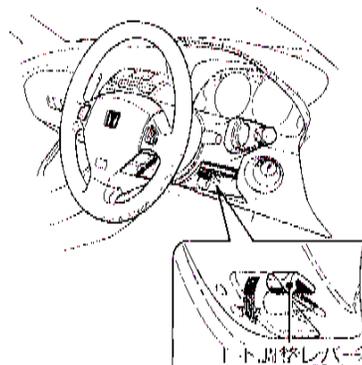
●上下の調節

ハンドルコラムの下にある上下調整レバーを、矢印の方向に引きます。レバーを引いている間、ハンドルの高さを変えることができます。



上下調整レバー

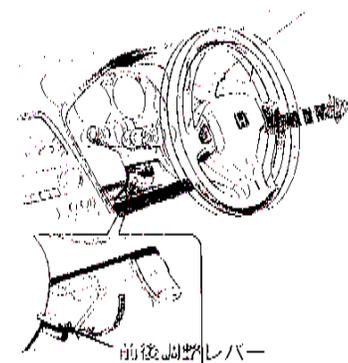
ハンドルを適切な高さにした後、上下調整レバーを離し、ハンドル高さを固定します。



上下調整レバー

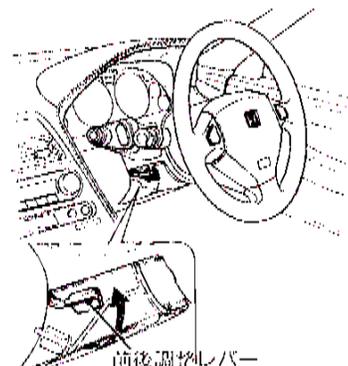
●前後の調節

ハンドルコラムの左にある前後調整レバーをそのままに押し下げると、ハンドルの前後位置を変えることができます。



前後調整レバー

ハンドルを適切な位置にした後、そのままハンドルを押しさえながら、レバーを元の位置まで確実に引き上げ、ハンドル位置を固定します。

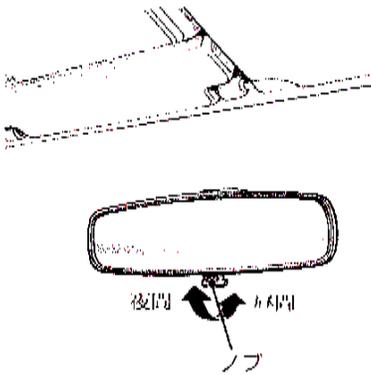


前後調整レバー

後写鏡

●防眩式室内後写鏡

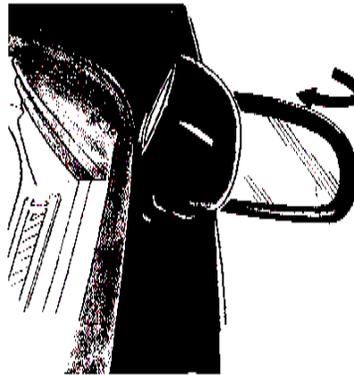
夜間走行時、後続中のライトがまぶしいときにノブを夜間の位置に切り換えるとライトの反射が弱くなります。



- 視野調節はノブを昼間の位置に行ってください。

●可倒式ドアミラー [ドアミラー装備車]

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車するときなどに便利です。走行するときは、必ず元に戻してください。

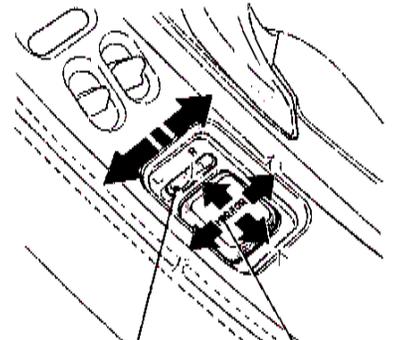


- ミラーを倒したまま走行しないでください。
- フェンダーミラーに比べ次の点異なります。
 - ・ミラーの張り出しが約6cm大きくなります。
 - ・ミラーに映る像の距離感覚が違います。

●電動リモコン ドア/フェンダーミラー

エンジンスイッチが“ON”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

左右切り換えスイッチを、調節したい方に押しします。
②調節スイッチで角度を調節します。

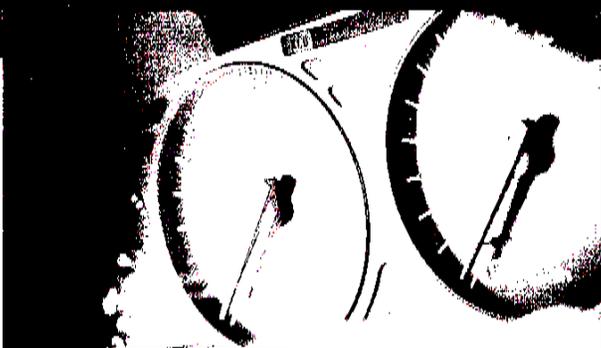


左右切り換えスイッチ 調節スイッチ
直接手でミラーを動かして、角度を調節することもできます。

NSX

0 2

車を運転するときに



メーターのはたらき

スピードメーター	50
タコメーター	50
オドメーター	51
トリップメーター	51
燃料計	51
水温計	51
電圧計	51
油圧計	51

表示灯、警告灯

方向指示器表示灯	52
クルーズコントロール作動表示灯	52
前照灯の上向き表示灯	52
セレクトポジション表示灯	53
燃料残量警告灯	53
充電警告灯	53
排気温警告灯	53
油圧警告灯	53
PGM-FI警告灯	53
ブレーキ警告灯	54
SRSエアバッグシステム警告灯	54
エレクトリックパワーステアリング警告灯	54
アンチロックブレーキ(ALB)警告灯	55
トラクションコントロールシステム OFF表示灯	55

トラクションコントロールシステム

作動表示灯	55
トラクションコントロールシステム 警告灯	55
セーフティインジケーター	56
警告灯の電球切れの点検	56

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	57
ライトスイッチ	58
前照灯昇降スイッチ	59
方向指示器スイッチ	60
非常点滅表示灯スイッチ	60
ワイパー/ウォッシャースイッチ	61
リヤデフロスタースイッチ	62
イルミネーションコントロールツマミ	62
トラクションコントロールシステムスイッチ	62
フォグライトスイッチ	63

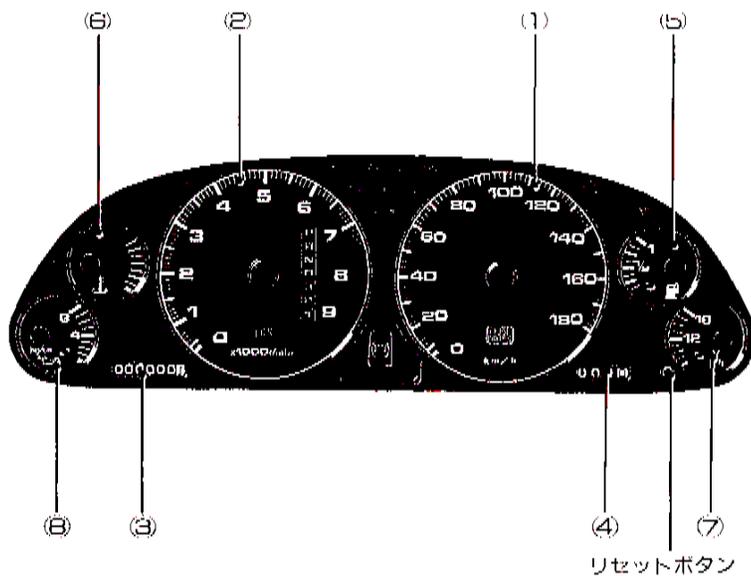
エンジンのかけかた

駐車ブレーキ	64
エンジンのかけかた	64

運転のしかた

チェンジレバーの操作(マニュアル車)	66
セレクトレバーの操作(オートマチック車)	67
オートマチック車の運転のしかた	69
クルーズコントロール	73

メーターのはたらき



(1)スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

- **速度警報装置** | 注文装備 |
約100km/h以上になると、警告音を発生します。

(2)タコメーター

1分間あたりの、エンジン回転数を示します。



- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

タイプ	限界回転数
マニュアル車	8,000r.p.m.
オートマチック車	7,500r.p.m.

(3) オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。
右端の数字は、100kmの単位です。

(4) トリップメーター

区間距離を知りたいとき、リセット
ボタンを押して“0”に戻して使いま
す。

(5) 燃料計

エンジンスイッチの位置に関係なく
常に燃料の残量を示します。
“0”に近いときは、早めに補給し
てください。



- 燃料補給後、エンジンスイッチを
“ON”にしてから正しい量を示すま
で、しばらく時間がかかります。

燃料補給について →35ページ

(6) 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は、1/5の赤いマークの下側
をさりのが正常です。



- 万一、針が赤いマークに入った場合
はオーバーヒートの恐れがあります。
ただちに安全な場所に停めてエンジ
ンを冷やしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故
障の原因となります。
オーバーヒートしたとき
→115ページ

(7) 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。
走行中は、12~15Vの間をさりのが
正常です。



- 11V以下をさす場合は、バッテリー
や充電系統の異常が考えられます。
ホンダベルノ店で点検を受けてくだ
さい。

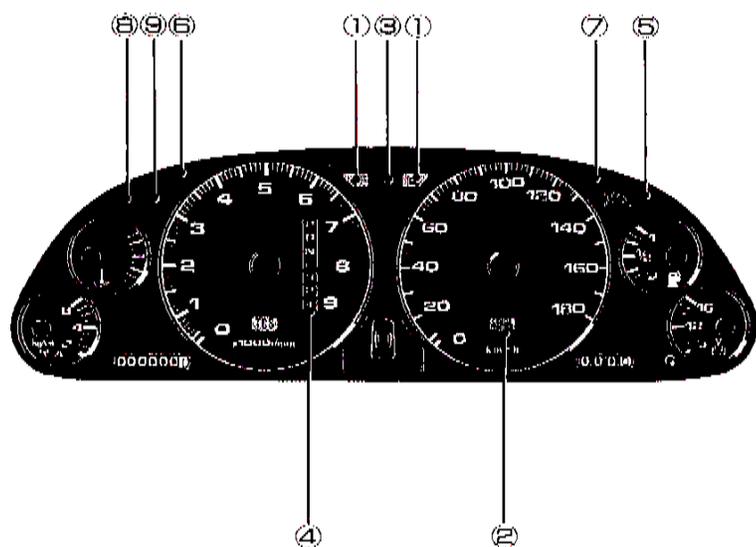
(8) 油圧計

エンジン回転中のエンジンオイルの
圧力を示します。
圧力は、冷機時や低速回転時は高めに
なり、暖機時や低速回転時は代めにな
ります。



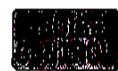
- エンジン回転を上げて針が動かない
ときは、エンジンを止め、エンジ
ンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに
針が動かないときは、ホンダベルノ
店で点検を受けてください。

表示灯、警告灯



①方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。



②クルーズコントロール 作動表示灯

自動定速走行しているときに点灯します。

クルーズコントロール

・73ページ

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅が異常になります。

電球(バルブ)の交換 ・117ページ

電球(バルブ)のワット数

・149ページ



③前照灯の上向き (ハイビーム)表示灯

前照灯が上向きになるときに点灯します。



④セレクト
ポジション
表示灯

オートマチック車

使用中の切り換えレバー位置 (P/R/N/D/3/2/1) が表示されます。

万一、トランスミッションに異常が発生したときにはDが点滅します。



- 万一、運転中に点滅したときは、急発進、急加速を避けて、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。



⑤燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が1/10前後になったときに点灯します。

燃料の補給 →35ページ



⑥充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 万一、運転中に点灯した場合は、オートエアコン、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。

発電機ベルトの点検 →39ページ



⑦排気温警告灯

触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。

走行中に点灯した場合

消灯するまで半分程度の速度に落とし、急加速、急減速などの無理な運転をしないでください。消灯すれば、元のように走行できます。

速度を落としても消灯しない場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

停車中に点灯した場合

エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

冷えた後、エンジンを始動し、消灯していれば通常の走行が可能です。

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 警告灯が消灯しないときや、ふたたび点灯するときは、そのまま使わないでホンダベルノ店で点検を受けてください。
- 充電警告灯が点灯すると、排気温警告灯も同時に点灯しますが、この場合は、充電系統の異常で、触媒装置の異常ではありません。



⑧油圧警告灯

エンジンの潤滑系統が異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 万一、運転中に点灯したときは、安全な場所に停車しエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
- エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときは、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

エンジンオイル量の点検

→39・129ページ



⑨PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

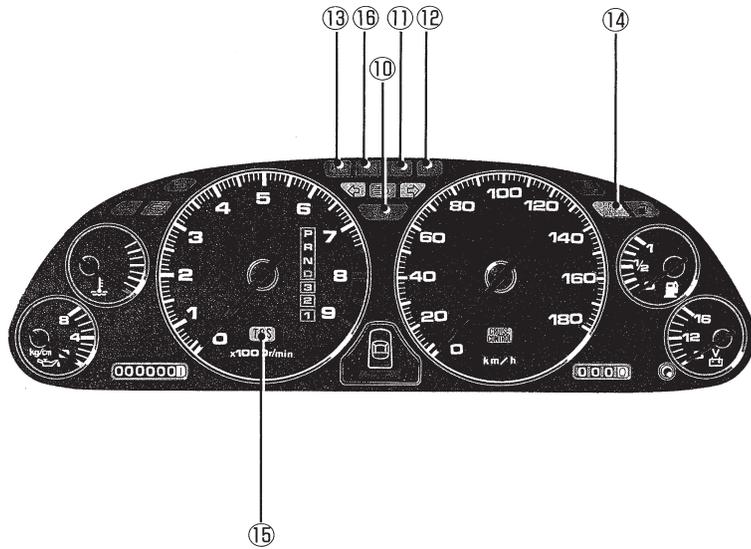
警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 万一、運転中に警告灯が点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上のレッドゾーンで運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。

タイプ	限界回転数
マニュアル車	8,000r.p.m.
オートマチック車	7,500r.p.m.



⑩ブレーキ警告灯

駐車ブレーキがかかっているときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 万一、駐車ブレーキをかけても点灯しないとき、解除しても消灯しないとき、走行中点灯したときは、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

ブレーキ液量の点検

→38・126ページ



⑪SRSエアバッグシステム警告灯

SRSエアバッグシステムが異常のときに点灯します。

SRSエアバッグシステム

→78ページ

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 警告灯が点灯してもエアバッグが誤まって膨らむことはありませんが、万一の場合、作動しません。お早めにホンダベルノ店で点検を受けてください。



⑫エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯

オートマチック車

エレクトリックパワーステアリングシステムが異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検

→56ページ



- 万一、運転中に点灯した場合は、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

ALB

⑬アンチロックブレーキ (ALB) 警告灯

アンチロックブレーキ系統が異常のときに点灯します。

アンチロックブレーキについて →79ページ
警告灯の電球切れの点検 →56ページ



- 運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。



- 万一、運転中に点灯した場合は、いったん安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。エンジン再始動後、一度点灯し、その後消灯していれば正常です。消灯しないときや、走行後再び点灯するときでも、通常のブレーキとしての性能は確保されています(アンチロックブレーキとしての作動はしません)が、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

TCS OFF

⑭トラクションコントロールシステム(TCS)OFF表示灯

トラクションコントロールシステムが“OFF”のとき点灯します。

トラクションコントロールシステム(TCS)について →79ページ
トラクションコントロールシステム(TCS)スイッチ →62ページ
警告灯の電球切れの点検 →56ページ

TCS

⑮トラクションコントロールシステム(TCS)作動表示灯

トラクションコントロールシステムが作動中に点滅します。

トラクションコントロールシステム(TCS)について →79ページ
トラクションコントロールシステム(TCS)スイッチ →62ページ
警告灯の電球切れの点検 →56ページ



- トラクションコントロールシステムが作動しているときでも、これを過信して無理な運転はしないでください。
- 応急用スペアタイヤを装着していると作動表示灯が点滅することがありますが、標準タイヤに戻せば、作動は正常になります。

TCS

⑯トラクションコントロールシステム(TCS)警告灯

トラクションコントロールシステムが異常のときに点灯します。

トラクションコントロールシステム(TCS)について →79ページ
警告灯の電球切れの点検 →56ページ

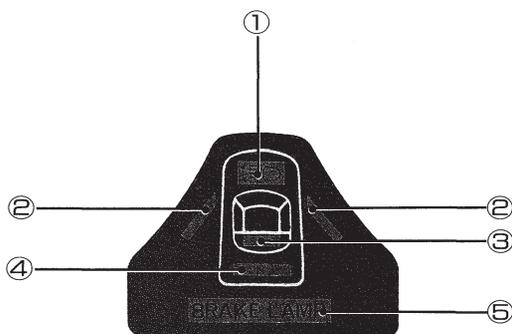


- 警告灯が点灯するとトラクションコントロールシステムは自動的に“OFF”になりますが、“TCS-OFF”表示灯は点灯しません。
- 運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。



- 万一、運転中に点灯した場合はいったん安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。エンジン再始動後、一度点灯し、その後消灯していれば正常です。消灯しないときや走行後再び点灯するときは、通常の走行に支障はありませんが、お早めにホンダベルノ店で点検を受けてください。

セーフティインジケーター



①前照灯昇降装置警告灯

昇降装置の作動中に異常があると点灯します。

原因として凍結、異物のかみ込みが考えられます。

前照灯が昇降しないとき

→120ページ

②ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

ドアを完全に閉めてください。

③リヤウィンドー開閉警告灯

リヤウィンドーが完全に閉まっていないときに点灯します。

リヤウィンドーを完全に閉めてください。

④トランク開閉警告灯

トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。

トランクを完全に閉めてください。

⑤制動灯電球切れ警告灯

制動灯の電球切れのときに点灯します。

点灯したときは、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

電球の交換 →117ページ

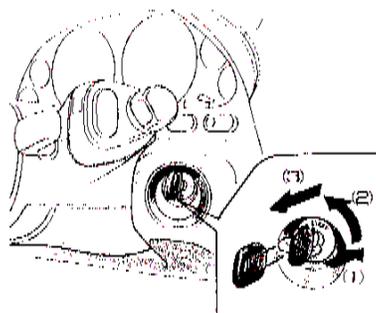
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“ON”位置にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。

- 排気温警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- 充電警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- 油圧警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- PGM-FI警告灯**
(数秒後消灯)
- ブレーキ警告灯**
(駐車ブレーキを解除すると消灯)
- SRSエアバッグシステム警告灯**
(約6秒後消灯)
- アンチロックブレーキ(ALB)警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- トラクションコントロールシステム(TCS)警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- トラクションコントロールシステム(TCS)OFF表示灯**
(数秒後消灯)
- トラクションコントロールシステム(TCS)作動表示灯**
(数秒後消灯)
- エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯**
(エンジン始動後消灯)
- セーフティインジケーター内の警告灯**
(数秒後消灯)

スイッチの 使い方

エンジンスイッチ



“LOCK”

キーを抜く位置です。

“ACC”でキーを押し込んで
“LOCK”まで回してキーを抜けば、
ハンドルは固定されます。



- “LOCK”から“ACC”にキーが回らないときは、ハンドルを左右に軽く動かしながらキーを回してください。

“ACC”

エンジンを止めてラジオなどのアクセサリを使用するときの位置です。

“ON”

運転するときの位置です。



- エンジンを止めた状態で“ON”にし、長時間放置しないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

“START”

エンジン始動位置です。

始動したら、キーから手を離してください。自動的に“ON”に戻ります。

●キーインターロックについて | オートマチック車 |

キーを抜くときは、セレクトレバをPに入れます。



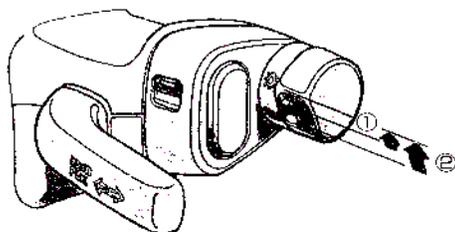
- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないため、キーを抜くことができません。

●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のままで車を離れようとしたとき(両扉ドアを開けるとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせてくれます。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯



エンジンスイッチの位置に関係なく、次のように点灯、消灯します。

ライトスイッチの位置	前照灯	車輪灯、増光 減光灯、 方向指示器	前照灯位置
OFF	消灯	消灯	
● ON	消灯	点灯	
● ON	点灯	点灯	
● ON	消灯	点灯	
OFF	消灯	消灯	



- 前照灯昇降スイッチが働いていると、前照灯は下がりにません。ライトスイッチを“OFF”にしても前照灯が下がらない場合は、前照灯昇降スイッチ(→59ページ)を押してみてください。
- ライトスイッチを操作しても前照灯が昇降しない場合は、手動操作をします。
前照灯が昇降しないとき
→70ページ



- 寒冷地や雪道走行などで、前照灯の昇降装置が凍結するおそれがある場合は、凍結してもライトが使えるよう、あらかじめ前照灯昇降スイッチ(→59ページ)で上げておいてください。また昇降装置が凍結したときは、スイッチ操作をする前に必ず氷を解かしてください。
- エンジンを止めた状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。



- 前照灯の付近に人がいないことを確認してから、ライトスイッチを操作してください。
前照灯の上昇、下降時に手をはさむおそれがあります。

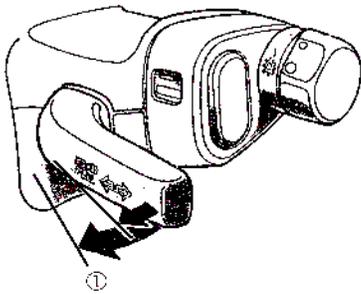
●ライト消し忘れ警告ブザー

カー、ライトを消し忘れたまま中で車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせてくれます。



- エンジンスイッチが“ON”のときは、ブザーは鳴りません。

●前照灯の上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

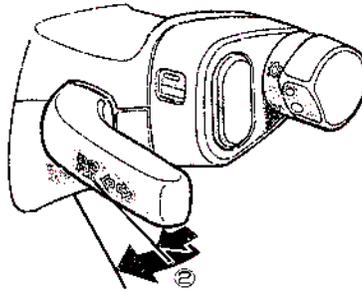


レバーを①の位置まで引くと上向き下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯(→52ページ)が点灯して上向きであることを知らせます。



- 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図

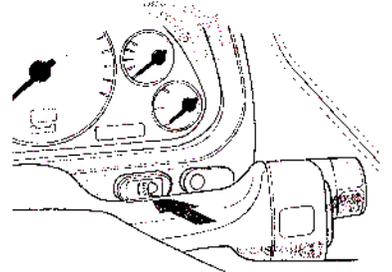


レバーを軽く②の位置まで引いている間、前照灯は上昇して点灯し、先行車に合図を送れます。レバーをはなすと前照灯は消灯し、数秒後に自動的に下降します。



- 前照灯が上昇する間にレバーから手をはなすと、前照灯は点灯しません。
- 前照灯は下向き(ロービーム)で使用しているときに、レバーを②の位置まで引くと前照灯は上向き(ハイビーム)になり、レバーをはなすと下向きに戻ります。
- 前照灯が上向き(ハイビーム)のときは作動しません。

前照灯昇降スイッチ



スイッチを押すと、ライトが消灯したまま前照灯が上がり、もう一度押せば下がります。レンズを清掃するときや、昇降装置が凍結するおそれのあるときなど、あらかじめ前照灯を上げておきたいときに使用します。



- 前照灯昇降スイッチを押しても前照灯が下がらない場合は、ライトスイッチ(→58ページ)が“OFF”位置にあるか確認してください。ライトスイッチが“OFF”でなければ前照灯昇降スイッチを押しても、前照灯は下がりにません。
- 前照灯昇降スイッチを操作しても前照灯が昇降しない場合は、手動操作をします。

前照灯が昇降しないとき

→120ページ

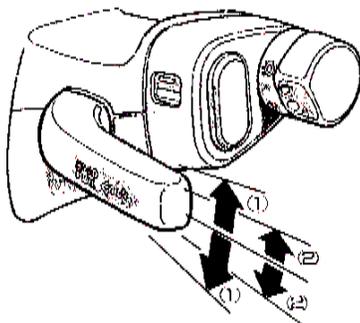


- 昇降装置が凍結したときは、スイッチを操作する前に必ず氷を解かしてください。



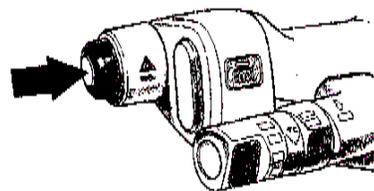
- 前照灯の付近に人がいないことを確認してから、前照灯昇降スイッチを操作してください。前照灯の上昇、下降時に手をはさむおそれがあり危険です。

方向指示器スイッチ



ふだんは(1)の位置で使います。この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。中線変更などでは(2)の位置に軽く手の押さえながら使います。

非常点滅表示灯スイッチ



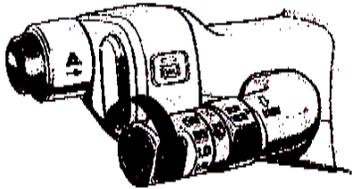
スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。故障でやむを得ず路上駐中するとき使います。



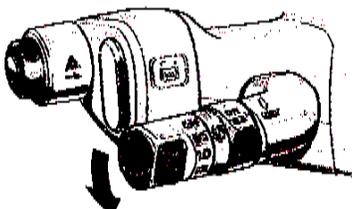
- 非常時にのみお使いください。完全充電の新しいバッテリーでも約3時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

●ワイパースイッチ



- OFF …………… 停止
- INT (間欠) …… 雨量の少ないとき
- LO (低速) …… 普通雨量のとき
- HI (高速) …… 雨量の多いとき

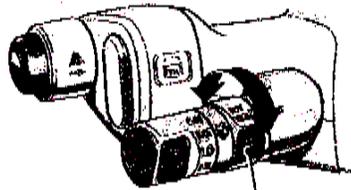


押し下げる

*MIST (ミスト) …レバーを押し下げている間、HI (高速) で作動します。

*MIST (ミスト)とは、英語で「霧、霧」という意味です。

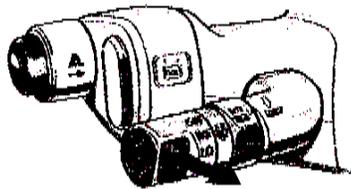
間欠時間の調節



リング

ワイパーの間欠作動の間隔を約2秒から12秒の範囲で調節できます。間隔のレットはリングを回して行います。スイッチを「INT」位置にすると、あらかじめセットされた間隔でワイパーが作動します。

●ウォッシャースイッチ



引く

レバーを引くとウォッシャー液が噴射し、ワイパーが2〜3回作動します。



●ワイパーを止めるときは、エンジンスイッチが「ON」のままワイパースイッチを「OFF」にしてください。ワイパーを正しい位置で止めるためです。



- 空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動かしてください。
- ウォッシャー液が出ないときは噴射スイッチを切ってください。ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。

・85ページ

凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

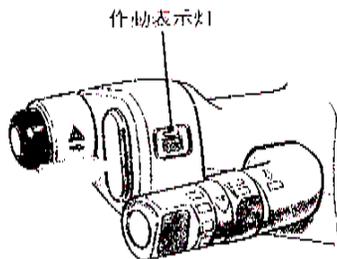


- 寒冷時、ウォッシャー液を噴射するときは先にヒーターを使って前面ガラスを暖めてください。吹きつけられた液が凍結し視界をさまたげるのを防ぐためです。

・85ページ

ワイパー／ウォッシャースイッチ

リヤデフロスター スイッチ

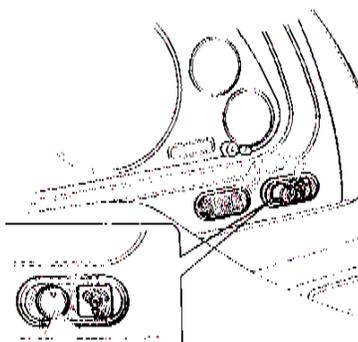


スイッチを押すと同時に作動表示灯が点灯し、リヤウィンドーが暖められ曇りが取れます。



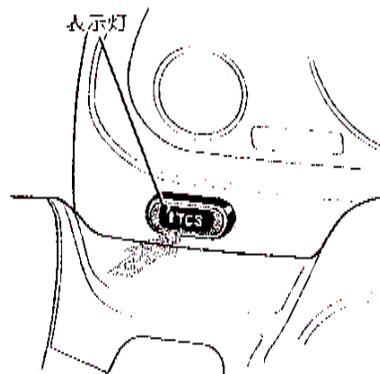
- 万一、スイッチを切り忘れても、一定時間経過後自動的にスイッチが切れますが、この装置は消費電力が大きいため曇りが取れたらスイッチを切ってください。
- エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤウィンドーの内側に電熱線が装着されています。清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。電熱線は傷つきやすいので注意してください。

イルミネーション コントロールツマミ



ライトが点灯しているとき、ツマミを回るとメータ照度灯の明るさが調節できます。ツマミは押しこめとび出した状態で調節します。もう一度押しこめ、元の位置にもどります。夜間、車外の明るさに応じて調節してください。

トラクション コントロールシステム (TCS)スイッチ



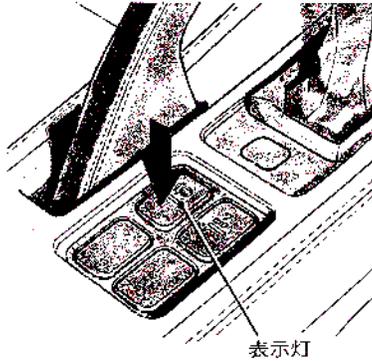
エンジン始動後、スイッチを押すとトラクションコントロールシステムが“OFF”になり、メータ内の“TCS-OFF”表示灯が点灯します。同時にスイッチ内の表示灯は消灯します。もう一度押しこめると、トラクションコントロールシステムが“ON”になり、メータ内の“TCS-OFF”表示灯が消灯します。同時にスイッチ内の表示灯は点灯します。スイッチを押すことで“OFF”→“ON”をくり返します。

トラクションコントロールシステム (TCS)について 79ページ
トラクションコントロールシステム (TCS)OFF表示灯



- トラクションコントロールシステムが作動中にはスイッチを操作しても「OFF」にすることはできません。

フォグライトスイッチ



表示灯

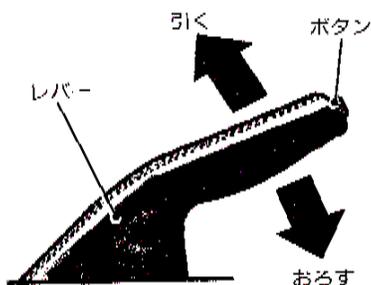
スイッチを押すとフォグライトが点灯します。同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。
もう一度押すと消灯します。



- スイッチを押すと、次のライトも同時に点灯します。
 - ・車幅灯
 - ・尾灯
 - ・番号灯
 - ・メーター照明灯

エンジンの かけかた

駐車ブレーキ



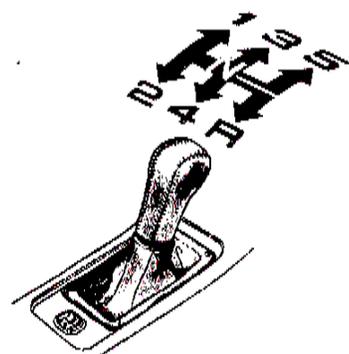
ボタンを押さずにレバーをいっぱい
に引くと、後輪ブレーキがききます。
戻すときはレバーを軽く引きあげな
がら、レバー先端のボタンを押し込
み、そのままたに完全におろします。



- 駐車するときは、必ず駐車ブレーキ
をかけてください。
寒冷時の駐車ブレーキの取り扱い
▶147ページ

エンジンのかけかた

- エンジンをかける前に
マニュアル車

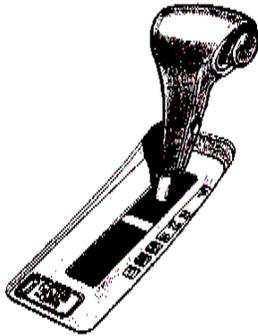


駐車ブレーキをかけ、チェンジレバ
ーをN(ニュートラル)にしてくださ
い。

チェンジレバーの操作

▶66ページ

オートマチック車



駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーがPにあることを確認してください。

セレクトレバーの操作

・67ページ

●かけかた

1 アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを"ACC"に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

2 エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したら、アクセルペダルを徐々に戻してください。

3 エンジン始動後は、PGM-FIの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に過回転に下がります。



- ライトスイッチ、ファンスイッチ、リヤデフロスタースイッチは"OFF"にした方が始動は容易になります。



- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機が完了してから走行してください。

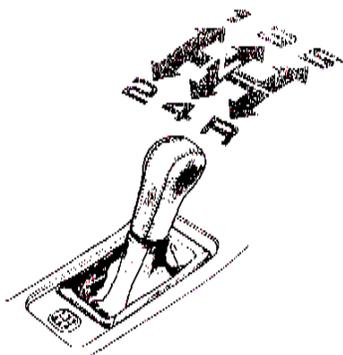


- 換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒をおこす危険があります。
- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのおいが消えない場合は、必ずホンダベルノ店で点検を受けてください。

運転のしかた

チェンジレバーの操作 (マニュアル車)

●チェンジレバー



変速するときは、クラッチペダルを、いっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

(R)に入れるとき

誤操作を防ぐため、(R)から(1)へは直接、変速できません。(1)の(R)へ戻してから(1)に変速してください。



- トランスミッションを傷めないために、(R)には車が完全に停止してから変速してください。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の名チェンジレバー位置ごとの速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

チェンジレバー位置	速度範囲
(1)	0～65km/h
(2)	20～105km/h
(3)	30～150km/h
(4)	40km/h～
(5)	50km/h～



- エンジンを過回転させないため、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。
限界回転数 → 50ページ
- 馴らし運転を十分に行ってください。
1,000km走行するまでは急発進、急加速を避け、5,500r.p.m.以下でのご使用をおすすめします。



- 法定速度を守って走行してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

セレクトレバーの操作(オートマチック車)

●それぞれの位置のはたらき

P **パーキング** 駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。



- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないので、キーを抜くことができません。
- Pのときは、先にボタンを押したままブレーキペダルを踏んでも、ボタンが押し込めないで、レバーを操作できないことがあります。

R **リバース** 中速後退(バック)させる位置。
ブザーが鳴り、セレクトレバーが
前進に入っていることを運転者に知ら
せます。

N **ニュートラル** ニュートラル(動力が伝達されない
状態)およびエンジン始動できる位
置。

D **ドライブ** 通常の走行をする位置。
(1速から4速まで自動的に変速さ
れます。)

3 **サード** 上り坂、下り坂に使う位置。
(3速のままに変速されません。)

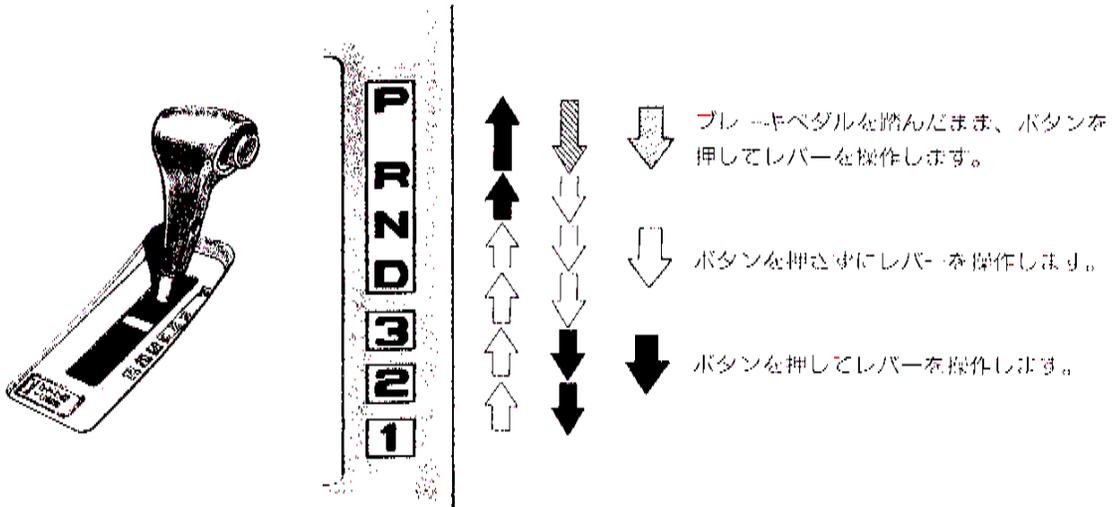
2 **セカンド** エンジンブレーキが必要なときや、
急坂などの滑りやすい路面での走行
に使う位置。
(2速のままに変速されません。)

1 **ロー** 強力なエンジンブレーキが必要なと
きに使う位置。
(1速のままに変速されません。)

車を運転するときに

●セレクトレバーの操作

●セレクトレバーの動かしかた



●セレクトレバーの操作は各位置ごとに節度をつけ、衝突に行ってください。

●エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。

●いつもボタンを押して操作すると意に反してP(R)2(1)に入ってしまうおそれがあります。Pの操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●速度範囲

セレクトレバー位置	速度範囲	変速範囲
P	0 km/h	1・2・3・4速
R	0 km/h	3速固定
N	0～130 km/h	2速固定
D	0～70 km/h	1速固定*

*：急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため、50 km/h以上でDへ切り換えな場合は、一旦P(R)に入ります。



- 走行中、2または1への切り換えは、エンジンを過回転させないため2または1の速度範囲内で行ってください。
- 馴らし運転を十分に行ってください。1,000 km走行するまでは急発進、急加速を避け、5,500 r.p.m.以下でのご使用をおすすめします。



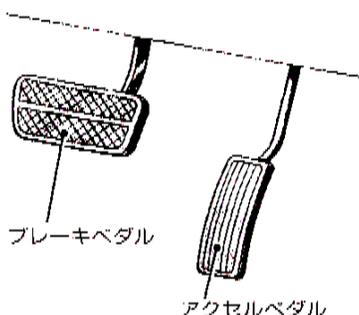
- 法定速度を守って走行してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になります。運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけください。

エンジンをかけるまえに

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
- 不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができず危険です。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

エンジン始動

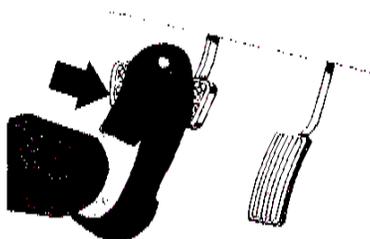
[1] 駐車中ブレーキがかかっていることを確認。

[2] セレクトレバがPに入っていることを確認。



- Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

[3] ブレーキペダルを右足で踏んで始動。



- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

1 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進（D）または後退（R）に入れる。



- セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。



- セレクトレバーをP/N以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、自動的にエンジンの回転が上がリ、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因となります。

- 2 レバーの位置を目で再確認。
- 3 駐中ブレーキをもちます。
- 4 ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏みます。



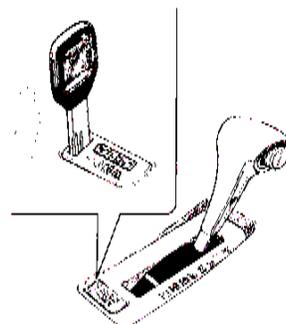
- マニュアル車は、発進時の速度を、クラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車は、アクセル操作のみで行うので、アクセル操作は慎重に行ってください。

急な坂道での発進

- セレクトレバーの位置を目で確認し、
- ・駐中ブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、
 - ・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
 - ・中が動き出す感触を確認しながら、
 - ・駐中ブレーキをもちだして発進。



- 万一、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられないときは、エンジンスイッチからキーを抜き、シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



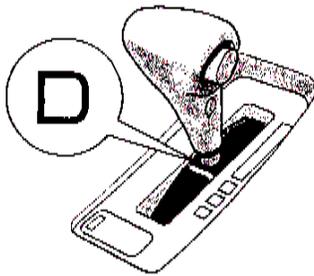
走行

走行中はレクタレバーをINにしないでください。



- INにするとエンジンブレーキが全くなりかなくなるため、思わぬ事故の原因になります。またINにしても燃費の差はありません。

通常走行



レクタレバーをDにして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から4速まで自動的に変速されます。

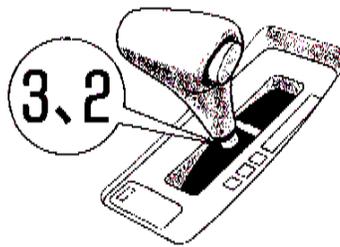


- 高速走行中に2または1に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかり、エンジンが過回転になり故障したり、タイヤがスリップすることがあります。

急加速したいとき

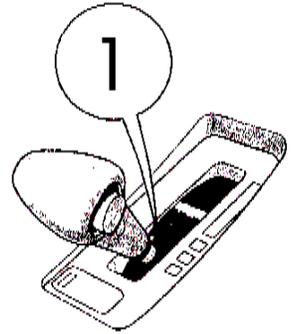
アクセルペダルをいっぱい踏み込めば、キックダウンして急加速します。

上り坂走行



坂の勾配に応じ、レクタレバーを3または2に入れておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行



下り坂今回のまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、レクタレバーを1または2に入れて、エンジンブレーキを併用します。

さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、Dに入ります。



- フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して、ききが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを使ってください。

停車

[1]そのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。



- エアコンスイッチが入っているときは、断続的にアイドルアップし、クリーブ現象が強くなります。このようなときは、ブレーキペダルを特にしっかりと踏んでください。

[2]必要に応じて駐車ブレーキをかける。



- 急な上り坂での停車はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でP/N以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

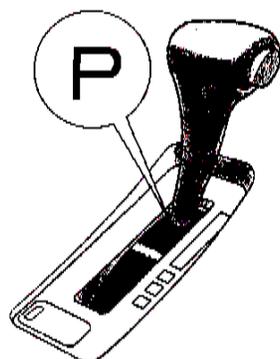
[3]停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。



- 停車中、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーがP/N以外のおとき、思わぬ急発進の原因になります。
- 停車後、再発進するときは、セレクトレバーがDにあることを確認してください。

駐車

- [1]車を完全に止める。
- [2]ブレーキペダルを踏んだ後は、駐車ブレーキをかける。
- [3]セレクトレバーをPに入れる。



- 駐車の際は、セレクトレバーが必ずPに入っていることを確認してください。セレクトレバーがPのときは、駆動軸が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

[4]エンジンを止める。



- エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがP/N以外に入っていたとき、クリーブ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
 - ・急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損の原因になります。

ほかに気をつけたいこと

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

■オートマチック車の運転のしかた

クルーズコントロール

高速道路または直道、停止の繰り返しの少ない自動中道などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても中速を一定に保つ装置です。中速は、マニュアル中は約30~100km/h、オートマチック中は10または30のときに約40~100km/hの範囲で希望値に設定できます。また、アクセルペダルを踏まずに中速を上げ下げしたり、一時的な減速後、もとの中速に自動的に戻すことができます。



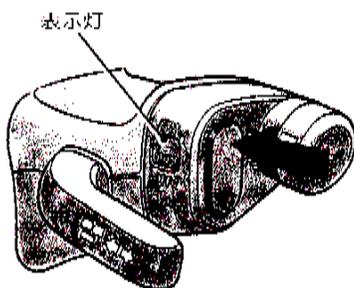
●登坂時や降坂時は条件によっては一定車速を保てない場合があります。



- つぎのような道路では安全のため、使用しないでください。
 - ・混んでいて車間距離が十分とれない道路
 - ・急なカーブ、急な下り坂のある道路
 - ・凍結路、積雪路など滑りやすい道路

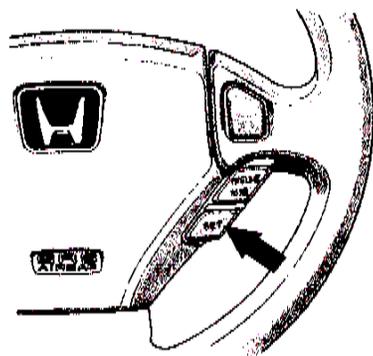
●希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

1 (CRUISE) (クルーズ) スイッチ上部を押して“ON”にします。“ON”のとき表示灯が点灯します。(CRUISE)スイッチ下部を押すと“OFF”になります。



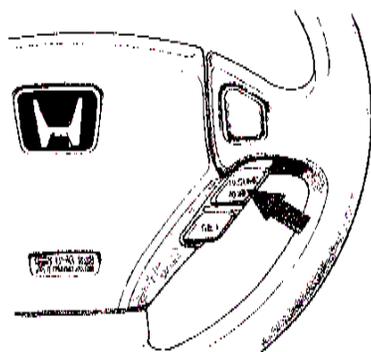
2 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”位置にすると、(CRUISE)スイッチは自動的に“OFF”になります。クルーズコントロールを使うときは、(CRUISE)スイッチ上部を押して“ON”にしてください。

3 アクセルペダルを加減して希望の中速になったら (SET) (ヒット) スイッチを押して離すと、離れたときの中速にセットできます。中速がセットされ自動定速走行になると、メーター内の表示灯 (CRUISE) が点灯します。



- 自動定速走行中は、アクセルペダルの下側に足を入れないでください。アクセルペダルが自動的に動きますので、足をはさまれることがあります。
- 自動定速走行をしないときは、安全のため (CRUISE) スイッチを“OFF”にしておいてください。

●設定車速を上げたいときの操作(自動定速走行中)



(RESUME・加速)(リジューム・加速)スイッチによるとき

(RESUME・加速)スイッチを押し続けます。希望車速になったときスイッチを離すと、離れたときの中速にセットされます。

*RESUME(リジューム)は英語で「回復する、復帰する」という意味です。

アクセルペダルによるとき

アクセルペダルで加速し希望車速になったとき、(SET)スイッチを一段押し離すと、離れたときの中速にセットされます。

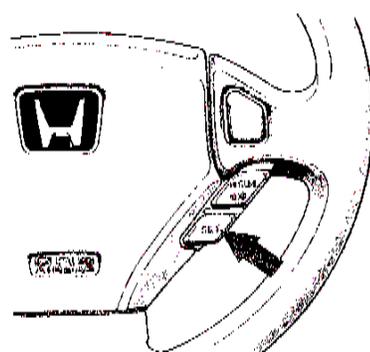
●設定車速を少し上げたいときの操作(自動定速走行中)

(RESUME・加速)スイッチを瞬間的に(約0.5秒間)押し離します。そのときの中速に対して約1.5km/h増速します。

●一時的に加速したいときの操作(自動定速走行中)

アクセルペダルを踏み込めば中速が上がります。アクセルペダルを離すともとの設定中速に戻り、定速走行ができます。

●設定車速を下げたいときの操作(自動定速走行中)



(SET)スイッチによるとき

(SET)スイッチを押し続けると減速します。希望中速になったときスイッチを離すと、離れたときの中速にセットされます。

ブレーキペダルによるとき

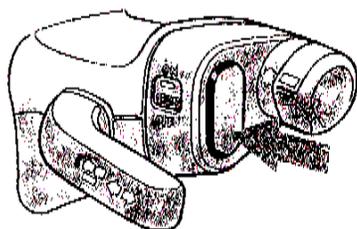
ブレーキペダルを踏んで希望中速に減速し、ブレーキペダルから足を離してから(SET)スイッチを押し離すと、離れたときの中速にセットされます。

●設定車速を少し下げたいときの操作(自動定速走行中)

(SET)スイッチを瞬間的に(約0.5秒間)押し離します。そのときの中速に対して約1.5km/h減速されます。

●自動定速走行状態を解除したいとき

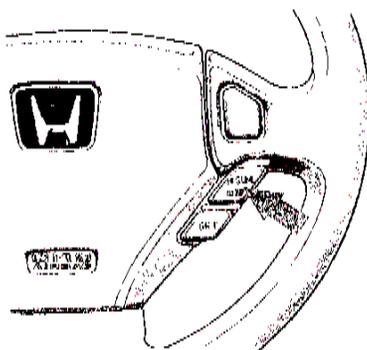
(CRUISE)(クルーズ)スイッチ下部を押して“OFF”にしてください。



次の場合にも解除されます。

- (1) ブレーキペダルを踏んだとき
- (2) クラッチペダルを踏んだとき
(マニュアル中)
- (3) レクトレバーを引いたらまたはINRにしたとき
(オートマチック中)
- (4) エンジン回転数が7,000r.p.m.前後まで上がったとき
- (5) 車速がマニュアル中は約30km/h、オートマチック中は約20km/hより下がったとき

●解除前の設定車速に戻したいとき



前記(1)、(2)、(3)、(4)いずれかの操作の解除されても車速が、マニュアル中は約30km/h以上、オートマチック中は約20km/h以上になっている場合は、(RESUME・加速)スイッチを押して離すと、もとの設定車速まで戻り自動定速走行ができます。



- (SET)または(RESUME・加速)スイッチを押しながら前記(1)、(2)、(3)、(4)いずれかの操作をしたときは(RESUME・加速)スイッチでの車速の復帰はできません。

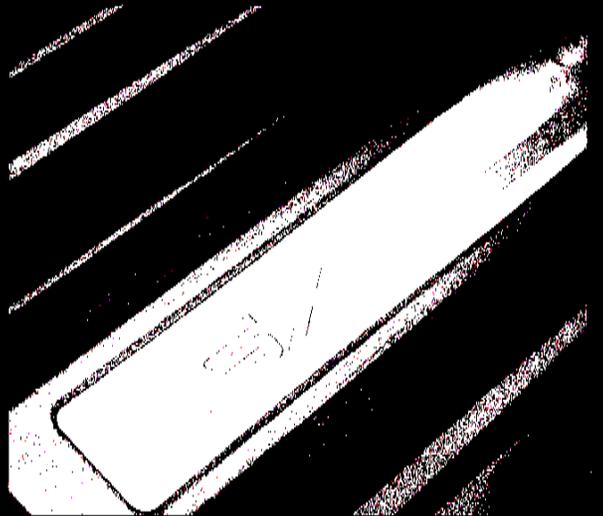


- マニュアル車は、ニュートラルのとき(SET)または(RESUME・加速)スイッチを押さないでください。エンジン回転が急激に上がりエンジンに悪影響を与えます。

NSX

○
3

安全装備



SRSエアバッグシステム (運転席用 シートベルト補助乗員補護装置) …	78
トラクションコントロール システム(TCS) …	79
アンチロックブレーキシステム (ALB) …	79
ブレーキパッドの摩耗警告 …	80

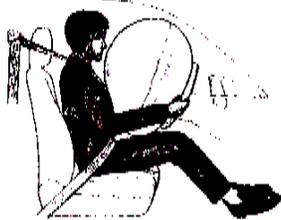
SRSエアバッグシステム (運転席用シートベルト補助乗員保護装置)

エアバッグは前方向からの強い衝撃を受けると膨らみ、運転者の顔面への衝撃を緩和する装置で、シートベルトと併用することで、その効果を発揮します。

必ずシートベルトを装着してください。

エアバッグはエンジンスイッチが“ON”で、前方向からの強い衝撃を受けただけのみ膨らむようになっています。

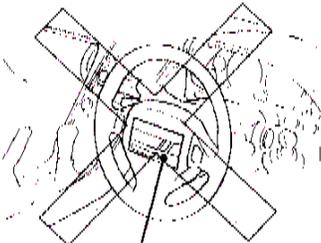
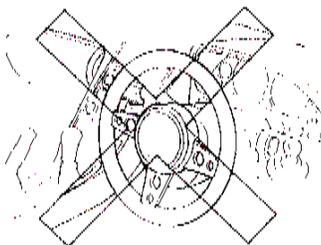
横方向や後部からの衝突、あるいは転倒のような時には作動しません。



- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。ホンダベルノ店で交換してください。
- 膨らんだエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。



- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったり、カバーをつけたりすると正常に機能しなくなります。



- ハンドルまわりやセンターコンソール付近の修理、カーステレオ等用品の取付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダベルノ店にご相談ください。

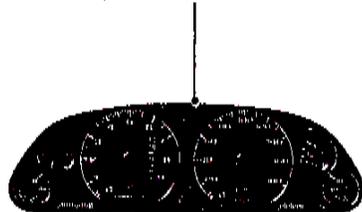
●警告灯

メータ内に組み込まれており、診断ユニットが異常を検出すると同時に点灯し、運転者にシステムの異常を知らせます。

エアバッグ警告灯は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。

エアバッグ警告灯

●SRS: サプリメンタルレストRAINTシステム (Supplemental Restraint System) の略で補助制動装置の略称。



トラクションコントロールシステム(TCS)

トラクションコントロールシステムは、滑りやすい道などで後輪(後輪)の無駄な空転を防止し、駆動時の走行安定性を確保する装置です。

この装置は、スイッチ操作によりそのシステムを“OFF”にすることもできます。

その場合、トラクションコントロールシステムが装備されていない車と同じになります。



- エンジンを始動すればトラクションコントロールシステムは、自動的に“ON”になります。



- トラクションコントロールシステム作動表示灯(→55ページ)が点滅している時はトラクションコントロールシステムが作動していますが、これを過信して無理な運転はしないでください。
- トラクションコントロールシステムには、積極的にブレーキをかける機能はありません。
トラクションコントロールシステム装備車であってもカーブ等の手前では十分に速度を落としてください。
- トラクションコントロールシステム装備車であっても雷道、凍結路を走るときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し、ひかえめな速度で運転してください。

トラクションコントロールシステム(TCS)スイッチ →62ページ

トラクションコントロールシステム(TCS)OFF表示灯 →55ページ

トラクションコントロールシステム(TCS)作動表示灯 →55ページ

トラクションコントロールシステム(TCS)警告灯 →55ページ

アンチロックブレーキシステム(ALB)

アンチロックブレーキは、滑りやすい道などでブレーキをかけたときに、中輪のロックを制御して操舵能力を確保する装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはアンチロックブレーキが適切に作用しているときの現象で、異常ではありません。

そのほか、ブレーキペダルを強く踏み続けるとください。



- 走行中、またはアンチロックブレーキ作動後、フロントコンパartmentから“キュルキュル”音が発生することがありますが、これはアンチロックブレーキポンプの作動音で、異常ではありません。



- 悪路、砂利道などで、タイヤが飛び跳ねるような状態で走行しているときには、アンチロックブレーキの装備されていない車に比べて制動距離がのびることがあります。このような道路条件では速度は控えめにし、車間距離を十分にとってください。

アンチロックブレーキ警告灯 →55ページ

ブレーキパッドの摩耗 警告

ブレーキパッドの摩耗警告装置は、パッドの使用限界を音で知らせる装置です。



- パッドが摩耗して交換時期になると、走行中に金属的な摩擦音がします。早めに、交換してください。

[Faint, illegible text covering the majority of the page, likely bleed-through from the reverse side.]

NSX

○

4

ドライブを快適にする装備



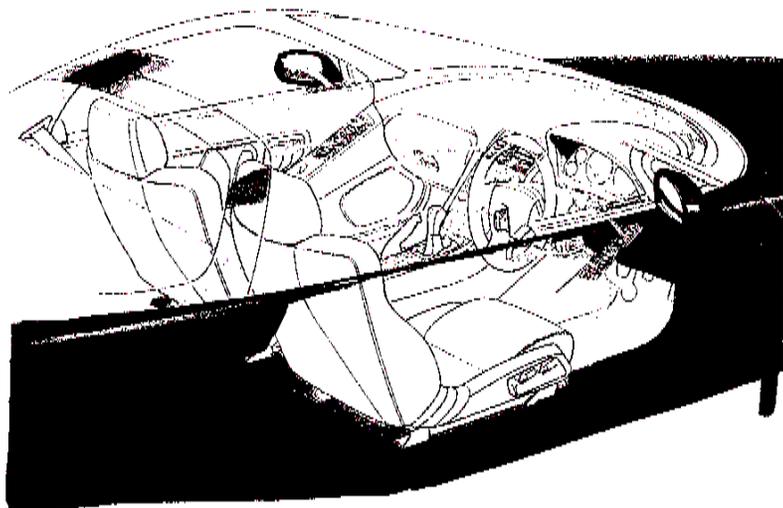
ヒーター・エアコン

- 吹き出し口開閉ダイヤル 84
- オートエアコン 85

室内装備品

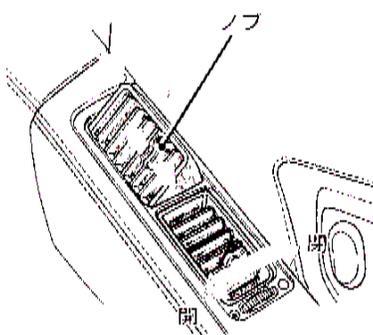
- AM/FM一体式CD・カセットステレオ 88
- オーディオの上手な使いかた 96
- アンテナ 97
- 時計 98
- 室内灯 98
- 照明灯 99
- 灰皿 99
- シガレットライター 99
- サンバイザー 100
- 小物入れ 100

ヒーター・ エアコン

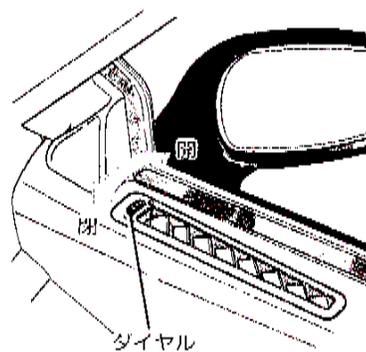


吹き出し口開閉ダイヤル

側面の吹き出し口からの送風が必要など時には、ダイヤルを“開”に、不要なときには“閉”にします。



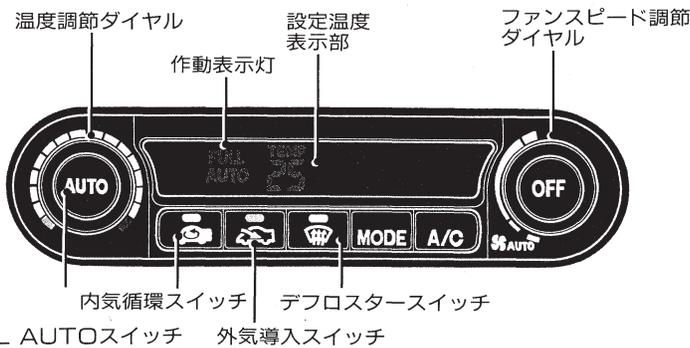
ノブを上下または手前に動かして、吹き出し風の向きを調節します。



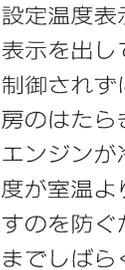
オートエアコン

このオートエアコンは自動でも手動でも使うことができます。

●自動で使う場合



ファンスピード調節ダイヤルを“AUTO”にします。



“AUTO”スイッチを押してから温度調節ダイヤルを回して希望する温度を設定します。

設定温度表示部に“18”または“32”の表示を出して使った場合には、自動制御されずに最大冷房または最大暖房のはたらきをします。エンジンが冷えている場合、設定温度が室温より高いと、冷風が吹き出すのを防ぐため、エンジンが暖まるまでしばらくファンは回転しません。



- 希望の温度に設定したら、温度調節ダイヤルをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなる場合があります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。



- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

内外気の切り換え

“FULL AUTO”で使用中、次のスイッチを押すと



内気循環



外気導入

になります。このとき“FULL”の作動表示灯は消えますが、内外気を選択以外は自動制御されます。

“FULL AUTO”(自動)に戻したいときは“AUTO”スイッチを押します。

“FULL AUTO”で使用中は、ガラスの曇りを防ぐため、特定の場合を除いては外気導入を自動選択しています。トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときに、一時的に内気循環にしたい場合などに“”を押してください。

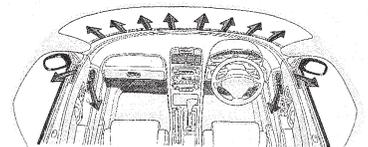
前面／側面ガラスの霜取り(デフロスター)、曇り止め

“FULL AUTO”で使用中、



ボタンを押すと、下図の

ように風が吹き出してガラスの曇りを取ります。このとき“FULL”の作動表示灯は消えますが、吹き出し口の選択以外は自動制御されます。



急速に霜を取りたいときは、



温度調節ダイヤルを回して最大温度(32°C)に設定し、



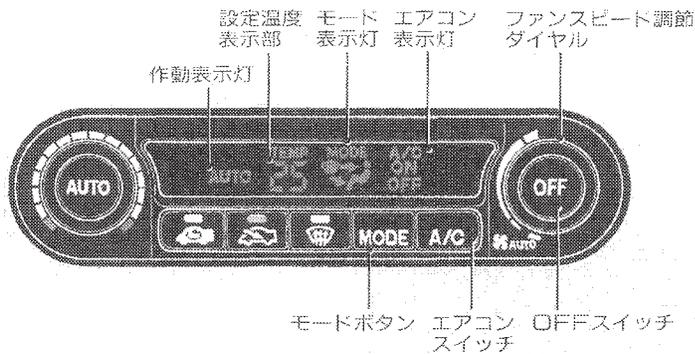
を押して内気循環にします。

“FULL AUTO”(自動)に戻したいときは“AUTO”スイッチを押します。



- デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたると、ガラスの外側が曇ることがあり、その場合、視界を妨げて危険です。

●手動で使う場合



手動で操作したい場合は、パネルの操作ボタンで行います。

“FULL AUTO”(自動)で使用中でも押したボタンの機能が優先されます。このとき“FULL”の作動表示灯は消えますが、押したボタン以外は自動制御されます。

“FULL AUTO”に戻りたいときは“FULL AUTO”スイッチを押して下さい。

吹き出し口の切り換え

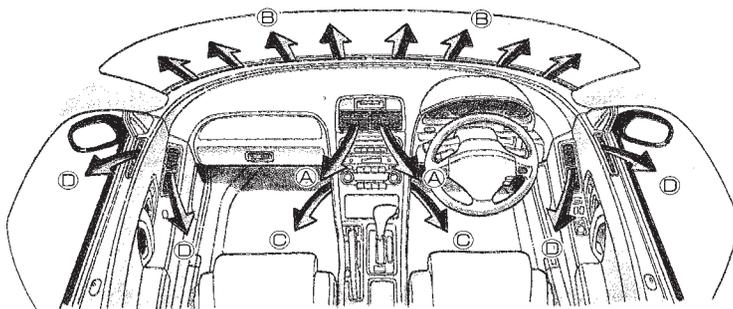


ボタンを押すと、吹き出し口の切り換えができます。

モードボタンを押すたびにパネルの表示が換わり、吹き出し口も下図のようになります。

表 示	吹き出し口
	Ⓐ ・ ・ ㉔
	Ⓐ ・ ㉔ ㉔
	・ ・ ㉔ ㉔
	・ ㉔ ㉔ ㉔

表示がどの位置でも㉔からは風が出ます。吹き出し風調節ダイヤルで吹き出し量を調節します。



エアコンスイッチ

冷房効果や除湿効果を得たいときには“ON”にし、不要のときは“OFF”にします。



スイッチを押すたびに“ON”と“OFF”をくり返します。

ファンスピード調節ダイヤル



“AUTO”位置から動かして、ファンのスピードを10段階に調節できます。

ダイヤルを“AUTO”に戻すとファンスピードは自動調節に戻ります。

●停止するとき



“FULL AUTO”(自動)で使用中でも、手動で使用中でも“OFF”(切)スイッチを押せばすべての機能が停止します。

●冷房を常用しない場合の手入れ

装置各部のオイルをさらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で、数分間冷房または除湿運転してください。



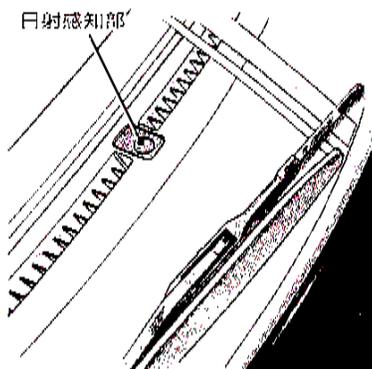
スイッチを押して作動させます。



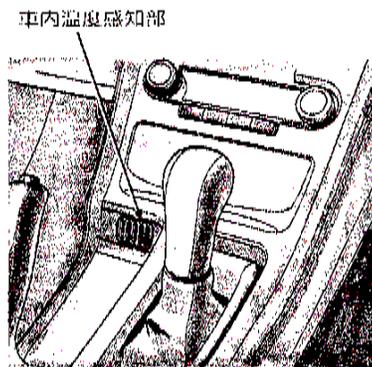
●室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合は室内を暖めてから内気循環で使ってください。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置がついています。温度感知部をふさいだり、水をかじたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。



日射感知部



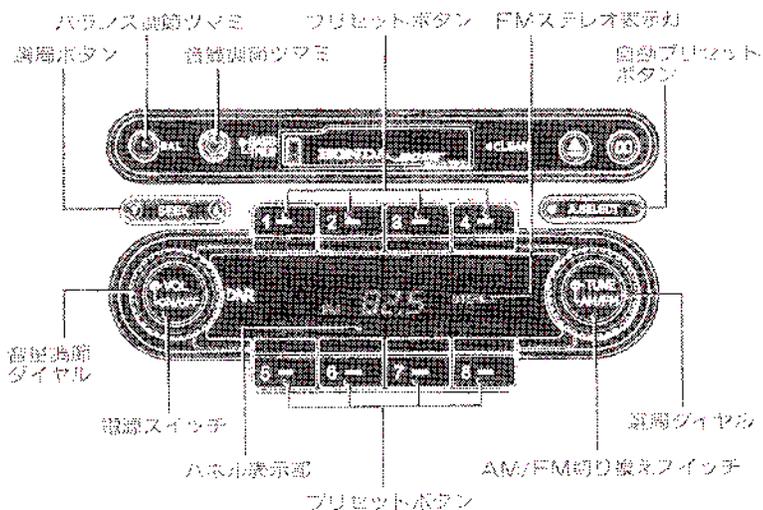
車内温度感知部

オートエアコン

室内装備品

AM/FM一体式 CD・カセットステレオ

●ラジオの使いかた



電源

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき、



を押せば電源が入り、もう一度押せば切れます。

音量調節



ダイヤルを回して調節します。

音質調節



を押すととび出し、調節できます。

ツマミを左右に回すと、低音と高音の音質が調節できます。ツマミは押すととび出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



低音調節ツマミ



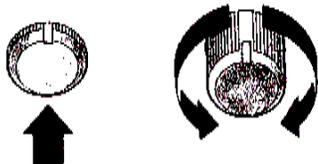
高音調節ツマミ

バランス調節



を押すと、音出し、調節できます。

ツマミを左右に向すと、左右スピーカーの音のバランスが調節できます。ツマミは押すと音出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



夜間、カセットステレオの照明を消灯させたい場合は、ツマミを引いてください。

表示部および機能しているボタンの表示灯を消し、消灯します。

AM/FMの切り換え



を押すと、AM/FMが互いに切り換わり、パネル表示部の表示灯“AM”“FM”が点灯します。

ワンタッチ選局操作

プリセットボタンを押すと、あらかじめセットされた放送が受信できます。

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、パネル表示部のFMステレオ表示灯“STEREO”が点灯します。

選局ボタン

放送局の違う地域へへかけたときなど、セットされた放送局以外を聞くときに操作します。



を押すと自動選局し、放送を受信すると止まります。ボタンの右側を押すと周波数の高いほうへ移動し、左側を押すと低いほうへ移動します。

手動で選局するときは、



を回して周波数を変え、選局します。

ワンタッチ選局の記憶操作



を押して選局します。選局した後プリセットボタンのいずれか一つを2秒以上押すと“ブツ”という電子音がして、記憶できます。

同じ要領で、すべてのボタンに記憶ができます。AM/FM各8局まで記憶できます。



- 一度電源が切れた場合(バッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。その時は再度記憶操作をしてください。

自動プリセット操作

放送局の違う地域へへかけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなったときに操作します。



を押すとボタン内の表示灯が点滅し、自動選局を始めます。自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からプリセットボタンにAM/FM各8局まで自動的に記憶されます。ボタン内の表示灯が点灯している間は、自動選局にセットされている状態です。

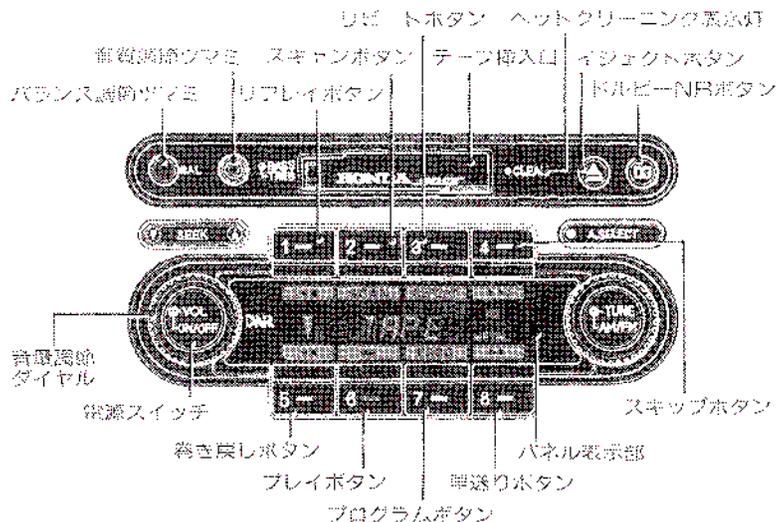


をもう一度押すと、表示灯は消灯し、プリセットボタンの記憶は、あらかじめセットされていた状態にもどります。



- 放送局が8局に満たないときは、残りのプリセットボタンには何も記憶されません。記憶されていないボタンを押すと周波数が“0”と表示されます。
- 自動プリセットが終了すると、ボタン内の表示灯は点滅から点灯に変わり、周波数表示部には自動選局された電波の強い放送局が表示されます。
- 受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは、手動で選局してください。

●カセットプレーヤーの使いかた



電源

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき



想望しラジオの電源を入れます。

カセットテープを挿入口に差し込むと、演奏が始まります。

テープ演奏中は、パネル表示部に“TAPE”と、“▲”または“▼”のテープ進行表示灯が点灯します。

音質調節



ダイヤルを回して調節します。

音質調節



を押すととび出し、調節できます。

ツマミを左右に回すと、低音と高音の音程が調節できます。ツマミは押すととび出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



低音調節ツマミ



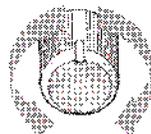
高音調節ツマミ

バランス調節



を押すととび出し、調節できます。

ツマミを左右に回すと、左右スピーカーの音のバランスが調節できます。ツマミは押すととび出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



夜間、カセットステレオの照明を消灯させたい場合は、ツマミを引いてください。

表示部および機械化しているボタンの表示灯を押し、消灯します。

プログラムの切り換え

テープの片側の演奏が終了すると、自動的にもう一方の演奏を開始します。



を押すと、演奏の途中で切り換えることができます。

演奏の停止



を押してカセットテープを強制止めます。

カセットテープを取り出すと、ラジオ放送に切り換わります。

早送り、巻き戻し

早送り、巻き戻しは、次のボタンを押して操作をします。ボタンを押すと表示灯が点滅します。



早送り



巻き戻し



を押すと早送り、巻き戻しを止め、音楽を再開します。

リピートボタン



を押すと、ボタン内の表示灯が点灯し、もう一度リピートボタンを押すまで、再生中の曲を繰り返し聞くことができます。



●次の場合、リピート機能がはたらかないことがあります。

- ・曲と曲の間の音が無い部分が4秒以下のとき。
- ・曲と曲の間に雑音が入っているとき。
- ・曲の途中で音が無い部分があるとき。

リプレイボタン



を押すと、ボタン内の表示灯が点灯し、再生中の曲の初めまで巻き戻され、再度聞くことができます。

スキップボタン



を押すと、ボタン内の表示灯が点灯し、曲の途中で次の曲に移ることができます。

スキャン(頭出し)ボタン



を押すと、ボタン内の表示灯が点灯し、テープは早送りされて、曲と曲の間の“おき”(4秒以上音のない部分)を見つけ出し、曲のはじめを10秒間演奏します。

早送りされている間、スキップボタンの表示灯は点灯します。

聞きたい曲があれば、もう一度“SCAN”ボタンを押してください。通常の演奏状態に戻ります。

10秒間演奏した後、さらに早送りされて“おき”を見つけ出して再び10秒間演奏します。表示灯が点灯している間は、この動作が繰り返し行われ

ます。この機能を削除するときは、もう一度“SCAN”ボタンを押してください。



●次の場合、スキャン機能がはたらかないことがあります。

- ・曲と曲の間の音が無い部分が4秒以下のとき。
- ・曲と曲の間に雑音が入っているとき。
- ・曲の途中で音が無い部分があるとき。

オートテープセレクター

ノーマルテープ、クロームテープ、メタルテープが使えます。クロームテープ、メタルテープ使用時にメタルの表示灯に“METAL”(メタル表示灯)が点灯します。

ドルビーNRボタン

ドルビーNR再生をするには、



を押します。ボタンを押すとパスル表示灯に表示灯が点灯します。

ドルビーNR再生されたテープを再生する場合、音域雑音の少ない演奏が楽しめます。

ドルビーNR再生されていないテープを再生する場合は、ドルビーボタンを押して表示灯を消灯させ、ドルビーNR再生を解除します。

オートテープセレクターの機能は、ドルビーノーマルテープ、クロームテープ、メタルテープから自動的に認識して自動的に設定されています。

ドルビーNR再生が有効な場合、[X]はドルビーNR再生、オフの場合は再生しない状態です。

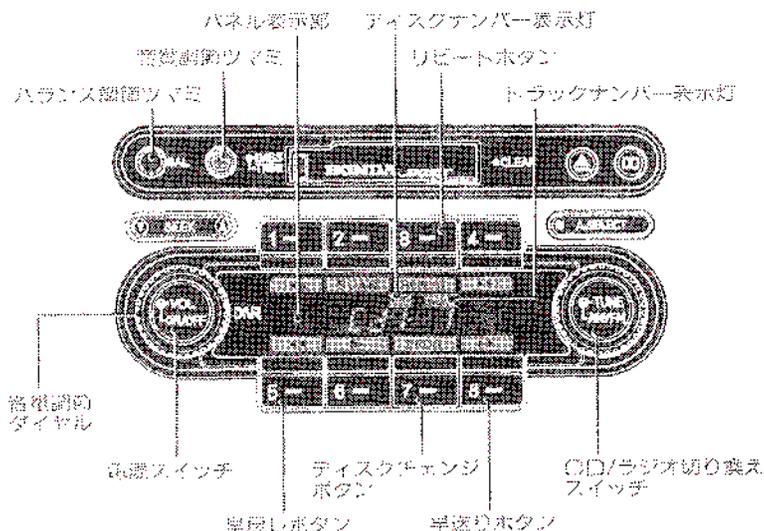
ヘッドクリーニング表示灯

テープ演奏が自動的に止まると、ヘッドクリーニング表示灯が点灯します。市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。

ヘッドクリーニング表示灯を3秒以上連続して押し続けると消灯します。

ドライブを快適にする装備

●CDプレーヤーの使いかた CDチェンジャー装備車



バランス調節



を押すととび出し、調節できます。

ツマミを左右に回すと、左右スピーカーの音量バランスが調節できます。ツマミは押すととび出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



押す



夜間、カセットステレオの照明を消灯させたい場合は、ツマミを引いてください。

表示部および機能しているボタンの表示灯を残し、消灯します。



- ディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に次のディスクの初めから演奏が始まります。
- ディスクマガジンの中の6枚目のディスクの最後の曲の演奏が終わると、自動的に1枚目のディスクの初めから演奏が始まります。

電源

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき、



を押してラジオの電源を入れます。



を押して、パネル表示部に“Cd”を表示させます。

パネル表示部にディスク及びトラックナンバーが表示され、演奏が開始されます。

音量調節



ダイヤルを回して調節します。

音質調節



を押すととび出し、調節できます。

ツマミを左右に回すと、低音と高音の音質が調節できます。ツマミは押すととび出し、もう一度押すと元の位置にもどります。



押す

低音調節ツマミ



高音調節ツマミ

演奏の停止



を押すとラジオに切り換わります。



を押すと電源が切れます。

または、エンジンスイッチを切ると電源が切れます。

ディスクの呼び出し

CDチェンジャー内のディスクマガジンにセットされた複数のディスクの中から演奏させたいディスクを呼び出すことができます。



を押してディスクを選びます。

パネル表示部にディスクナンバーが表示され、初めの曲から演奏が開始されます。

早送り、早戻し



を押し続けると早送りされ、



を押し続けると早戻しされます。

それぞれのボタンを数秒と、演奏が再開されます。



- 早送り、早戻しは、1枚のディスクの中だけで機能します。
- 最後まで送ったときや、最初まで戻したときには早送り、早戻しはできません。

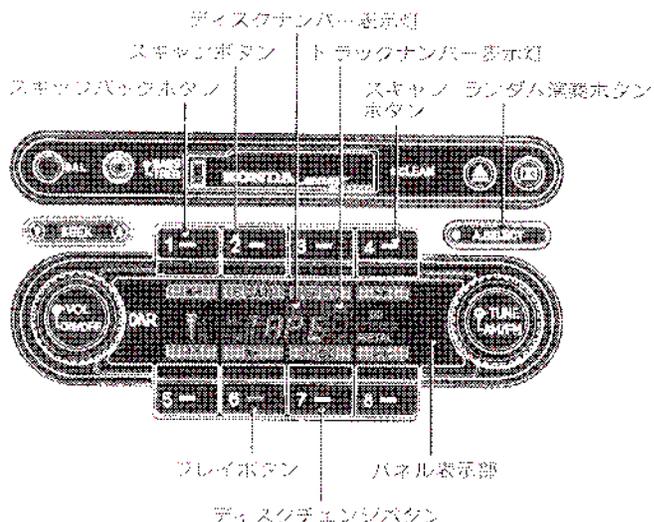
リピートボタン



を押すとボタン内の表示灯が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏することができます。

もう一度ボタンを押すと、リピート機能は解除されます。

ドライブを快適にする装備



スキップボタン

その途中で先がから聞きたいときや、別の曲に移りたいときに使います。



を押すと、前後中の曲の半分あたり（1秒以内）にさき戻すか先の曲になります。

パネル表示部のトラックナンバーが「1」のときは、演奏中のディスクの最初から曲になります。



を押すと、次の曲に移ります。

パネル表示部のトラックナンバーが演奏中のディスクの最後の曲のときは、そのディスクが一曲目になります。

スキャンボタン

ディスクにどんな曲が入っているのかわじりたいときなどに、スキャン機能を使います。



を押すと、各曲の最初の部分を約10秒間、つぎつぎと演奏します。

スキャン機能を解除する場合は、スキャンボタンをもう一度押すか、



を押すと解除され、その曲の演奏を開始します。

別のディスクをスキャンしたいときは、



を押して、別のディスクを挿入してからスキャン操作してください。

ランダム演奏

1枚のディスクの曲をランダムに組み替えて演奏させることができます。



を押すと表示灯が点灯し、ランダム演奏が開始されます。

ランダム演奏は演奏中のディスクの中で行われ、演奏が終わると自動的に次のディスクに移り、ふたたびランダム演奏が開始されます。

ランダム演奏の機能を解除するには、もう一度ボタンを押します。この場合、演奏中の曲から通常の演奏に戻ります。

エラーコード

パネル表示部にエラーコードが表示されたときは、下表にしたがって点検してください。

エラーコード	原因	処置
E-01	ディスクチェンジの動作の異常	ホンダベルノ店で点検を受けてください。
E-02	ディスクがトランクユニット内部に残っている	トランクユニットのイジェクトスイッチを押してディスクマガジンを取出した後、空のディスクマガジンを挿入してディスクを回収します。
E-03 E-04 E-05	ディスクチェンジの動作の異常	数秒間表示されることがありますが、エラー表示が消えれば問題はありません。表示が消えないときは、ホンダベルノ店で点検を受けてください。
E-06	ディスクチェンジの動作の異常	トランクユニットのイジェクトスイッチを押して、ディスクマガジンを取出します。エラー表示が消えれば問題はありません。表示が消えないとき、またはディスクマガジンが取り出せないときは、ホンダベルノ店で点検を受けてください。
E-07	ディスクマガジンがイジェクトできない(装着不良)	
---H	中肉温度の上昇を検知	車内温度が適温に戻ると、エラー表示は消えます。
E-EE	チェンジャーと、CDプレーヤーの通信が不通	チェンジャーと、CDプレーヤーの接続を確認してください。
----	チェンジャーに、ディスクマガジンが入っていない	チェンジャーに、ディスクマガジンを入れてください。

オーディオの 上手な使いかた



- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量で、お使いください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

●ラジオについて

ラジオの受信については、アンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や直射光、電磁波などの影響により最適な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●カセットについて

(1)次のようなカセットテープは、故障の原因になりますので、ご使用はお避けください。

- ・ラベルのはがれかけカセットテープや変形したテープを使用しますと、回転不良やテープが取出せなくなる場合があります。



- ・120分テープは非常に薄いため、伸びたり、カセットプレーヤーに巻き付いたりする場合があります。

(2)カセットテープはケースに入れ、ほこり、直射日光や磁気のあるものの近くを避けて保管してください。



(3)カセットテープは、プレーヤーにテープが巻きこまれたりしないように、鉛筆などでたるみをとってから差し込んでください。



(4)音が歪んだ場合は、市販のクリーニングテープなどでカセットプレーヤーの手入れをしてください。

●CDについて

(1)下記のマークのついているディスク以外は使えません。



(2)8000ディスクを使用する場合は、(1)のアダプターを付けてディスクマガジンにセットしてください。

(3)ディスクの両表面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどを生ずることがあります。

(4)ディスクはケースに入れ、直射日光や高温多湿を避けて保管してください。

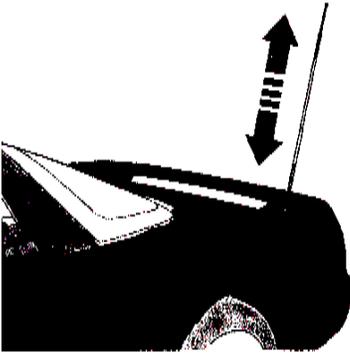
(5)悪路走行などで激しく振動した場合、音とびることがあります。

(6)寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取出し、換気または除湿をしてからお使いください。

アンテナ

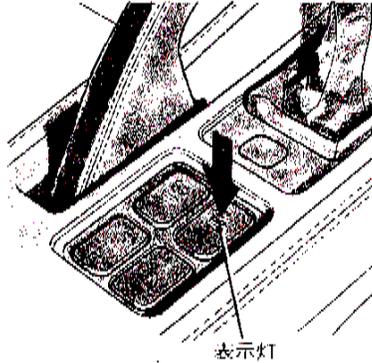
●オートアンテナ

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき、ラジオの電源を入れるとアンテナが自動的に伸びます。ラジオの電源を切るとアンテナは自動的に収納されます。



ハーフスイッチ

このアンテナは長さを変段階に調節できます。通常は全部伸ばして使います。屋根の低い場所へ入るときなどにはハーフスイッチを押すと、表示灯が点灯し、約20cm縮みます。またハーフスイッチを始めから押しおくと、ラジオの電源を入れたときも全部は伸びません。



- 故障の原因となりますのでアンテナを手で引き出したり、押し込んだりしないでください。
- 洗車場などでは必ずアンテナを収納してください。
アンテナを曲げたりすると伸縮性を損みます。

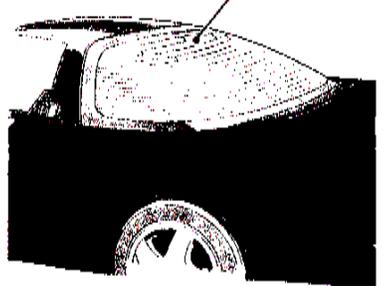


- アンテナの付近に人がいないことを確認してから、アンテナを動作させてください。

●窓ガラスアンテナ

リヤウィンドーの内側にアンテナ線があります。

窓ガラスアンテナ



- 窓の清掃のときはアンテナ線にそってやわらかい布でふき、かたい布などで傷つけないようにしてください。

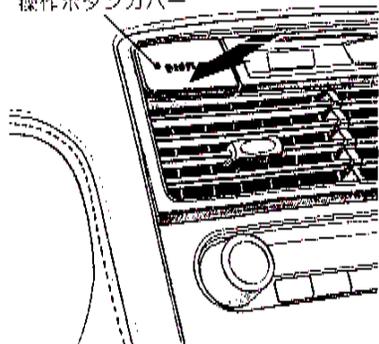
時計

●時刻表示

エンジンスイッチが“ON”のときに表示されます。

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”では、操作ボタンカバーを押ししている間、表示されます。

操作ボタンカバー



●表示の合わせかた

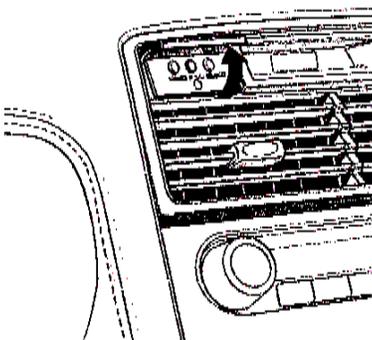
操作ボタンカバーを開け、エンジンスイッチを“ON”にします。

「時」の調整

“H” (HOUR) ボタンを押ししている間、「時」の早送りができます。

「分」の調整

“M” (MINUTE) ボタンを押ししている間、「分」の早送りができます。



「時報合わせ」

時報と同時に“H-HOLD” ボタンを押しと時報に合わせるができます。

(例)

1:01~1:09の場合は1:00

1:30~1:59の場合は2:00

になります。



- バッテリーの取り外し、ヒューズ切れなどで電源が切れ、再び電源が接続されると1:00の表示から始まります。
正しい時刻に合わせてください。

室内灯

“ON”

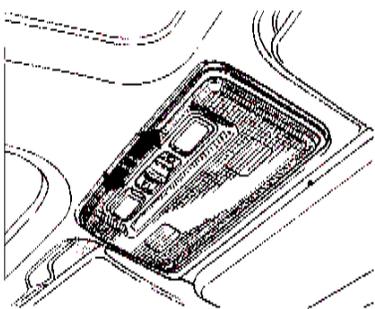
ドアの開閉に関係なく点灯します。

(中間)

ドアを開いたときのみ点灯します。

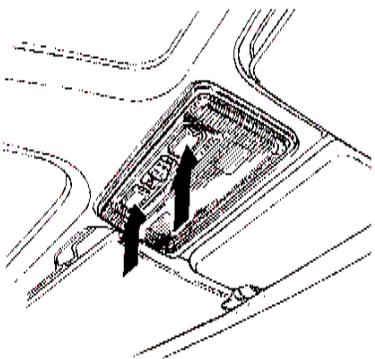
“OFF”

ドアの開閉に関係なく消灯します。



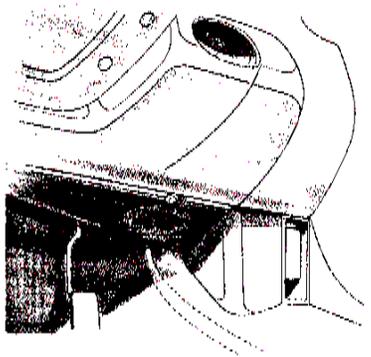
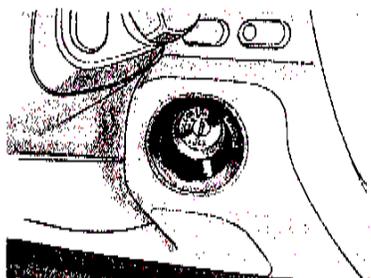
左右それぞれの室内灯は、スイッチを押しと点灯し、もう一度押しと消灯します。

夜間、中を止めて地図などを見るときに便利です。



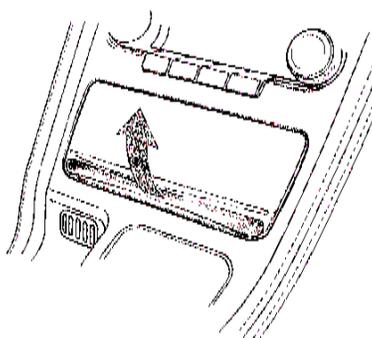
照明灯

運転席ドアを開けると、エンジンスイッチと足元の照明灯が点灯します。運転席ドアを閉めると、数秒後に消灯します。



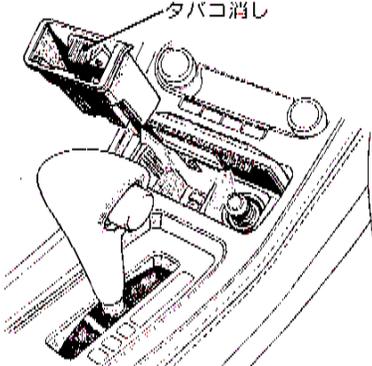
灰皿

フタを開けて使用します。



清掃するときは、フタを押し上げて手を離せば、取り出すことができます。

タバコ消し



元に戻すときは、灰皿をしっかりと押し込んでください。



- タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
- 吸いながらためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコの火が燃え広がる恐れがあります。

シガレットライター

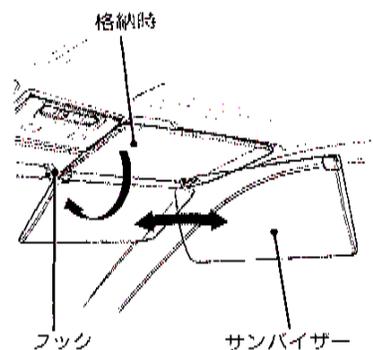
灰皿のふたを開けると、シガレットライターがあります。エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき使えます。ライターは自動的に戻るの押し込んだら手を離し、戻るまで待ちます。



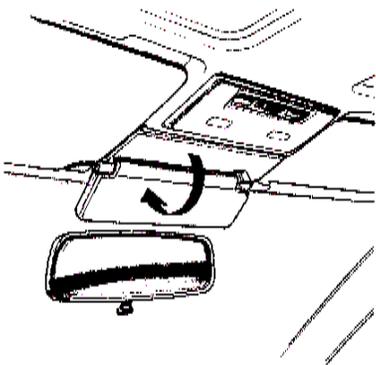
- ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。
- 押しつけたままにしないでください。ライターが過熱して非常に危険です。
- 他車のライターを使わないでください。戻らなくなることがあります。
- 30秒以上たっても戻らないときは故障の恐れがありますので手で引き出してください。
- ライターのさし込み口からはホンダ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

サンバイザー

サンバイザーを横に移動するときは、フックから外して行います。



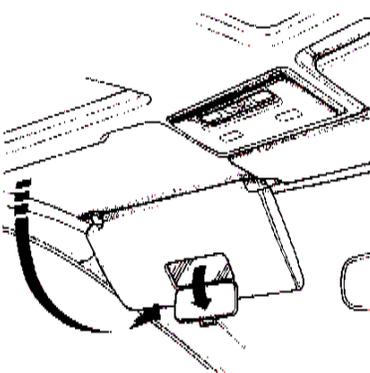
●センターバイザー



●化粧鏡(パニティミラー)

助手席のリンバイザーに鏡があります。

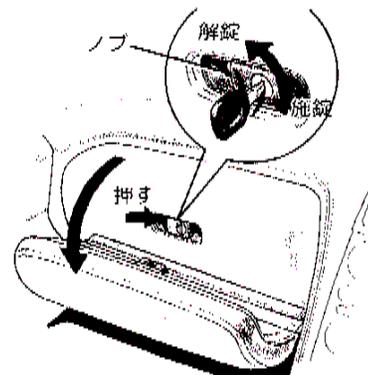
お化粧のときなどに便利です。



小物入れ

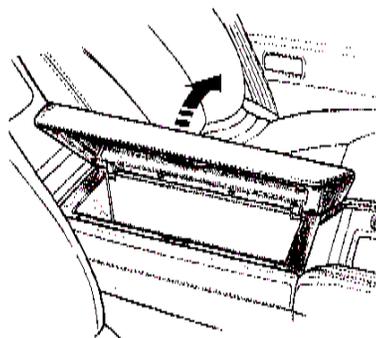
●グローブボックス

取手のノブを押すと開きます。マスターキーを使えば施錠(解錠)できます。ライトスイッチが“ON”のときグローブボックスのふたを開けると、照明灯が点灯します。

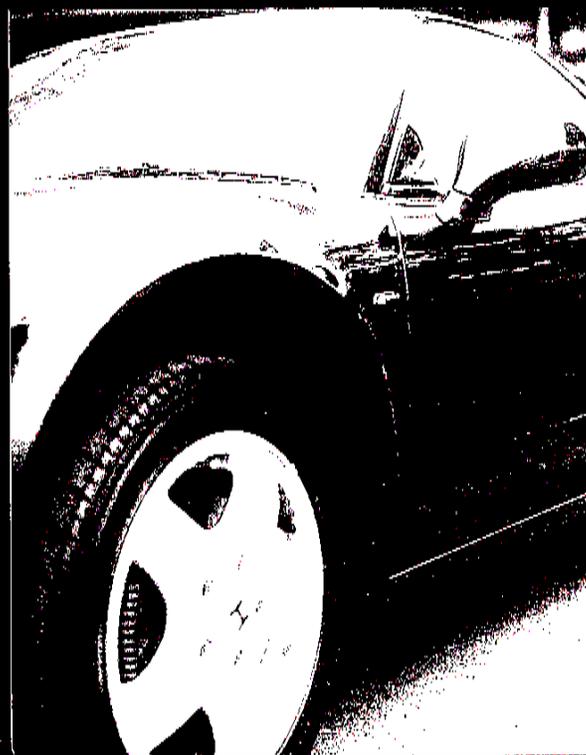
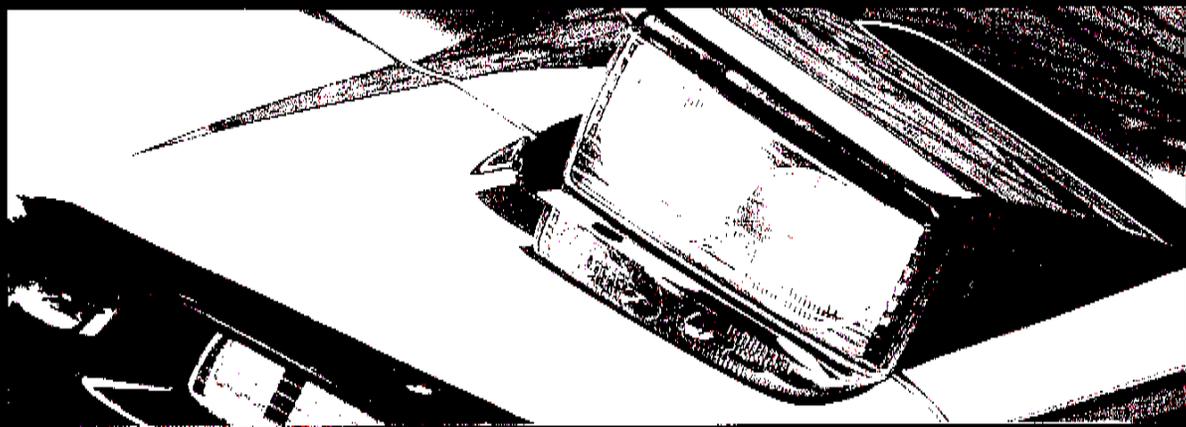


- 走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めておいてください。万一の場合、グローブボックスのふたや内部の小物が思わぬ危険物となります。

●コンソールボックス



万一のとき



工具

格納場所	104
工具	104

故障したとき

高速道路で故障したとき	105
踏切で動けなくなったとき	105
発炎筒について	105
故障の修理について	105
けん引について	106

パンクしたとき

ジャッキについて	108
応急用スペアタイヤ(折りたたみ式)	108
タイヤ交換	109

バッテリーあがりのとき

バッテリーの充電	114
----------------	-----

オーバーヒートしたとき

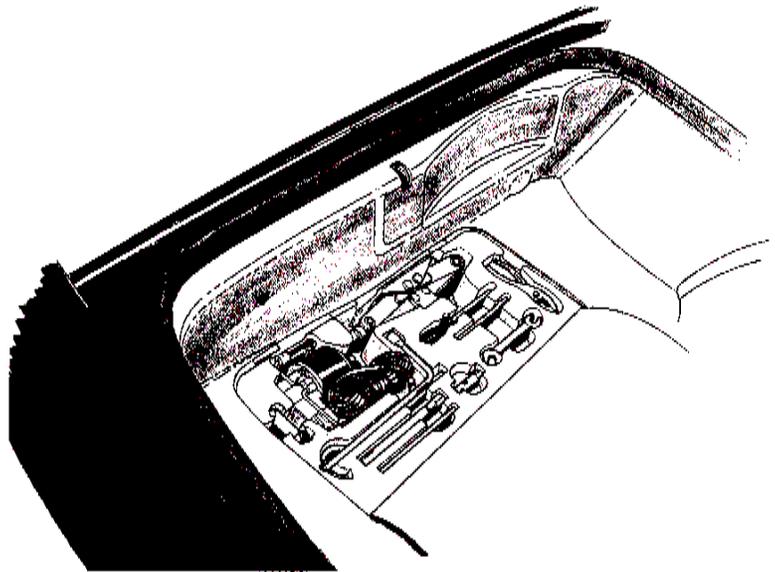
ライト類が点灯しないとき

ヒューズの交換	116
電球(バルブ)の交換	117
前照灯が昇降しないとき	120

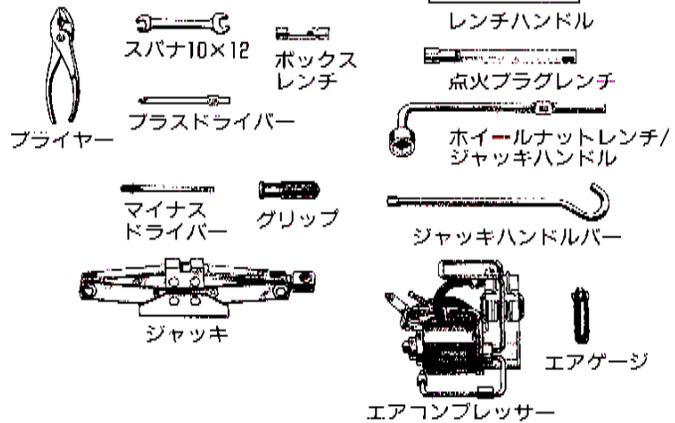
工具

格納場所

工具類は、トランクルーム内に格納してあります。



工具



●ジャッキ、工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。

格納場所

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板、発炎筒を使い、後続する中に故障中とわかるようにします。

高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を置いて表示してください。

踏切で動けなくなったとき

1) 付近に人がいる場合は、押してもらってください。

2) 急を迫られているときは、ただちにグローブボックス下に備え付けられている発炎筒で合図をしてください。

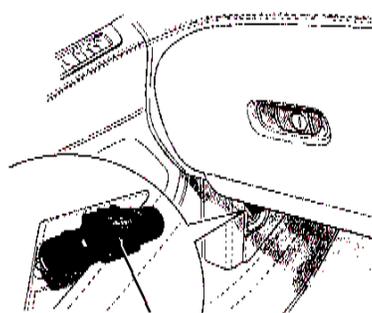
3) マニュアル車で急を要するときは、ギヤをP速に入れて、クラッチペダルを踏まずにスタートを回し、抜け出してください。



● オートマチック車は、スターターを回して車を動かすことはできません。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。



発炎筒



- 発炎筒を使うときは非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 使いかたや有効期限は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んで、確認しておいてください。



- お子さまにじらせないでください。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けてるとやけどの危険があるのでやめてください。
- ガソリンなどの燃えやすいものそばで使うと火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使うと視界を悪くするので危険です。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障の修理について

ホンダベルノ店へお申し付けください。

お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くなるものは、予定をお知らせします。

お持ちこみのおすかしいときには電話でご連絡ください。

遠出などのときは全国どこでもホンダベルノ店へご連絡ください。

所在地、電話番号については別冊の「整備手帳」をご覧ください。

けん引について

他車をけん引したり、前輪または後輪を持ち上げてけん引されることはできません。

●ロープ取り付け部

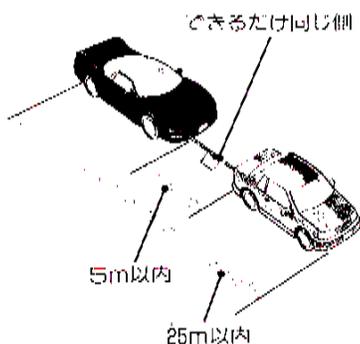
けん引される際には、カバーを外してロープ取り付け部を利用します。



- 他の部分へロープなどをかけないでください。
- ロープ取り付け部は、けん引されるときにのみお使いください。
- けん引時は、ロープ取り付け部に大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引されるとき

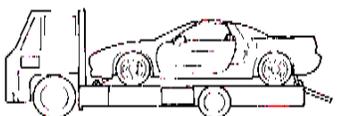
四輪を接地させて、エンジンをかけて次の方法で行ってください。



- けん引車の制動灯に注意して、ロープをたるませないようにしてください。また、ロープには白い布(0.3m平方以上)を必ず付けてください。



- エンジンが停止しているとブレーキ倍力装置ははたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。また、パワーステアリング装備車はパワー装置はたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。エンジンをかけないでけん引される場合は、十分注意してください。
- 長距離の移動は積載状態で行ってください。



マニュアル車

- ①変速レバーをN(ニュートラル)にします。
- ②エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にします。
- ③脚中ブレーキを解除し、けん引されます。



- けん引速度は30km/h以下にしてください。

オートマチック車

11 1トランスミッションオイルの量が14盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

トランスミッションオイル量の点検 ▶135ページ

12 エンジンをかけ、切り換えレバーを一度DにしてからNにします。



- トランスミッションを破損させないため、必ず2.の操作をしてください。

13 エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にします。

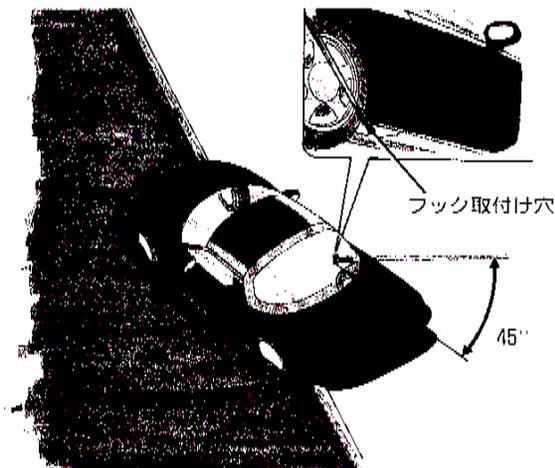
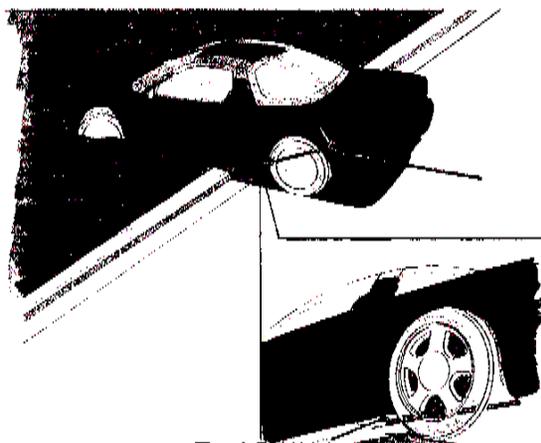
14 脚中ブレーキを解除し、けん引されます。



- エンジンがかからなかったり、切り換えレバーが動かない場合は、けん引しないでください。
- けん引速度は30km/h以下、走行距離は80km以内にしてください。

● 動けなくなったとき

脱輪などして後方へ引き出す場合は、フック取付け穴を使用します。



- 他車のけん引には、使用しないでください。

■けん引について

パンクしたとき

ジャッキについて

ジャッキは、トランクルーム内に格納してあります。



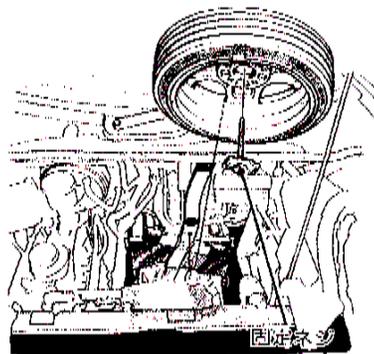
- ジャッキ、工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。

応急用スペアタイヤ (折りたたみ式)

ボンネットを開け、固定ネジをゆるめて取り出します。



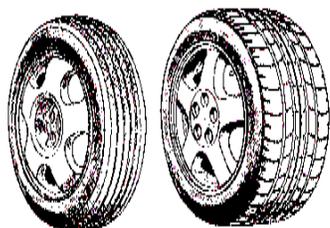
- 固定ネジ、ホイールは熱くなっている場合がありますので、取り出す際には手袋などをして、やけどに注意してください。
- 応急用スペアタイヤは、エンジンが停止した状態で取り出してください。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。

応急用スペアタイヤは空気の入っていない状態で格納されています。お使いになるときには、備え付けのエアコンプレッサーで、指定空気圧に調整してください。

応急用スペアタイヤは標準タイヤに比べて、直径がやや小さくできています。



応急用
スペアタイヤ

標準タイヤ

お使いになるときは次の注意事項をお守りください。



- 応急用スペアタイヤは必ずお車に取り付けてから、空気を入れてください。地面に置いたりすると、空気を入れるときにホイールとタイヤの間に石がはさまったりして、空気がもれることがあります。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り超えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはあなたのお車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の型式の車に使わないで下さい。
- 応急用スペアタイヤには標準タイヤ用のタイヤチェーンは装着できません。
- 応急用スペアタイヤが損傷した場合、修理はできません。必ずホンダベルノ店で交換してください。

タイヤ交換

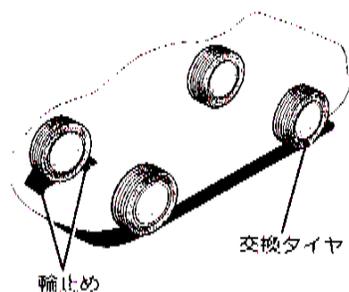
● 応急用スペアタイヤに交換するとき

①車を安全な場所に停め、1は鎖類を取り出します。

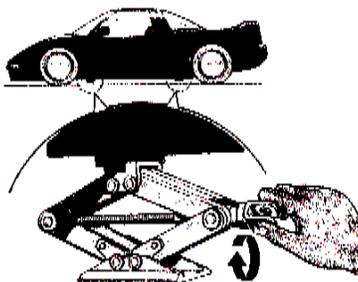


- ジャッキ、工具類は熱くなっていることがありますので、取り出す際には注意してください。

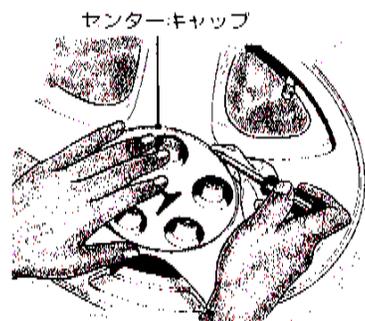
- ②陽圧ブレーキを十分にかかります。
③交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。



- ④ジャッキは図の部分の交換するタイヤに近い位置にかかります。



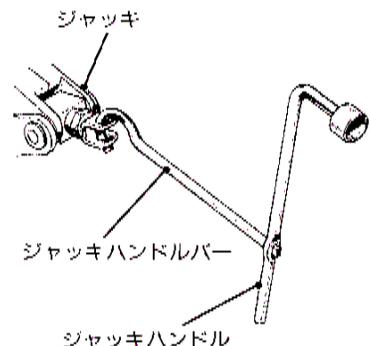
- ⑤センターキャップを外します。



- ホイールの表面を傷つけないようにドライバーの先端に布等を巻いてください。
- センターキャップを取り外すときは、床面に落ちて傷つかないように手でささえてください。

- ⑥ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめします。

- ⑦ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで中体を上げます。

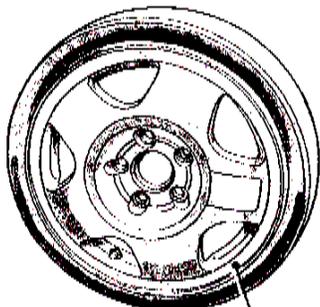


- ⑧ホイールナットを外し、タイヤを外します。

19 応急用スペアタイヤのホイールと、ハブの接触面をよきれをふき取りより。

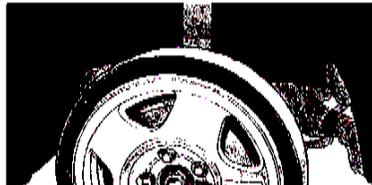


20 タイヤとリムの間に異物がないことを確認してから、取り付けます。

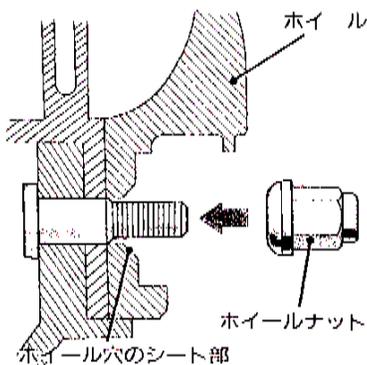


タイヤとリムの間

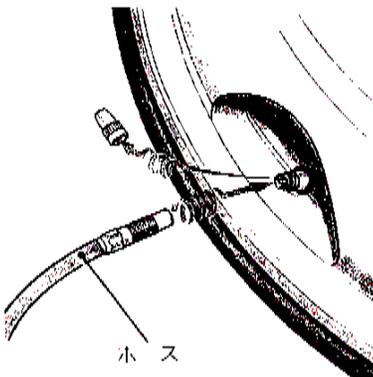
21 ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



ホイール
ホイールナット

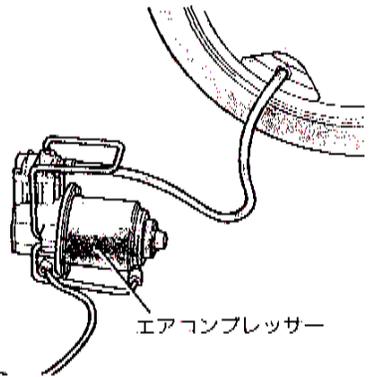


22 バルブキャップを外し、バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付けます。



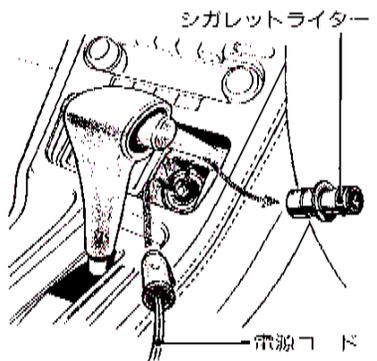
ホース

23 矢印の向きを上にして、エアコンプレッサーを設置します。



エアコンプレッサー

24 エアコンプレッサーの電源コードプラグをシガレットライターソケットに差し込み、エンジンスイッチを“A(C)”にします。



シガレットライター

電源コード

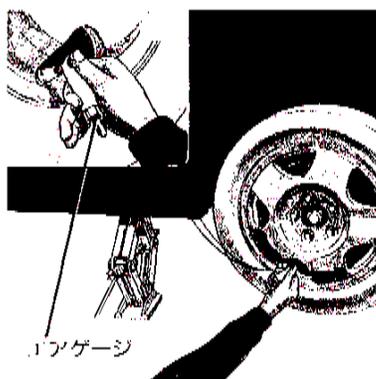


- 備え付けのエアコンプレッサーは、応急用スペアタイヤの空気充満用です。
- エアコンプレッサーの電源は、自動車用12V専用です。他の電源には接続しないでください。
- 無給油設計になっていますので、オイル等を注油しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上連続して使用しないで下さい。再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

④約5分間で排気管が冷たくなります。
エアゲージを使用して、空気圧を
点検、調整します。

前輪：1.8kg/cm²

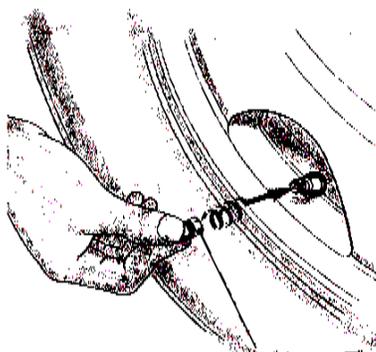
後輪：2.3kg/cm²



エアゲージ

⑤エンジンスイッチを“LOCK”に
して、エアインプレッサーの電源
コードプラグをシガレットライター
ソケットから抜きます。

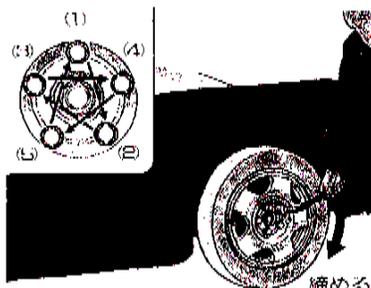
⑥バルブから空気漏れのないことを
確認してバルブキャップを締め付
けます。



バルブキャップ

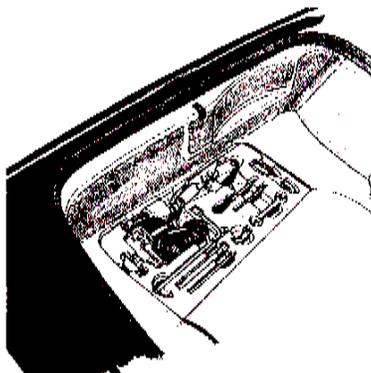
⑦ジャッキをおろし、図の番号順に
2〜3段にわたり、ホイールナット
をしっかりと締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：
10〜12kgm(参考)

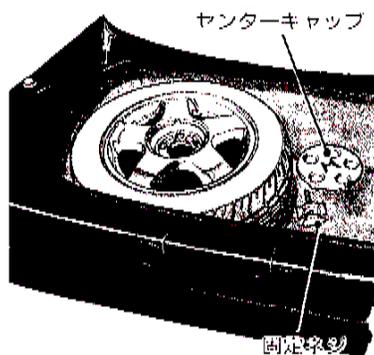


締める

⑧ジャッキを取り外し、エアコンプ
レッサー、工具類をトランクにし
めます。



⑨パンクした標準タイヤ、センタ
キャップ、応急用スペアタイヤ固
定ネジはトランクにしまえます。



センターキャップ

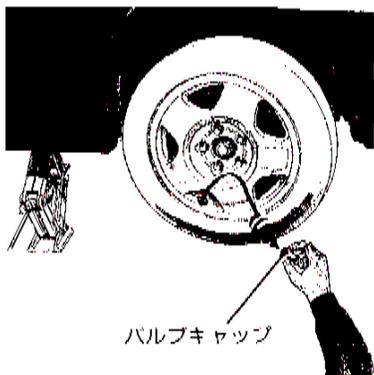
固定ネジ



- フロントコンパートメントに、パンクした標準タイヤをしまうことはできません。

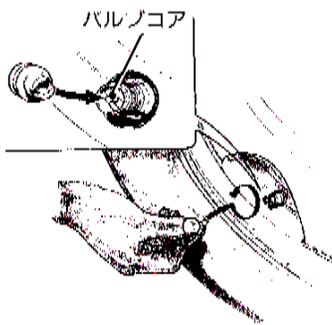
● 応急用スペアタイヤを標準タイヤに交換するとき

- [1] ホイールナットをゆるめ、中体をジャッキで持ち上げます。
- [2] 応急用スペアタイヤからバルブキャップを外します。



バルブキャップ

- [3] バルブキャップのゴムカバーを外し、「シュー」という音がするまでバルブコアをゆるめて、タイヤが完全に折りたたまれるまで空気を放します。

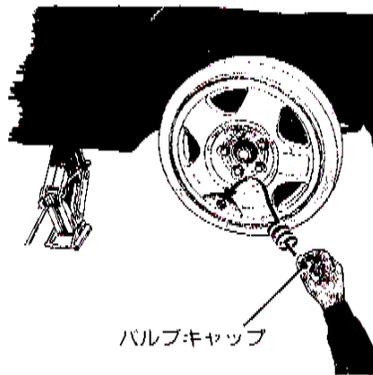


バルブコア



● バルブコアをゆるめすぎると、空気圧でとばされるおそれがあります。バルブコアを紛失しないよう、ゆるめすぎに注意してください。

- [4] 空気が抜け、タイヤが完全に折りたたまれたらバルブコアを締め付け、バルブキャップを取り付けます。

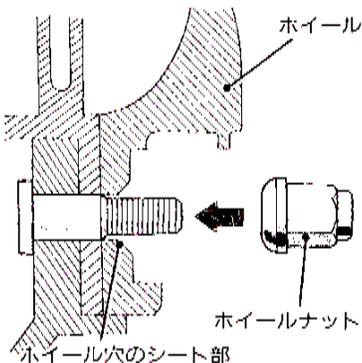


バルブキャップ



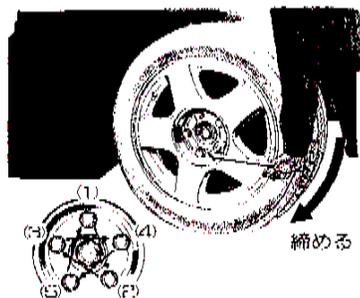
● 折りたたまれるタイヤに、指などをはさまれないように注意してください。

- [5] 応急用スペアタイヤを取り外します。
- [6] 標準タイヤを取り付けます。
- [7] ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



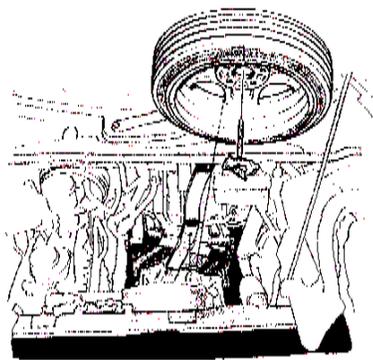
- [8] ジャッキをおろし、図の番号順に2〜3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：
10〜12kgm(参考)



締める

- [9] センターキャップを取り付けます。
- [10] 取り外した応急用スペアタイヤをフロントコンパートメントにしまい、固定ネジで固定します。





- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けしないで下さい。
トルクがかかりすぎる場合があります。
- バンク修理、タイヤの自然摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダベルノ店で点検を受けてください。



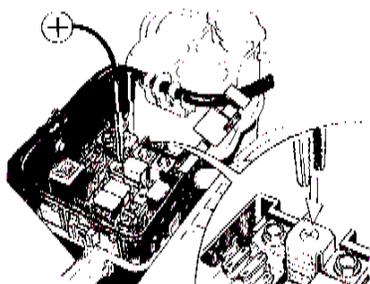
- この車専用のタイヤ、ホイールをお使いください。
専用以外のタイヤ、ホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。タイヤ、ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- タイヤ交換は、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止標示板、非常点滅灯を使ってください。
- ジャッキを使うときは必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらい、また荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときは、エンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると非常に危険です。
- ホイールナットとハブのネジ部には、絶対に油をつけないで下さい。油がついていると、ゆるみの原因になります。
- バンク修理などでホイールを取り付け直したときには、1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締め付けは避けてください。



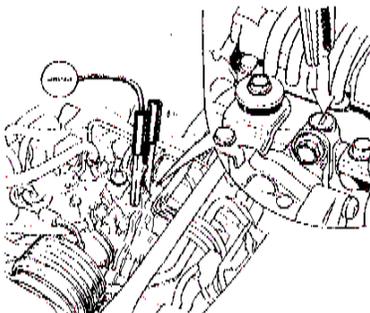
■ クイックリンク

バッテリー あがりのとき

他のバッテリーを利用してエンジン
をかけるときは、エンジンルーム内
のヒューズボックスのふたを開けて、
図の番号順にコードを接続します。
エンジン始動後は逆の順序でコード
を取り外してください。



ヒューズボックス内の(+)マーク部に
接続します。



スロットルボディの(-)マーク部に
接続します。



- 放電したバッテリーに他のバッテリ
ーを接続してエンジンを始動する場
合は、(+)(-)極を間違えないよう注
意してください。

バッテリーの充電

充電は、バッテリーを取り出してか
ら行ってください。

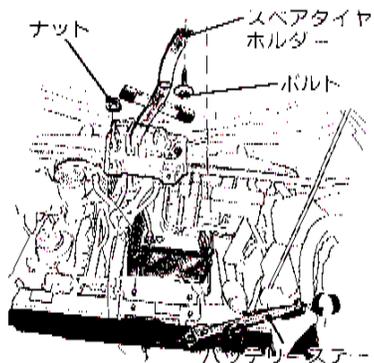
(1)ボンネットを開けます。



- 固定ネジ、ホイール、スペアタイヤ
ホルダーなどは熱くなっている場合
がありますので、取り出す際には手
袋などをして、やけどに注意してく
ださい。

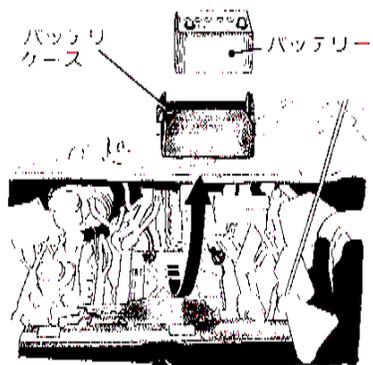
(2)固定ネジを外し、応急用スペアタ
イヤを取り外します。

(3)ナットとボルトを外し、スペアタ
イヤホルダーとバッテリーステー
を取り外します。



(4)バッテリーの(-)極を外してから(+)
極を外します。

(5)バッテリーをケースごと取り出し
ます。



- バッテリーからは可燃性のガスが発
生しているので、爆発の危険があり
ます。バッテリーを取り扱うときは、
以下の点に十分注意してください。
・ 放電したバッテリーの(-)極に直接
コードをつないだり、(+)(-)極を間
違えないでください。
ショートして火花が出ることがあ
ります。
・ バッテリーを充電するときは、す
べてのキャップを外してください。
・ 換気に十分注意し、換気の悪い場
所では行わないでください。
● コードが冷却ファンやベルトに巻き
込まれないように、十分注意してく
ださい。

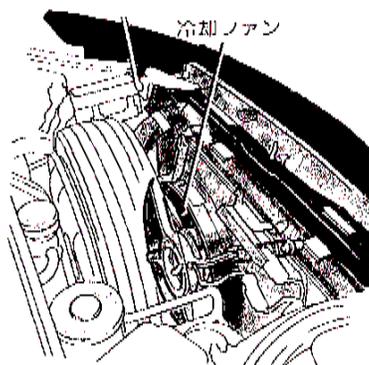
オーバーヒートしたとき

日中を安全な場所に停め、エンジンをかけたままボンネットとエンジンカバーを開けて風通しをよくします。

このとき、冷却ファンの作動を確認してください。

作動していないときは、エンジンを止めて自然冷却してください。

作動しているときは、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めよう。



- 万一、ファンが作動していない場合は、エンジンを止めて自然冷却し、すみやかにホンダヘルプ店で点検を受けてください。

②エンジンが冷えてから、冷却水タンクホースなどからの水漏れを点検します。

冷却装置の点検 →38ページ

③冷却水が不足していたら補給します。

冷却水の補給 →127ページ



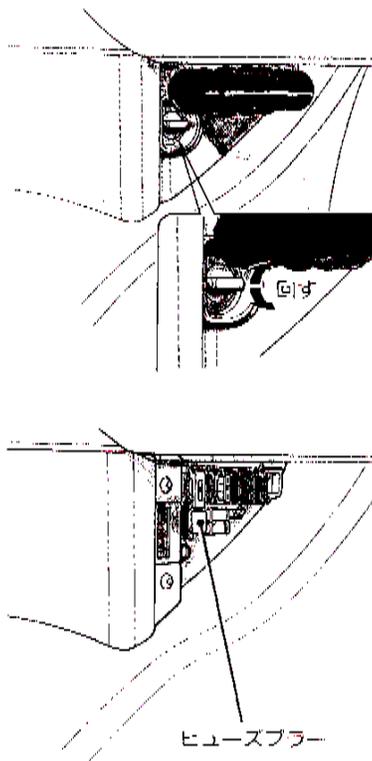
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまで、エキスパンションタンクキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

ライト類が点灯しないとき

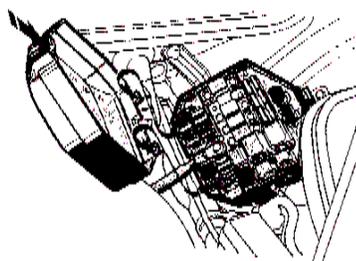
ヒューズの交換

ヒューズボックスは、助手席足元、フロントコンパートメント内及びエンジンルーム内にありよ。エンジンスイッチを“LOCK”にし、故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認し、ヒューズが切れていないかを点検します。

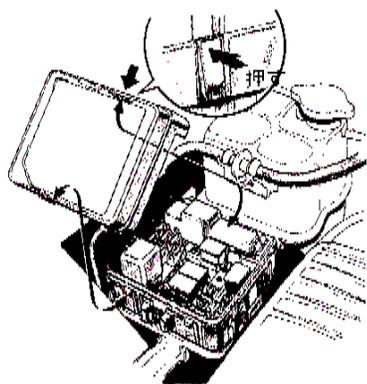
助手席足元ヒューズボックス



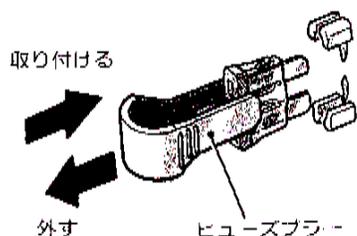
フロントコンパートメント内ヒューズボックス



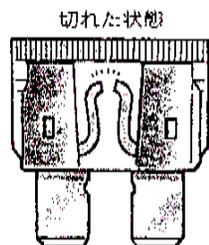
エンジンルーム内ヒューズボックス



備えつけのヒューズブロッカーでヒューズを外します。



ヒューズが切れた場合は、ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。



- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ホンダベルノ店で点検を受けてください。



- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。配線コードなどを焼損させる原因となります。

電球(バルブ)の交換

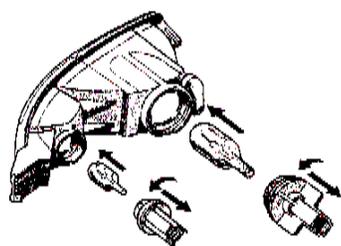
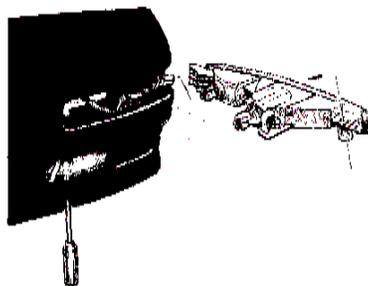
電球切れが確認された場合には、次の要領で交換します。



- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。
電球のワット数 140ページ
- ハロゲンバルブ(ヨウ素入り電球)を交換するときは、電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。
万一、触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- レンズを取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

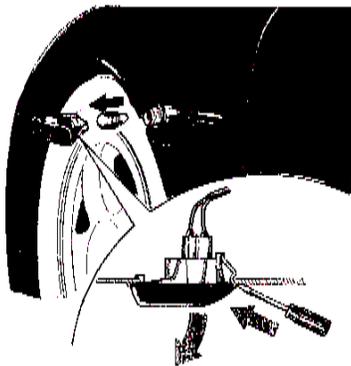
● 前面方向指示灯/前面非常点滅表示灯、車幅灯

ネジを外してランプ本体を外し、ソケットを左へ回して外します。
前面方向指示灯/前面非常点滅表示灯は電球を押しながら左へ回して抜き取ります。車幅灯は電球を抜き取ります。



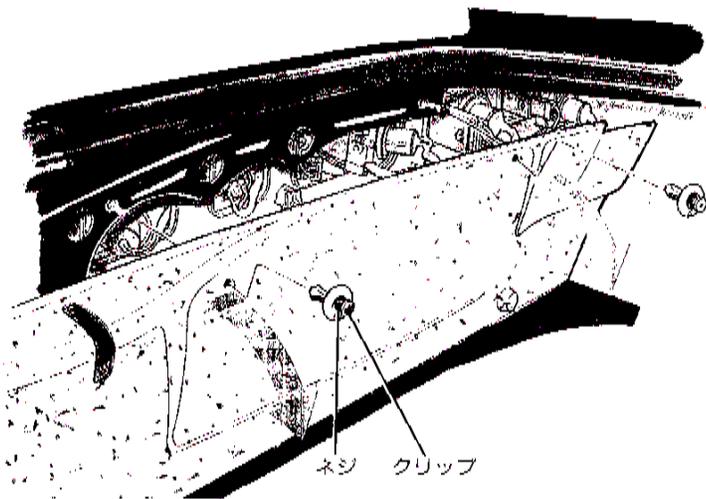
●側面方向指示灯／側面非常点滅表示灯

ドライバー等でスプリングを押しながらランプ本体を外します。
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取りま

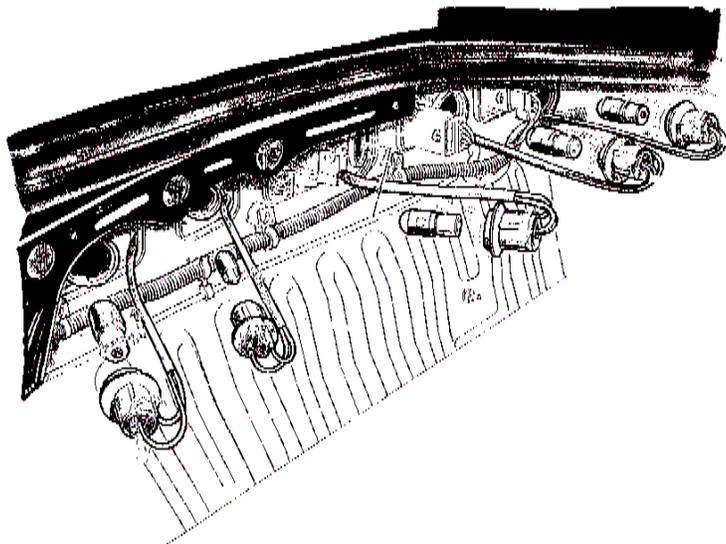


●制動灯／尾灯、後方方向指示灯／後方非常点滅表示灯、後退灯

目録ジをゆるめ、クリップを外し、カバーを開けます。



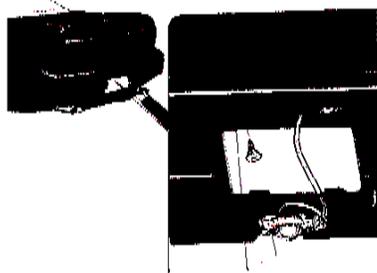
同ソケットを左へ回して外し、尾灯、後方方向指示灯／後方非常点滅表示灯、後退灯は、電球を押しながら左へ回し抜き取りま



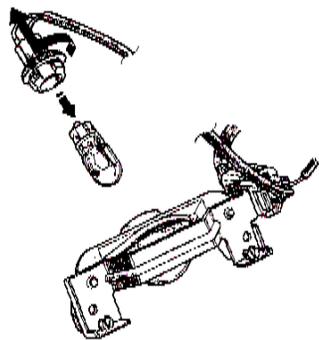
■電球・バルブの交換

●番号灯

①ネジを外し、ランプ本体を外します。

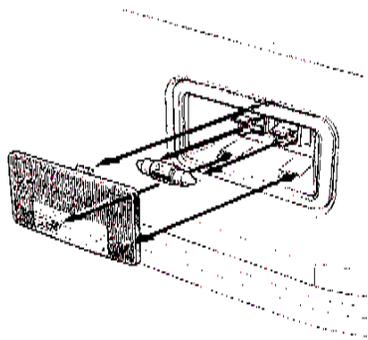


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



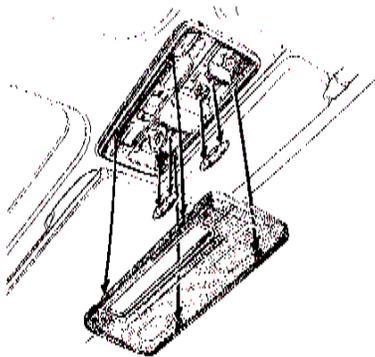
●ドア開閉灯
(カーテシーランプ)

レンズを外し、電球を抜き取ります。



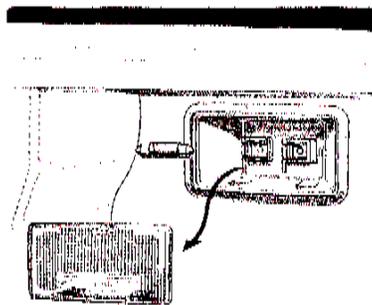
●室内灯

レンズを外し、電球を抜き取ります。



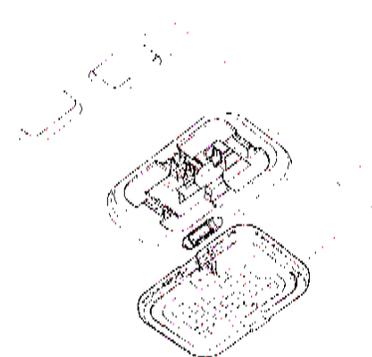
●トランク照明灯

レンズを外し、電球を抜き取ります。



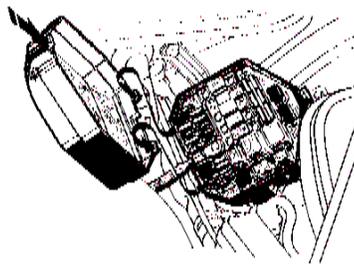
●足元照明灯

ランプ本体を外しレンズを外して、電球を抜き取ります。



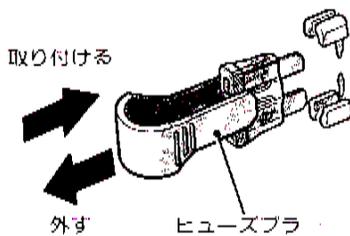
前照灯が昇降しないとき

[1]ボンネットを開け、ヒューズカバーを開きます。



[2]昇降しなくなった方のヒューズを助手席足元ヒューズボックス内にあるヒューズプルで取り外します。

ヒューズの交換 116ページ



[3]ヒューズが切れていたら、同容量のヒューズと交換すれば、前照灯は昇降します。



- ヒューズを交換した場合は、ホンダベルノ店で点検をうけてください。

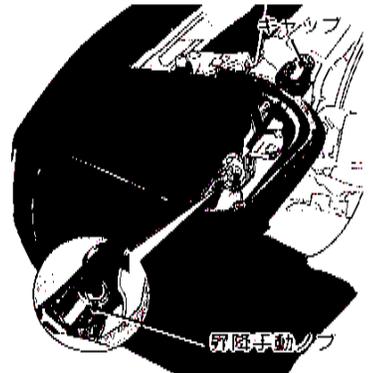
ヒューズが切れていない場合は、そのままヒューズを外した状態で、次のように手で操作します。

[1]昇降しなくなった方の昇降手動ノブのキャップを外します。



- 手動操作をする前に、必ずヒューズを外してください。ヒューズを外さずに行くと、昇降手動ノブが急に回転し、手をはさむおそれがあり危険です。

[2]ノブを矢印の方向に回して、前照灯を最上部または最下部まで動かします。異物をかみ込んでいたら、いったんノブを逆方向に回して取り除いてください。



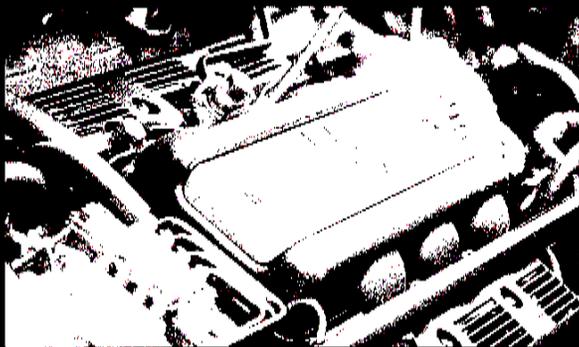
[3]キャップを元の位置へ確実に取り付けます。



- 異物のかみ込みが原因で作動しなかった場合は、上記の応急処置をした後、取り外したヒューズを元の位置に取り付けければ、前照灯は昇降します。

MEMO

車の手入れ



6か月点検

点検項目	124
------	-----

簡単な整備

エンジンオイルの補給	131
冷却水の補給	132
ウォッシャー液の補給	132
ブレーキ液の補給	133
バッテリー液の補給	134
バッテリー端子部の清掃	134
クラッチ液の補給	135
トランスミッションオイルの補給	135
タイヤの位置交換(タイヤローテーション)	136
エアクリナーろ紙部(エレメント)の交換	136
ワイパーブレードラバーの交換	137
塗装の手入れ	138
内装の手入れ	139
アルミホイールの取り扱い	140
エアコンの手入れ	140
冬期の整備	141

6か月点検

自家用車中は法令によって、6か月、12か月、24か月の定期点検を行うことが義務づけられています。ホンダベルノ店で必ず点検を受けてください。

6か月点検については、乗用車の構造と装置についての基礎的な技術知識を有する方であれば、ご自身で行うことができます。

ご自身で6か月点検を行う場合は、次回以降の点検方法に基づき作業してください。



- 点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。点検結果の記録用紙（定期点検整備記録簿）は、別冊「整備手帳」に掲載されています。記録は2年間保存してください。

点検するときには安全に十分注意してください。



- 静止状態での点検は平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の点検は、エンジンの高熱部や自動的に回転しだす冷却ファンに十分注意してください。やけどなど、思わぬけがをすることがあります。
- 換気の悪い車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないでください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- ジャッキアップして点検するときには、適切なジャッキを使ってください。（お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみに使うものです。）

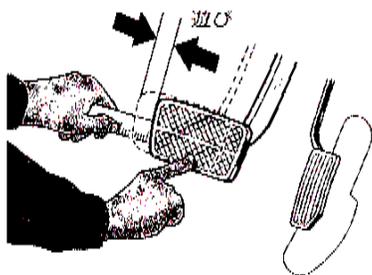
点検項目

ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間	125
ブレーキのきき具合	125
駐中ブレーキレバーの引きしろ	125
ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態	126
リザーバタンクの液量	126
タイヤの空気圧	127
タイヤの亀裂、損傷	127
タイヤの溝の深さ、異状な摩耗	127
タイヤの金属片、石、その他の異物	128
クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間	128
バッテリーの液量	129
エンジンオイルの汚れ、量	129
冷却水の量	130
発電機ベルトのゆるみ、損傷	130
灯火装置、方向指示器の作用	130

ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

●遊び

エンジンを停止された状態で、2〜3回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量(遊び)を定規などで点検します。遊びは1〜5mmが適正です。

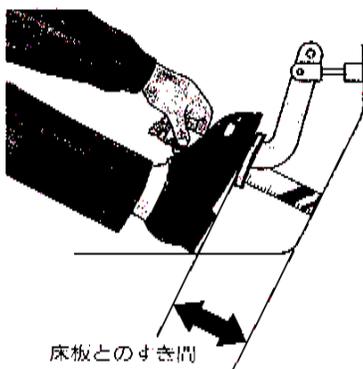


●床板とのすき間

エンジンを始動し、2〜3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(踏力20kg)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。

床板とのすき間は108mm以上が適正です。

(参考値・カーペットとのすき間は87mm以上)



●踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

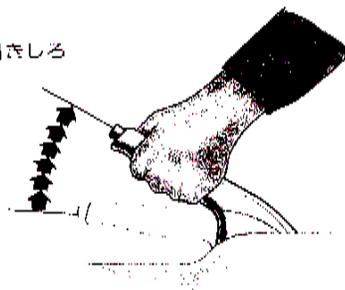
ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行して、ブレーキテストを行い、きき具合が十分か、片ききがないかを点検します。

駐車ブレーキレバーの引きしろ

ブレーキレバーをいっぱい戻した状態から少づつ引き上げて(操作力20kg)、10〜14回の引っかけり高でレバーがロックするかを点検します。

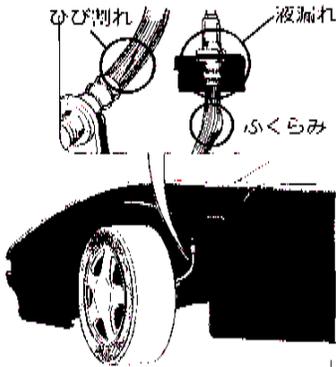
引きしろ



ブレーキホース、パイプの濡れ、損傷、取り付け状態

ハンドルを右にいっぱい切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。また、ホースが中体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。

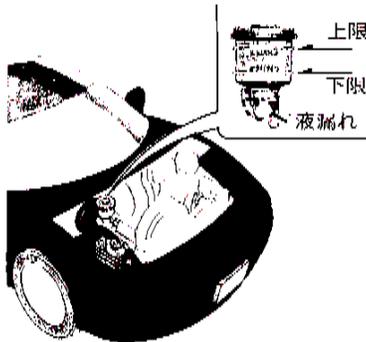
次に、ハンドルを左にいっぱい切り、右側のフロントブレーキについても同様に点検します。



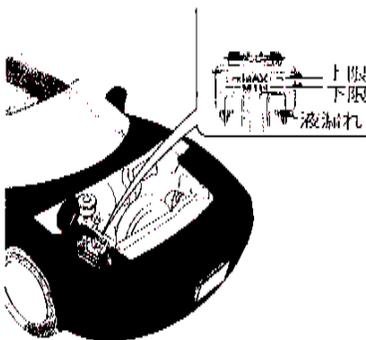
リザーバータンクの液量

リザーバータンクの液量の点検は、20km/h程度で約1分間走行した後、アンチロックブレーキを働かさないようにゆっくり止まり、リザーバータンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。

●ブレーキリザーバータンク



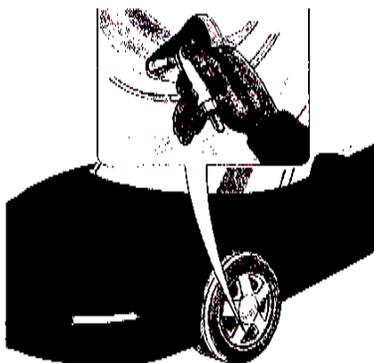
●アンチロックブレーキリザーバータンク



- 液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。
ブレーキ液の補給 133ページ
- アンチロックブレーキ用リザーバータンクの液面が上限より約1cm以上あがっていたら、アンチロックブレーキ機構の異常が考えられます。ホンダベルノ店で点検を受けてください。
- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

タイヤの空気圧

走行前、タイヤが冷えているときに
タイヤゲージで空気圧を点検します。

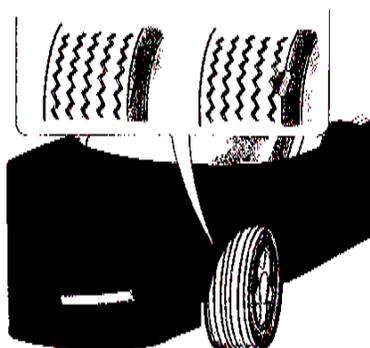


(空圧時：単位kg/cm²)

標準タイヤ サイズ	空気圧	前輪		後輪	
		一般	高速	一般	高速
標準タイヤ 205/50 R15	—	2.3	—	—	—
標準タイヤ 225/50 R16	—	—	—	2.8	—
標準タイヤ 165/80 R15 FS	—	1.8	—	2.3	—

タイヤの亀裂、損傷

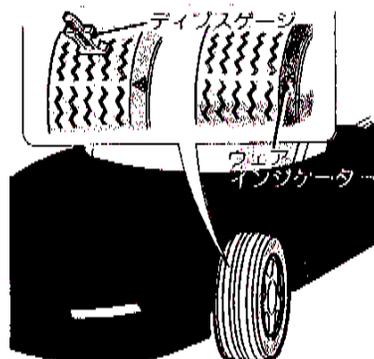
タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

タイヤの接地面に表示されているウェアインジケーター(片材取厚表示)またはディプスゲージ(またはノギス)により溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。

タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き片材がないかを目視により点検します。



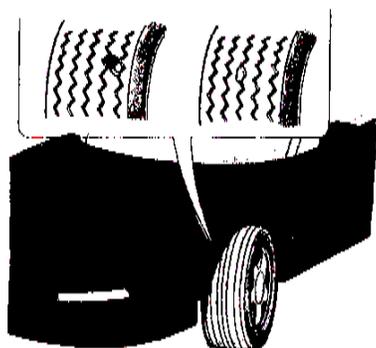
- ウェアインジケーターは、タイヤの円周にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

■タイヤの亀裂、損傷

■タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

タイヤの金属片、石、その他の異物

タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んで入り込んでいないかを目視や手でさわって点検します。



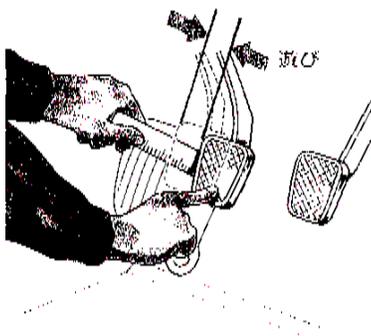
クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

[マニュアル車]

●遊び

クラッチペダルを半ほど抵抗を感じるまで押し込んだときの移動量(遊び)を定規で点検します。

遊びは9〜15mmが適正です。

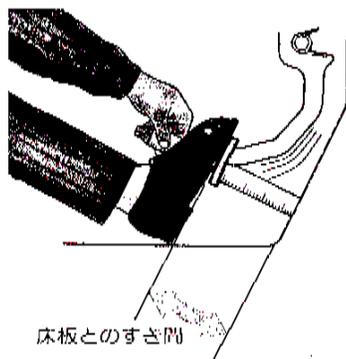


●切れたときの床板とのすき間
駐車ブレーキをいっぱい引き、エンジンを始動します。

アイドリング状態でクラッチペダルをいっぱい踏み込み、ギヤを1速に入れたのちペダルを徐々に離し、クラッチがつかなくなる直前の状態(エンジン音が変わったり振動が発生したりします)でペダルと床板とのすき間を点検します。

切れたときの床板とのすき間は92mm以上が適正です。

(参考値・カーペットとのすき間は71mm以上)



●車が発進しないように必ず駐車ブレーキをかけてください。

■タイヤの金属片、石、その他の異物 ■クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

バッテリーの液量

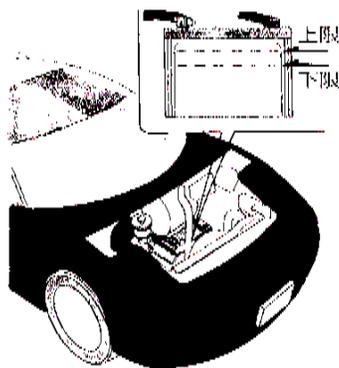
バッテリーを取り出し、各槽の液面が上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

バッテリーの取り出し

・114ページ

バッテリー液の補給

・134ページ

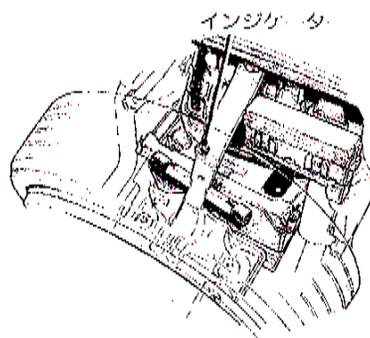


●バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

メンテナンスフリーバッテリーは、インジケータで液量と充電状態を点検することができます。



良好

エンジン始動できる状態



液不足

バッテリー液の補給が必要な状態



充電不足

バッテリー液の比中が低下し、エンジン始動できない状態

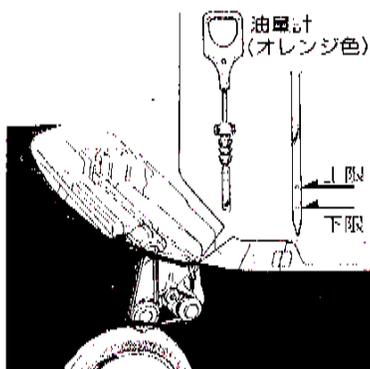
エンジンオイルの汚れ、量

エンジンを停止させ、油圧計(オイルレベルゲージ)により、油圧が油盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

また、油圧計に付着したオイルを拭き取るか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジンオイルの補給

・131ページ



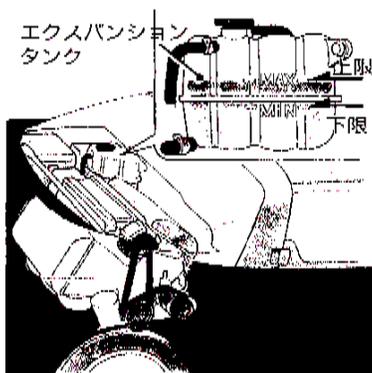
●正確にオイル量を点検するために次のことをお守りください。

- ・車を水平な場所に置いて行ってください。
- ・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから行ってください。

冷却水の量

エキスパンションタンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給 ▶132ページ

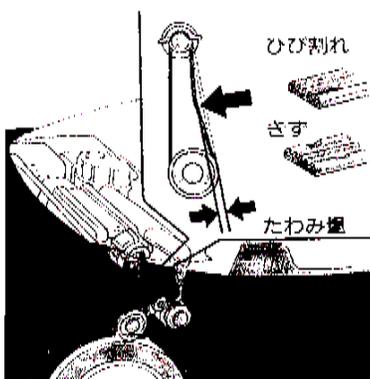


発電機ベルトのゆるみ、損傷

発電機ベルトの中央部を強く押しして(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。

このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。

ベルトのたわみ量は12〜14mmが適正です。



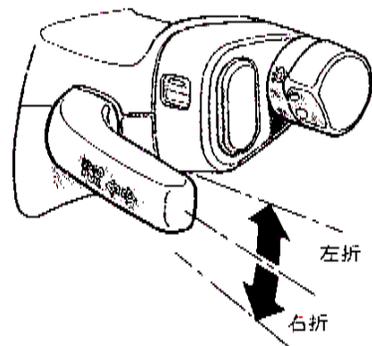
灯火装置、方向指示器の作用

前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。

前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

中照灯、丸灯、制動灯、後退灯(エンジンスイッチが"ON"の状態を確認)、書き灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。

各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



エンジンスイッチを"ON"にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分10〜12回の一定の周期で方向指示灯が点滅するかを点検します。方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

簡単な整備

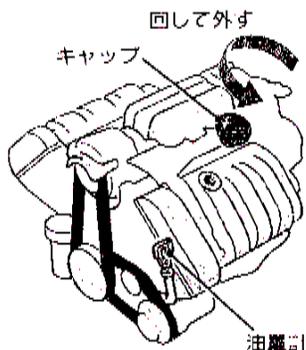
整備の際には次のことに注意してください。



- 安全な場所を選んで行って下さい。
- 適切な工具を使ってください。
- エンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキを十分にかけ、輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をジャッキアップするときには、適切なジャッキを使ってください。(車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時にのみ使うものです。)
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の整備はエンジンの高熱部や自動的に回転した冷却ファンに十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 取り出した部品はエンジンルーム内に置かないでください。エンジンルーム内に落としたり、万一のとき危険です。

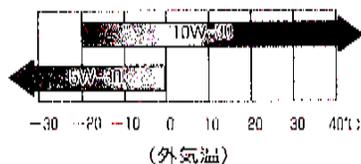
エンジンオイルの補給

キャップを回して外し、油圧計で確かめながら上限まで補給します。補給後、キャップは確実に締め付けます。補給が完了したらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3分以上たってから再度、油圧計で確かめます。



推奨オイル

ホンダ純正オイル ウルトロン T10
(4サイクル4輪用、API(3C)級)
10W-30
ホンダ純正オイル ウルトロン GX
(4サイクル4輪用、API(SF)級)
10W-30
またはAPI(SF)級以上のエンジンオイルで、気温に応じた粘度のもの
を下表にもとづきお使いください。



- 作業は水平な場所で行ってください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。



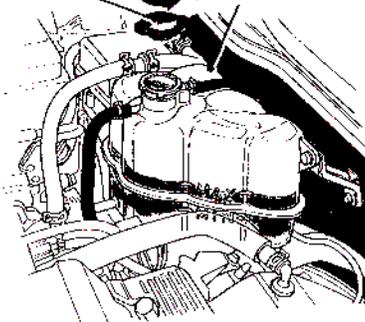
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使わないでください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。

冷却水の補給

エキスパンションタンクのキャップを外し、タンクの上限(MAX)まで補給します。

指定液の濃度を50%にしてお使いください。

キャップ 回す エクスパンションタンク



指定液：ホンダ純正
ウルトララジエーター液



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。



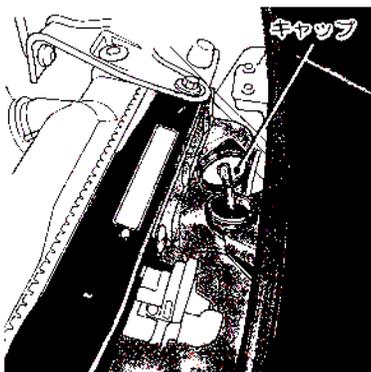
- 指定液の濃度を上水道(軟水)で50%に薄めてお使いください。
- 指定以外のラジエーター液や不適当な水を使うと、錆などの原因となります。
- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。必ずホンダベルノ店で点検を受けてください。



- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでエキスパンションタンクキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

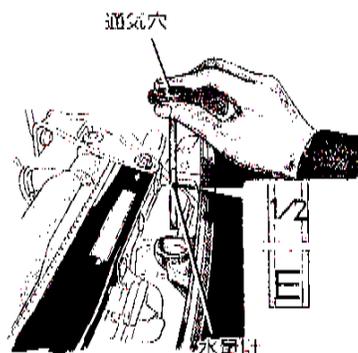
ウォッシャー液の補給

ボンネットを開け、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水でうすめ、ウォッシャータンクの0元まで補給します。



- “ホンダウォッシャー液”には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。
- 粗悪品や不凍液、石けん水を使うと塗装面などに害をあたえます。

ウォッシュ液の量は、タンクキャップの通気穴を指で押さながら、キャップを外して水量計で確認します。



ブレーキ液の補給

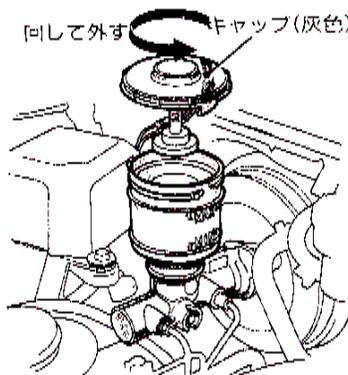
①ブレーキ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までブレーキ液を補給します。

②補給後はキャップを確実に締め付けます。

指定液：ホンダブレーキフルード DOT 3 または DOT 4

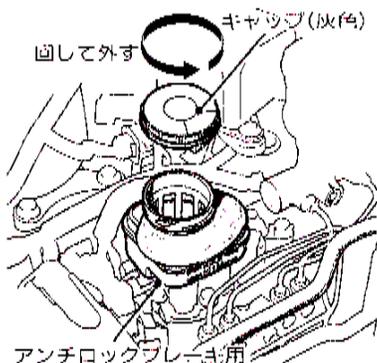
① 回して外す

キャップ(灰色)



② 回して外す

キャップ(灰色)



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給はエンジンが冷えてから行ってください。
エンジン温度が高いときに排気系統へブレーキ液が付くと、発煙することがあります。



- 補給するときにはこぼさないようにしてください。車体にこぼしたときは、塗装面を傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。
- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。



- ブレーキ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。ブレーキのきき具合やブレーキ系統に悪影響を与え危険です。
- 補給の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとブレーキがきかなくなるおそれがあります。

バッテリー液の補給

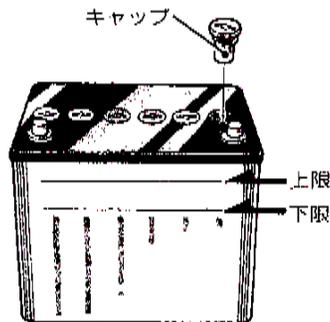
1 1 スペアタイヤとスペアタイヤホルダーを外して、バッテリーを取り出します。

バッテリーの取り出し

・114ページ

2 2 バッテリー液が不足している場合は、キャップを回して外し、各層とも上限までバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。

3 3 補給後はキャップを確実に締め付けます。



- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に着くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

バッテリー端子部の清掃

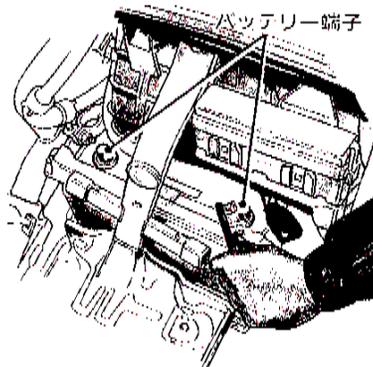
1 1 固定ネジをゆるめてスペアタイヤを外します。

スペアタイヤの取り出し

・108ページ



- 固定ネジ、ホイール、スペアタイヤホルダーなどが熱くなっている場合がありますので、取り出す際には手袋などをして、やけどに注意してください。



- 作業は必ずエンジンを停止させて行ってください。

2 2 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。端子に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃します。



- 清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締め付けておいてください。

3 3 端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤーブラシ、リンドペーパーなどでみがきます。



- 端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
- 取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
- 端子部にゆるみが生じないように確実に締め付けてください。

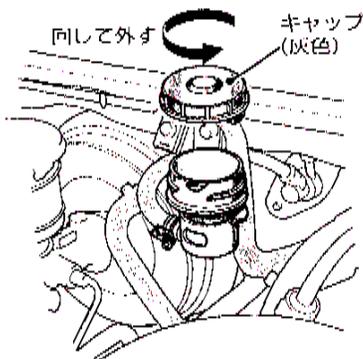
4 4 部品、締め付け後は、端子部にグリスを塗布します。

クラッチ液の補給

【マニュアル車】

- ①クラッチ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までクラッチ液を補給します。
- ②補給後はキャップを確実に締め付けます。

指定液：ホンダブレーキフルード
DOT 3



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給するときはこぼさないようにしてください。車体にこぼしたときは、塗装面を傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。



- クラッチ液量の減り具合が著しいときは、クラッチ系統の液漏れが考えられます。ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。



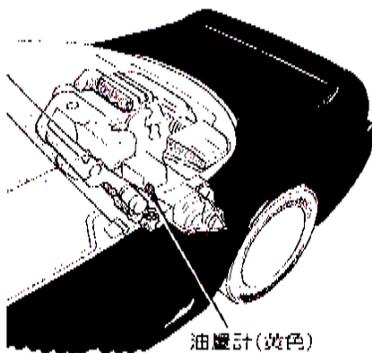
- クラッチ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。クラッチのきき具合やクラッチ系統に悪影響を与え危険です。
- 補充の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとクラッチが利かなくなる恐れがあります。

トランスミッションオイルの補給

【オートマチック車】

- ①エンジン停止後1分から2分の間に油圧計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。
- ②量が少ない場合は、油圧計で確かめながら上限まで補給します。

指定液：ホンダ純正ATF



- 作業は水平な場所で行ってください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。



- 補給するときは、パイプ部からゴミなどが入らないようにしてください。

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

前後輪で、タイヤサイズが異なりま
す。また、回転方向が指定されてい
るため左右のタイヤが異なります。
したがって、前後、左右それぞれ専
用タイヤとなっておりますので、タイ
ヤ位置の交換はできません。

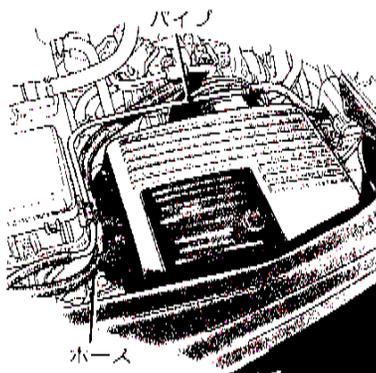
エアクリナー紙部 (エレメント)の交換

推奨交換時期 40,000km 行くと。

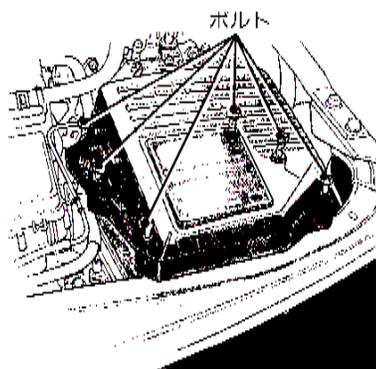


- ほこりの多い地区では早めに交換して
ください。
よごれたまま使うと燃費不良や加速
不良などの原因となります。

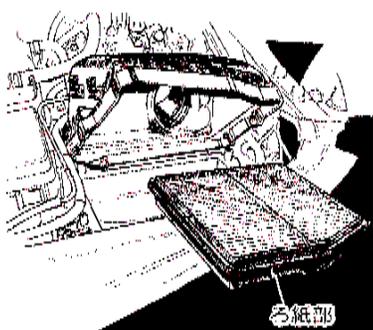
(1)エアクリナーカバーから、ホース
とパイプを外します。



(2)ボルトを外し、カバーを取り外し
ます。



(3)紙部を、ケースから取り出しま
す。



(4)紙部を交換し、カバーを元の位
置に取り付け、ボルトで確実に固
定します。

(5)ホースとパイプを、カバーに取り
付けます。

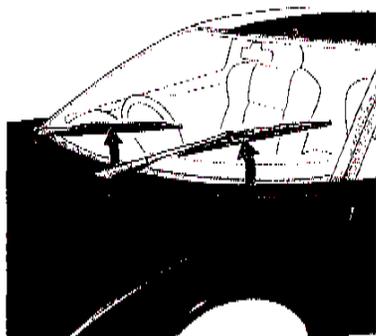


- 取り外したカバーやボルトをエンジ
ンルーム内に置いたままでエンジ
ンをかけると、部品をこわしたり、け
がをするおそれがあります。

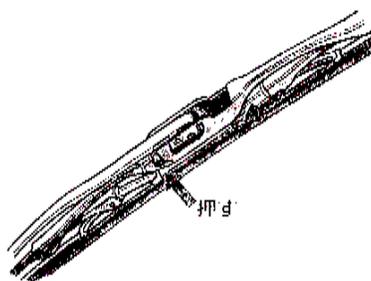
ワイパーブレード ラバーの交換

ワイパーが傷んでいると、ぶさぶさがあふばかりでなくウィンドーガラスを傷付けることがありますので、早急に交換してください。

[1]ワイパースイッチを“ON”にしてエンジンスイッチを“ON”にして、ワイパーを動かします。ワイパーアームが上がった位置でエンジンスイッチを“OFF”にします。ワイパーアームを持ち上げます。

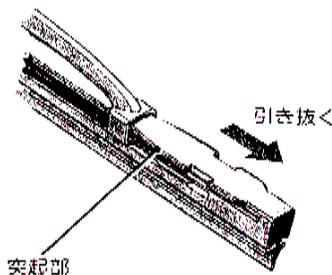


[2]ワイパーブレードをアームから取り外します。

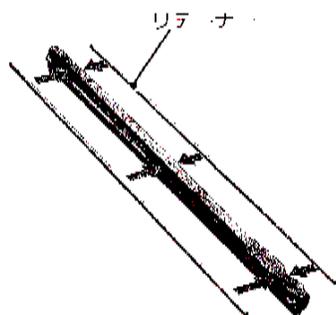


●アームから手を離すときは、ウィンドーガラスを傷付けないように注意してください。

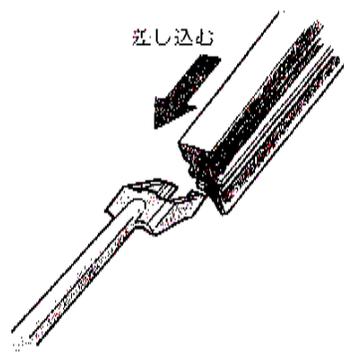
[3]ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。



[4]引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付けます。



[5]突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



[6]ワイパーブレードをアームに取り付けた後、ワイパーアームを降ろします。

塗装の手入れ

●お車を美しく保つために

(1)走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。

(2)次の場合は必ず洗車してください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- 海岸地帯を走行したとき。
以上のときは中体の下回り、フェンダーの内側を特に念入りに洗ってください。
- コルタル、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリッシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
ポリッシングワックスはホンダ純正クミカル用品をお使いください。

(3)少なくとも月に一度は洗車してください。

(4)とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。

(5)保管・駐車は風通しのよい中幹や、屋根のある場所をおすすめします。

●洗車のしかた

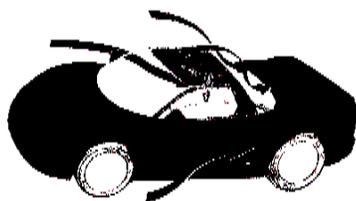
[1]十分に水をかけながらスポンジまたはセーパ皮のような柔らかいもので洗います。

[2]よどれがひどい箇所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

[3]水が、かわかないうちにふき取ります。



- 自動洗車機を使うと、ブラシの細かい傷がつき光沢が失なわれたり、劣化を早めることがあります。
- エンジンフードは、水をかけて洗わないでください。
- 故意に空気取り入れロやエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。



●ワックスがけのしかた

月に1回程度または水をはじかなくなったらに行ってください。中体表面に水の残っていないことを確認し、太陽または中体表面が体温以下になっているときに行います。ワックスはホンダ純正クミカル用品をお使いください。



- みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品について

樹脂塗装部品(バンパーなど)にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。すみやかに柔らかい布でふき取ってください。



- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダベルノ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

内装の手入れ

ビニール、レザー、フスナック、
布材の汚れ落としには、中性洗剤の
水溶液を柔らかい布に軽く含ませて
お使いください。

洗浄後、残った洗剤分は臭水を含ま
せた柔らかい布でよく落としてくだ
さい。



- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよ
い日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤
は変色、しみなどの原因となるので
使わないでください。

●液体芳香剤、レザークリーナー について

液体芳香剤、レザークリーナーはそ
の成分によっては、樹脂部品、布材
の変色、ひび割れをおこすことがあ
ります。

取り扱いには十分ご注意ください。



- 液体芳香剤はこぼさないように、容
器を確実に固定してください。
芳香剤のご使用にあたっては固形タ
イプのものをおすすめします。
- レザークリーナーを使用したあとは、
必ずかわいた布で軽くふき取って
ください。
また使用した布はそのまま樹脂部品、
布材の上に長時間放置しないでくだ
さい。

●本革の取り扱いについて

汚れ落としには、ウール用中性洗剤
の5%水溶液を柔らかい布に軽く含
ませてお使いください。残った洗剤
分は、臭水を含ませた柔らかい布で
よく落としてください。



- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよ
い日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤
は変色、しみなどの原因となるので
使わないでください。
- 本革部分に油汚れなどが付くとカビ
などの原因となるので、早めに落と
してください。
- 本革部分を直接日光に長時間さらす
と、変質、縮みの原因となります。
駐車するときは、日よけに心がけて
ください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分
の上に置かないでください。室内が
高温になっていると、ビニールが変
質して本革部分に付着するおそれ
があります。

アルミホイールの 取り扱い

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをご守りください。

●手入れ



- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落してください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機(ホイール専用ブラシ付のもの)によるホイールの洗浄は、避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

●取り扱い



- アルミホイールは傷つき易いので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを、避けてください。
- バランスウェイトやバルブは、ホンダ純正のアルミホイール専用品をお使いください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

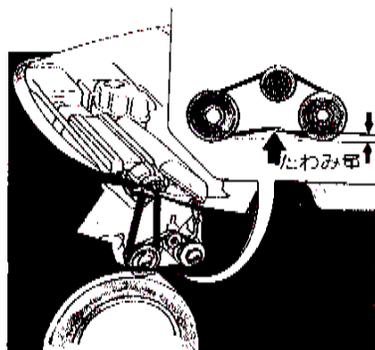


- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- ホイールナット及びハブのネジ部には、絶対に油をつけないでください。油がついているとゆるみの原因となります。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、1000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締付けは避けてください。

エアコンの手入れ

●ベルトの点検

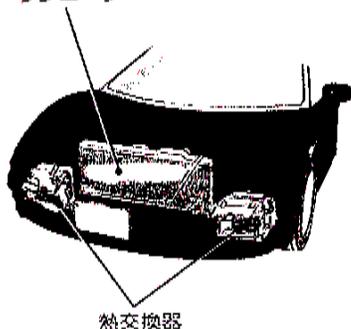
ベルトの中央部を強く押して(10kgの荷重)、たわみ量を点検します。このときベルトに傷がないかも調べます。ベルトのたわみ量は10～12mmが適正です。



●熱交換器の清掃

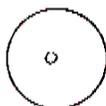
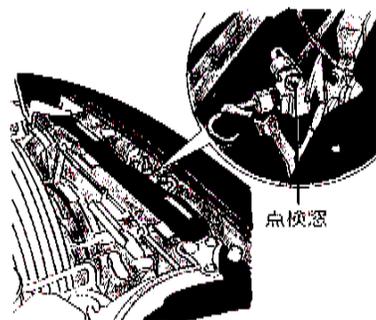
洗車の際は水を強くかけて、ラジエーター熱交換器に付着している泥やゴミ、虫を洗い落とし、通気性をよくします。

ラジエーター



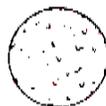
●冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。エンジン回転を1500回転くらいに上げて、2〜3分間冷房した後、点検窓で点検します。



○ : 冷媒量適正

ほとんど透明です。
エンジン回転を上げ
下げすると気泡が流
れることがあります。



● : 冷媒量不足

冷媒(ガス)量が不足している場合は、ホンダベルノ店で点検、補充を受けてください。

冬期の整備

●バッテリーについて

気温が上がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比中の確認をし、必要に応じて液の補給や補充液をしてください。

バッテリー液量の点検

▶129ページ

バッテリー液の補給

▶134ページ

●エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または山街地を運転される方は、早めに交換してください。

●冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

冷却水の補給 ▶132ページ

●ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度をあげてください。

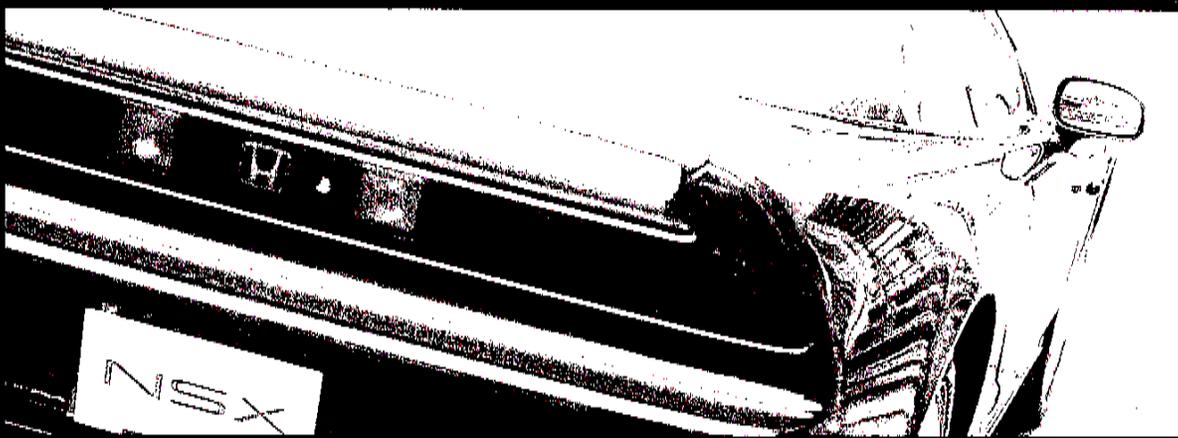
ウォッシャー液の補給

▶132ページ

NSX

7

車との上手なつきあいかた



純正部品	144
車にあった部品の使用	144
経済走行のために	144
積雪・寒冷時の取り扱い	
走行前の点検について	145
スノータイヤ、タイヤチェーンについて	145
車の積雪について	146
ドアの凍結について	146
ワイパーについて	146
乗車について	146
滑りやすい路面について	146
ブレーキについて	146
雪の付着について	147
パンクについて	147
雪道走行後の手入れについて	147
駐停車について	147
駐車ブレーキについて	147
駐車方法について	147
格納について	147

純正部品

中の性能、品質を維持するために、ホンダ車に最も適したホンダ純正部品をお使いください。

純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。

ホンダベルノ店でお求めになれます。純正部品には、つぎのマークがついています。



車にあった部品の使用

車の性能や機能に影響する箇所にはホンダ純正部品以外は使わないでください。

また、中の改造は法律に触れることはもちろん、思いがけない事故を起す場合があります。

この車は、アルミボディの採用により、ボルト類も錆防止のために、特殊コーティングされたものが使われております。指定ボルト以外は、使わないでください。

ラジオ、カーナビ、アクセサリ部品などを装着する場合でも、装着に際してはホンダベルノ店にご相談ください。

経済走行のために



- 不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。
- 高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。
- 変速位置の選択は、走行速度に応じて適切に行ってください。
マニュアル車 → 66ページ
オートマチック車 → 68ページ
- チェンジレバー操作はクラッチペダルをいっばいに踏みこんで行い、クラッチペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用をしないでください。
- 長すぎる睡眠運転をしないようにしましょう。
- 車間距離は十分取り、不必要な急ブレーキをかけないでください。

積雪・寒冷時の取り扱い

北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場などの局地的な厳寒・多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取り扱いの参考としてください。

走行前の点検について

「走行前点検」の際に、下記の点検も行ってください。



- 特に寒暖の差が大きいときは念入りに点検してください。

[1]車の下回りをのぞき、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

[2]ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

スノータイヤ、タイヤチェーンについて

道路、凍結路を走るときはスノータイヤを装着してください。

スノータイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類の、標準タイヤと同じサイズのものをお使いください。さらに、必要に応じてタイヤチェーンをお使いください。



- 地方条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。



- スノータイヤを装着したとき、高速走行は避けてください。

●推奨タイヤチェーン

この中では、一般の中と比べタイヤとフェンダーの間が狭くなっていきます。

そのため、タイヤサイズに合ったタイヤチェーンであっても、取り付けられないものがあります。ホンダ純正ハイパーリアルチェーンまたは、それと同等のものをお使いください。



- タイヤチェーンはタイヤに合った適正なサイズのものをお使いください。サイズの合わないチェーンを使うと、ブレーキ配管やフェンダーを破損し、危険です。



●タイヤチェーンの取り付けかた

タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

後輪駆動車ですので、タイヤチェーンは後輪に装着してください。



- 前輪、応急用スベアタイヤには、標準タイヤ用のタイヤチェーンは装着できません。



- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けください。
- 必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときはつぎの速度以下で運転してください。
雪道、凍結路・30km/h以下
なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。

車の積雪について

屋根に積った雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。

ドアの凍結について

ドアが凍結したとき、無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれりするので、湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

ドアまわりの水分は、凍結防止のためによくふき取ってください。



- ドアキー穴部には、凍結する恐れがあるので、湯をかけないでください。

ワイパーについて

ワイパーブレード(ゴム部)がガラス面に張りついた状態やガラス面に着氷、積雪した状態でワイパーを動かすと、ワイパーブレードを損傷したり、ワイパーモーターの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。

乗車について

靴にこびりついた雪は、乗車時よく落とすしてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりカビが生えたりすることがあります。

滑りやすい路面について

雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りして方向性を失い危険です。

ブレーキについて

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結し、ブレーキのききが悪くなる場合があります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- 万一、ブレーキのききが回復しないときは、ただちにホンダヘルプ店を点検を受けてください。

■タイヤチェーン ■車の積雪について ■ドアの凍結について ■ワイパーについて ■雪中について ■滑りやすい路面について ■ブレーキについて

■雪の付着について ■パンクについて ■公道走行後の手入れについて ■駐車について ■駐車ブレーキについて ■駐車方法について ■格納について

雪の付着について

公道走行時、フエンダ一側に付着した雪が氷結し、次第に厚く積りハンドルが重くなる場合があります。ときどき異常のないことを確認してください。

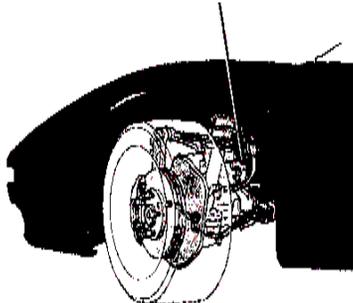
パンクについて

応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着することはできません。前輪には、後輪用タイヤチェーンを装着することはできません。

公道走行後の手入れについて

フエンダ一側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり(前、後輪の4か所)に車速感知装置が取り付けられていますので、傷をつけないように特に注意してください。

車速感知装置

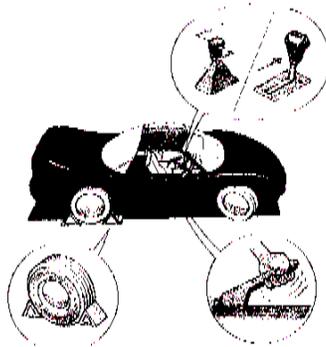


駐車について

落雪や積雪の中で、中の屋根などがへこむことがあります。駐車中するときは、軒下や樹木の下などには止めないでください。

駐車ブレーキについて

駐車するときは駐車ブレーキ装置の凍結を防ぐため、駐車ブレーキを使わないでください。マニュアル中はギヤを倒(後退)か1速に、オートマチック中はPに入れ、輪止めをしてください。



駐車方法について

屋外に駐車するときは、エンジンの冷えすぎを防ぐため駐車中の後部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなる場合があります。

格納について

長期間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。



- エンジン部を毛布で覆ったり、走行時にフロントグリル内側やエンジンルームのエアインレット内側に段ボールや、新聞紙をはさみ込んだりしないでください。これがもとで燃えだす危険があります。

サービスデータ

項 目		サ ー ビ ス デ ー タ	
*1点火プラグ	タ イ プ	NGK：PRR6B-II ND：PKPR6R-LII	
	電極のすき間 (mm)	限度値1.3	
発電機ベルト エアコンディショナー ベルト	た わ み 量 (mm)	12~14(10kgの荷重)	
	た わ み 量 (mm)	10~12(10kgの荷重)	
ブレーキペダル	遊 び (mm)	1~5	
	床板とのすき間 (mm)	108以上(踏力20kg)	
	カーペットとのすき間 参 考 値 (mm)	87以上(踏力20kg)	
クラッチペダル	遊 び (mm)	9~16	
	床板とのすき間 (mm)	92以上(クラッチが切れたとき)	
	カーペットとのすき間 参 考 値 (mm)	71以上(クラッチが切れたとき)	
駐車ブレーキ	引 さ し ろ	10~14ノッチ(操作力20kg)	
ウォッシャータンク	容 量 (ℓ)	2.5	
バッテリ	容 量 (Ah)	マ ー ュ ア ル 車	52
		オートマチック車	61
燃 料	使 用 燃 料	無鉛プレミアムガソリン	
	タンク容量 (ℓ)	70	

*1：●ISO(国際標準化機構)規格品を使用しています。(●)のマークがついています。

●白金プラグを使用していますので、次のことに注意してください。

- ・白金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤブラシ等による清掃は行わないでください。
- ・プラグギャップは調整できません。限度値をこえているものは交換してください。(清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。)

項 目		サービステータ
エンジンオイル	交換時期	10,000km [※] または6か月以上のどちらか早い方
	推奨オイル	ホンダ純正オイルウルトラ110(4サイクル四輪専用、API S3C級、10W-30)またはホンダ純正オイルウルトラGX(4サイクル四輪専用、API S3F級、10W-30)
エンジンオイル フィルター	規定量 (ℓ)	4.3(オイル交換時)、5.0(オイル、オイルフィルター同時交換時)
タイミングベルト [※]	推奨交換時期	20,000kmごと
	交換時期	100,000kmごと
トランスミッション オイル	推奨オイル	マニュアル中 オートマチック中 ホンダ純正 A11F
	規定量 (ℓ)	マニュアル中 オートマチック中 2.7 (交換時) 2.9 (交換時)
	推奨交換時期	2年ごと(第1回1-3年)
	指定液	ホンダ純正ウルトラジエータ液
冷却水	規定量 (ℓ) (多量時はクスパンション) (ホンダ純正専用)	50%
	規定量 (ℓ)	12.0
ブレーキ液	指定液	ホンダ純正ブレーキフルード DOT 3 または DOT 4
クラッチ液	指定液	ホンダ純正ブレーキフルード DOT 3
エアクリナー エレメント	推奨交換時期	40,000kmごと
電球 (バルブ)	W(ワット)/CP(キャ ンドルバルブ)数 (CP(キャンドルバルブ) : 光度の単位)	前照灯(ハロゲンバルブ) 12V - 55W
		補助前照灯(ハロゲンバルブ) 12V - 55W
		前面方向指示灯/前面非常点滅表示灯 12V - 21W
		中軸灯 12V - 5W
		側面方向指示灯/側面非常点滅表示灯 12V - 5W
		後面方向指示灯/後面非常点滅表示灯 12V - 45CP(27W)
		書き灯 12V - 8W
		制動灯/尾灯 12V - 21/21W
		後退灯 12V - 21W
		室内灯 12V - 5W
		ドア開閉灯 12V - 3.4W
		トランク照明灯 12V - 3.4W
		足元照明灯 12V - 3.4W

※2: 推奨交換時期は、運転席ドア開口部のラベルにも表示してあります。

このラベルには、交換時期とそのときの走行距離が記入されています。

サービスデータ

項目		タイヤ空気圧 (空車時：kg/cm ²)				*リムサイズ	タイヤの 残溝の深さ (mm)
		前 輪		後 輪			
タイヤサイズ		一般	高速	一般	高速	アルミホイール	
標準タイヤ	205/50ZR15	2.3					
	225/50ZR16			2.3		16×8JJ	
折りたたみ式 応急用スペア タイヤ	165/80D15FS	1.8		2.3		15×4J	

※：この中で専用のタイヤ、ホイールをお使いください。

専用以外のタイヤ、ホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。

タイヤまたはホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。

ア

足元照明灯
 電球の交換119
 W(ワット数)149
 アルミホイール140
 アンチロックブレーキ
 装置について79
 液量38・126
 警告灯55
 液の補給133
 アンテナ97

イ

イグニッション(エンジン)
 キー30
 スイッチ57
 イルミネーションコントロール62

ウ

ウィンドウ32
 ウォッシャー液
 スイッチ61
 補給132
 冬期の整備141
 タンクの容量148
 運行前点検36

エ

エアクリーナーろ紙部
 (エレメント)136・149
 エアコン
 使いかた85
 スイッチ86
 手入れ140
 ベルト140・148
 熱交換器141
 冷媒量141
 エアコンプレッサー110
 エクспанションタンク39・132
 AM/FM一体式
 CD・カセットステレオ88

ALB
(アンチロックブレーキ)参照
 SRSエアバッグシステム
 装置について78
 警告灯54
 エレクトリックパワーステアリング
 警告灯54
 エンジンオイル・フィルター
 交換時期149
 オイル量39・129・149
 補給131
 冬期の整備141
 エンジンキー(キー)30
 エンジンスイッチ57
 エンジンのかけかた64
 エンジンブレーキ17・71
 エンジンルーム34

オ

オイル
 エンジン
(エンジンオイル)参照
 フィルター149
 トランスミッション
135・149
 応急用スペアタイヤ
 スペアタイヤについて108
 空気圧41・127
 サイズ41・127
 オートアンテナ97
 オートエアコン85
 オートドアロック30
 オートマチックトランスミッション
 運転のしかた69
 オイル135・149
 セレクトレバー67
 オドメーター51
 オーバーヒート115
 温度感知装置87
 温度調節ダイヤル85

カ

カーテシーランプ
(ドア閉閉灯)参照
 格納147
 カセットプレーヤー90
 ガソリン(燃費)参照
 ガラスアンテナ97
 換気14
 寒冷時の取り扱い145

ク

キー30
 キーインターロック57

コ

曇り止め85
 クラッチ
 ベダル128・148
 液の補給135・149
 クルーズコントロール
(自動定速走行装置)参照
 グローブボックス100

ケ

計器類(メーター)50
 警告灯
 警告灯類52
 電球切れの点検56
 経済走行144
 化粧鏡100
 けん引106



工具	104
後写鏡	
点検	42
使いかた	47
後退灯	
点検	40・130
電球の交換	118
W(ワット数)	149
故障	105
小物入れ	100
コンソールボックス	100

サ

サービスデータ	148
サンバイザー	100



シート	44
シートベルト	13・45
シガレットライター	99
室内灯	
使いかた	98
電球の交換	119
W(ワット)類	149
自動定速走行装置	
作動表示灯	52
使いかた	73
シフトロック装置	22・67・70
錠取り・曇り止め	
前面/側面ガラス	85
車速連動パワードアロック	31
ジャッキ	108
車幅灯	
点検	40・130
電球の交換	117
W(ワット)数	149
充電警告灯	53
樹脂塗装部品	138
純正部品	144
上下/前後調節式ハンドル	46
照明灯	
エンジンスイッチ	99
足元	99
トランク	119
触媒装置	53



水温計	51
スイッチの使いかた	57
スノータイヤ	145
スパークプラグ(点火プラグ)	148
スピードメーター	50
スペアタイヤ	
(応急用スペアタイヤ)参照	



セーフティインジケータ	56
制動灯	
点検	40・130
電球切れ警告灯	56
電球の交換	118
W(ワット)数	149
整備	131
積雪・寒冷時の取り扱い	145
セレクトレバー	
ポジション表示灯	53
操作	67
洗車	138
前照灯	
点検	40・130
上向き表示灯	52
昇降スイッチ	59
昇降しないとき	120
スイッチ	58
上向きと下向きの切り換え	59
追越合図(バッシング)	59
W(ワット)数	149
昇降装置警告灯	56
センターバイザー	100



速度警報装置	50
速度範囲	66・68

タ

ターンシグナル
 ……(方向指示器)参照

タイヤ
 応急用スペアタイヤ ……108
 空気圧 ……41・127
 点検 ……41・127
 交換 ……109
 位置交換(ローテーション) ……138
 チェーン ……145
 スノータイヤ ……145
 サイズ ……41・150

タコメーター……50

暖房……85



チェーン ……145

チェンジレバー……66

駐車
 坂道……24
 オートマチック車……72
 積雪、寒冷時 ……147

駐車ブレーキ
 点検……43・125・148
 警告灯……54
 操作……64
 積雪、寒冷時の取り扱い ……147

デルトステアリング……46



ツール(工具) ……104



TCS ……(トラクション
 コントロールシステム)参照

テールランプ……(尾灯)参照

デフロスター
 ……(霜取り・曇り止め)参照

点火プラグ ……148

電球
 交換 ……117
 W(ワット)数 ……149

点検
 運行前点検……36
 6か月点検 ……123

テレスコピックステアリング……46

電圧計……51

電動リモコン
 ドア/フェンダーミラー ……47



ドア
 施錠・解錠……30
 開閉警告灯……56
 積雪、寒冷時の取り扱い ……146

ドア開閉灯
 電球の交換 ……119
 W(ワット)数 ……149

ドアミラー……(後写鏡)参照

灯火装置 ……40・130

冬期の整備 ……141

時計……98

塗装の手入れ ……138

トラクションコントロールシステム(TCS)
 装置について ……79
 OFF表示灯 ……55
 作動表示灯……55
 警告灯……55
 スイッチ……62

トランク
 開閉……33
 開閉警告灯……56

トランク照明灯
 電球の交換 ……119
 W(ワット)数 ……149

トランスミッションオイル
 補給 ……135
 容量 ……149

トリップメーター……51

ナ

内外気切り換えスイッチ……85

内装の手入れ ……139

ナンバープレート……40



熱交換器 ……141

燃料

使用燃料 ……35・148

補給口……35

タンク容量 ……35・148

量の点検……43

燃料計……51

残量警告灯……53

八

パーキングブレーキ(駐車ブレーキ)参照
排気温警告灯53
灰皿99
ハイビーム表示灯52
ハザードランプ(非常点滅表示灯)参照
発炎筒105
バックミラー(後写鏡)参照
バックランプ(後退灯)参照
バッテリー	
バッテリーあがり114
液量129
液の補給134
充電114
端子部の清掃134
冬期の整備141
容量148
発電機ベルト39・130・148
パニティーミラー100
バルブ(電球)参照
パワーウィンドー32
パワードアロック30
バンク	
バンクしたとき108
積雪、寒冷時の取り扱い147
番号灯	
点検40・130
電球の交換119
W(ワット)数149
反射器40
ハンドル40



PGM-FI警告灯53
ヒーター85
非常点滅表示灯	
スイッチ60
電球の交換117・118
W(ワット)数149
尾灯	
点検40・130
電球の交換118
W(ワット)数149
ヒューズ116
表示灯類52



ファンスピード調節ダイヤル86
フェンダーミラー(後写鏡)参照
フォグライトスイッチ63
吹き出し口開閉ダイヤル84
吹き出し口切り換えボタン86
フューエル(燃量)参照
プラグ148
ブレーキ	
パッドの摩耗警告60
倍力装置16
きき具合125
液量38・126
ペダル43・125・148
警告灯54
液の補給133・149
積雪、寒冷時の取り扱い146
ブレーキランプ(制動灯)参照



ヘッドライト(前照灯)参照
--------	--------------



ホイールサイズ150
ホイールの交換について113
防眩式室内後写鏡47
芳香剤139
方向指示器	
点検40・130
表示灯52
スイッチ60
電球の交換117・118
W(ワット)数149
ポジションランプ(車幅灯)参照
本革の取り扱い139
ホンネット33



マ

窓ガラスアンテナ……………97
 マニュアルトランスミッション
 運転のしかた……………66
 オイル……………149
 チェンジレバー……………66
 マーのとき……………103

ミ

ミラー……………(後写鏡)参照

ム

無線装置……………27

メ

メーター……………50

モ

油圧計……………51
 油圧警告灯……………53

ラ

ライセンスランプ……………(番号灯)参照
 ライト消し忘れ警告ブザー……………58
 ライトスイッチ……………58
 ライト類が点灯しないとき……………116
 ラジエーター……………(冷却装置)参照
 ラジエーター液……………(冷却水)参照
 ランプ……………(電球)参照

リ

リザーバータンク
 ブレーキ液……………38・126
 クラッチ液……………135
 リムサイズ……………150
 リモートコントロール
 ドア/フェンダーミラー……………47
 リヤウィンドー閉閉警告灯……………56
 リヤデフロスター……………62

ル

ルームミラー……………(後写鏡)参照
 ルームランプ……………(室内灯)参照

レ

冷却水
 水量……………39・130・149
 補給……………132・149
 冬期の整備……………141
 交換時期……………149
 冷却装置……………38
 冷媒量……………141
 冷房……………85
 レザークリーナー……………139
 レザー……………(本革の取り扱い)参照

ロ

6か月点検……………124

ワ

ワイパー
 スイッチ……………61
 ブレードラバーの交換……………137
 積雪、寒冷時の取り扱い……………146
 ワックスがけ……………138

お問い合わせ、ご相談はお買い求めのベルノ店もしくは全国共通のフリーダイヤル0120-112010^{イフレイブ}で下記のお客様相談部がお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談部
〒107 東京都港区南青山2-1-1

地 区	郵便番号	所 在 地
札 幌	065	北海道札幌市東区本町2条10-2-29
仙 台	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
東 京	107	東京都港区南青山2-1-1
名古屋	454	愛知県名古屋市中川区五月通4-22
大 阪	572	大阪府寝屋川市池田中町2-12
福 岡	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。